令和２年度文化庁委託事業

# 「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」

（撮影所等における映画関連の非フィルム資料）

# 報告書

令和2年度文化庁委託事業

# 「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」
## （撮影所等における映画関連の非フィルム資料）
# 報告書

目 次


第１章　事業概要 ——— 03

第２章　事業報告 ——— 07

2-1　第1回検討委員会 ——— 08

2-2　現地実態調査 ——— 15

映画資料の所在に関する情報収集（調布市立中央図書館） ——— 15

映画資料の所在に関する情報収集（調布市郷土博物館） ——— 24

映画資料の所在に関する情報収集（日活調布撮影所） ——— 27

映画資料の所在に関する情報収集（角川大映スタジオ） ——— 30

2-3　実証実験報告（デジタルアーカイブ） ——— 34

松竹大谷図書館 所蔵資料 ——— 34

東映太秦映画村・映画図書室 所蔵資料 ——— 44

2-4　映画資料所在地情報検索システム（JFROL） ——— 49

2-5　「全国映画資料館録2020」の作成 ——— 58

2-6　全国映画資料アーカイブサミット2021報告 ——— 80

2-7　第2回検討委員会報告 ——— 83

第３章　事業総括 ——— 91

# 第１章　事業概要

# 【実施概要】

## 第１部：事業の目的について

本事業は、文化関係資料のアーカイブ化推進において中核となる大学や所蔵館、機関などを拠点化し、一定期間集中的に事業に取り組むことによって、当該拠点を中心としたアーカイブ整備を効率的かつ効果的に促進することを目的としている。

本年度事業も、映画資料を対象として、歴史的・文化的価値のある貴重な文化関係資料が散逸・消失することのないよう、アーカイブの構築に向けた資料の保存および活用を図るための望ましい仕組みの在り方について調査研究などを行う。さらに映画資料のアーカイブに係る中核拠点の形成を図るため、当該分野のネットワーク化を推進することにより、分野全体のアーカイブの構築・運営や共同利用の促進などを行うことを目的とする。

昨年度（令和元年度）の事業成果を踏まえ、本年度は調査対象地域を関西から関東に拡大し、現地で制作された映画資料などの所在などを調査するほか、映画資料に係るデータベースの管理・運用・利活用などの調査研究を実施する。

## 第２部：事業内容について

京都を始めとする関西から関東に対象地域を広げ、映画資料のアーカイブに関わる中核拠点を形成するため、本事業の中核となる各団体と連携し、ネットワークの構築、情報交換を行うほか、利活用に関する調査研究、実証研究を検討する。

### （１）実施方針

映画資料のアーカイブに関わる中核拠点を関東に拡大し、拠点形成のためのネットワークの構築など、以下の業務を実施する。

### （２）検討委員会の設置・運営

検討委員会において、本事業で取り組むべき事業方針や課題の抽出、映画資料の利活用方法など、実施業務における助言などを行う。年２回開催し、必要に応じてオブザーバーを加え体制を整える。専門分野における課題が生じた場合は必要に応じて分科会を別途開催する。

### （３）調査研究などの実施

#### ①映画資料の所在に関する情報収集

・関東調布地区の所在調査（現地調査）

関東の映画産業関連施設の一大拠点である調布地区の撮影所や映画資料所蔵施設などを対象に、所在情報のヒアリング調査、集中調査、データベースの実態調査を行う。

調布市は二つの撮影所を有する地域として映画関連産業が集約され、映画文化が市の歴史と発展に大きく関係してきた背景を持つ。近年も「映画のまち調布　シネマフェスティバル」を、調布市と公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団による共催、地域の映画関連組織などから成る委員会により、運営･開催し、イベントのみならずプラットフォームとしての機能を目指した取り組みを行っている。今年度本事業において日本映画史研究者による監修のもと映画資料を所蔵する複数箇所を横

断的に調査することにより、所在情報の調査のみならず所蔵元同士の連携を目指した中核拠点化の可能性を模索する。

**・「全国映画資料館録 2020」の作成**

「全国映画資料館録 2015」（東京国立近代美術館フィルムセンター編）をもとに、国立映画アーカイブとともに「全国映画資料館録 2020」を新たに作成し、掲載館には「全国映画資料アーカイブサミット 2021」「映画資料所在地情報検索システム（JFROL）」の周知を図る。

**②「映画資料所在地情報検索システム（略称：JFROL）」の構築とデジタルアーカイブ実証研究**

※前年度事業では「映画資料所在地情報検索システム（NFA：仮称）」と紹介

**・「映画資料所在地情報検索システム（JFROL）」のベータ版の構築と公開**

前年度本事業にて実施された「映画資料所在地情報検索システム（JFROL）」と東映太秦映画村データベースとの連携実証実験を受け、JFROL ベータ版を構築し、限定的に公開して機能検証を行う。

**・JFROL を活用したデジタルアーカイブ実証研究**

JFROL において、東映太秦映画村及び松竹大谷図書館に所蔵されている映画資料のデジタルアーカイブ化を行い、JFROL にデジタル素材を搭載し、限定的に公開した利用者に機能調査を行う。

## （4）成果報告

上記（3）の調査研究成果を広く公表する。また、映画資料に係る映画関係者、学識経験者、学芸員などを集めた「全国映画資料アーカイブサミット 2021」を開催し、成果報告の場とするとともに、国内ネットワーク拡大を推し進める。

**・「全国映画資料アーカイブサミット 2021」の開催**

前年度本事業で開催した「全国映画資料アーカイブサミット 2020」をもとに、映画資料に係る様々な課題の共有と議論、映画関係者や学識経験者、学芸員のネットワークの拡大と深化、「映画資料所在地情報検索システム（JFROL）」の実証実験の拡大を目的として、「全国映画資料アーカイブサミット 2021」を開催する。映画資料について、多角的視点に立ったセミナー・シンポジウムを実施し、さらなる基礎知識の習得と全国の映画資料所蔵館のネットワーク化の向上を図る。

【参考】令和元年度「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」業務内容

▶現地調査
- 神戸映画資料館（所蔵映画資料調査、データベース調査）
- 東映太秦映画村（所蔵映画資料調査、データベース調査）
- 松竹大谷図書館（所蔵映画資料調査、データベース調査）

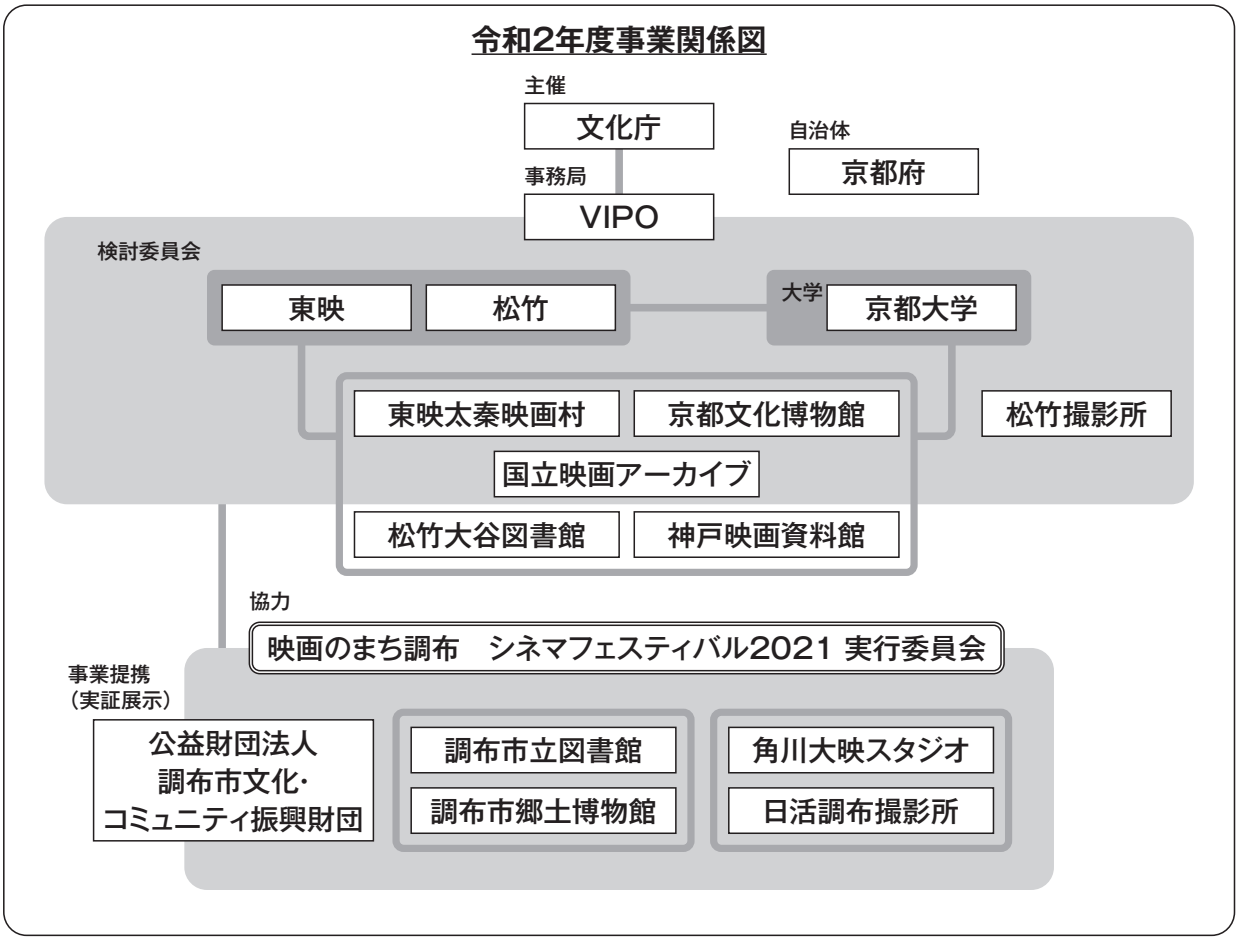
▶分野共通資料整理・データ化手法の構築
- 全国映画資料館データベース　アンケート集計
- 東映太秦映画村新データベース構築開発
- 映画資料所在地情報検索システム（JFROL）実証実験

▶実証研究
- 松竹大谷図書館が所蔵する映画スクラップのデジタル化実証実験
- 松竹大谷図書館が所蔵する映画スクラップのデジタル化に伴う保存修復手当

▶全国映画資料アーカイブサミット 2020

# 第 3 部 : 事業関係機関について

日本の映画文化を発信するため、産学官が連携して映画資料のアーカイブ中核拠点を形成し、映画資料の所在情報を収集、自立した活用方法を研究・構築する。また、関西及び関東の所蔵館と連携を図り、映画資料のデジタルアーカイブ化の実証研究に取り組む。本年度は、新たに関東に中核拠点形成のためのネットワークの構築などを図る。



# 第２章　事業報告

# 第１回検討委員会

**第１回検討委員会**
**【日程】**令和２年７月22日（水）
**【場所】**東京会場：文化庁会議室
京都会場：文化庁地域文化創生本部会議室

**【出席者】**
**検討委員：**
山口　記弘　（株式会社東映京都スタジオ特別顧問）
堀口　政浩　（東映株式会社執行役員経営戦略部長グループ戦略室長アーカイブ・スクワッド担当）
永島　聡　（株式会社松竹撮影所京都製作部部長）
井川　透　（松竹株式会社映像本部映像素材管理スタッフ部長）
木下　千花　（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）
板倉　史明　（神戸大学大学院国際文化学研究科准教授）
森脇　清隆　（京都文化博物館学芸課映画情報室長）
岡田　秀則　（独立行政法人国立美術館国立映画アーカイブ主任研究員）
中村　秀之　（立教大学現代心理学部映像身体学科教授）
福井　健策　（骨董通り法律事務所弁護士（日本・ニューヨーク州）日本大学芸術学部客員教授）

**オブザーバー：**
髙橋　剣　（東映株式会社京都撮影所スタジオ事業部長製作部美術センター室長）
吹田　慎一　（京都府 商工労働観光部 ものづくり振興課 副課長補佐兼係長）
丸山　倫　（京都府 商工労働観光部 ものづくり振興課 副課長主事）
丸田　実穂　（京都府 商工労働観光部 ものづくり振興課）

**文化庁：**
戸田　桂　（文化庁参事官（芸術文化担当）付芸術文化調査官）
榛村　篤子　（文化庁参事官（芸術文化担当）付映画振興係長）
不破　佑太　（文化庁参事官（芸術文化担当）付映画振興係）
森　孝平　（文化庁地域文化創生本部事務局）

**事務局：**
特定非営利活動法人映像産業振興機構
三村　朋之　（株式会社角川アスキー総合研究所 経営管理部 主任研究員）

**堀口：**東映太秦映画村では映画図書室が今年７月に開室いたしました。今後は検索システムへの画像データ入力を予定しております。昨年、東映の経営戦略部内に映像資産の保全を目的にアーカイブ・スクワッドを新設し、過去作品の4Kスキャニングを本格的に開始いたしました。１年を経て相当量のデータが蓄積されましたが、データテープに保存しているため、すぐに再生できないので、８月よりテスト的にSNSに上げてみることにいたしました。生データでそのままアップしますので、フィルムを知らない世代にとっても新鮮に受け止められるかなと思っています。将来的には閲覧システムに予告編を搭載するなど、拡張した利用を勝手に構想しています。また、本事業での調査先として予定されている調布地区にある、東映ラボテックの倉庫において、以前寄贈を受けた映画資料（推定1,000作品分）の整理作業を行う予定です。

**井川：**前年度は松竹グループとして、松竹大谷図書館におけるデジタルアーカイブ化事業に参加し、松竹京都撮影所作品を中心に充実した事業が行えました。今年度もぜひ参加したいと思っていますし、今年度調布地区の調査にあたるのであれば、松竹大谷図書館では多く所蔵する松竹大船撮影所時代の作品もデジタル化を希望しているため、貢献できるのではないかと思っています。

「映画資料所在地情報検索システム」について、昨年度は東映太秦映画村と松竹大谷図書館が実証実験で連携したので、今年度は他の図書館が参加に前向きになってほしいと思います。将来的には検索エ

ンジンをつけ活用できるよう発展してほしく、それに対し弊社としても松竹大谷図書館としても協力したいと思っています。

**岡田：**事業3年目にして調布地区への調査展開は非常に良い流れにあると思います。調布地区は複数の拠点があるため多元的に調査すべきで、そこが新たな課題であり、また撮影所の関与も検討すべきと思います。

「全国映画資料アーカイブサミット2020」は参加者数が約200名と成功をおさめましたが、映画資料所蔵館の参加数に伸びがないことが気になります。主要資料館は学芸員が参加していますが、最も知識と支援が欲しいはずの中・小規模の参加が少なく感じました。今年度の事業展開の中での参加呼びかけや、「全国映画資料館録2020」作成時においてネットワークを強化すべきと考えます。また前回コロナのため実施できなかった実践編を、オンラインにていかに実現するか要検討と思います。

「全国映画資料館録2020」編集発行に関しては、以前は国立映画アーカイブが行っていたものを本事業に入れ込めたということで、発展が喜ばしく、充実したものとしたいと考えています。

**中村：**今年度事業で行う調布地区調査について、以前学生による調布市立図書館の調査を行ったことがあり、その際は出版物だけでなく撮影所の内部資料も保存されていました。図書館以外にも日活調布撮影所や角川大映スタジオなどが、どのような資料をどういう形で所蔵されているかについて調査することが、重要と考えております。

映画資料の「あるはずだが見つからない」「もしかするとあるかもしれない」という、資料の散逸・消失を防ぐことが望ましく、この事業で視野に入れるべきと考えます。

**福井：**「映画資料所在地情報検索システム」はメタデータが中心ですが、その先にコンテンツ配信や商用につながる形で開発を視野に入れることも重要になっていくと思います。そうなった時、権利の壁が大きな障害になります。資料はあるが権利者が見つからないため表に出せないということも日々直面するだろうと思います。その中で私が接している今の動きをご紹介します。

まず所在情報の検索のために、既存の資料をデジタル化、データベース化することは、すでに著作権法の改正（第30条の4、47条の5）によって可能です。加えて図書館、博物館、美術館では、市場で入手困難な絶版資料などのデジタル化が可能です。さらに国会図書館のシステムを通すと、全国の図書館、博物館などに配信可能にはなっていますが（第31条3項）、書籍以外でほぼ利用されていない現状です。今期文化審議会では、図書館などのワーキングチームが立ち上がり、この部分をさらに使いやすい制度にするための議論がなされる予定です。

もう一つはやはり権利者不明の問題です。オーファンワークスに関しては文化庁裁定が解決策です。事前供託金が、国、自治体、独立行政法人以外ではまだ必要で、この供託金の事前確定が大変手間のかかる作業になっています。この制度の見直しも、今後俎上に上がってくると思います。

最後は肖像権です。これは法律すらないので、解決もなかなか容易ではありません。多くの映画資料はおそらくアーカイブ利用なら心配がいらないものが多い。例えばプロの俳優などが仕事として撮られたものについては、恐らく肖像権の心配はあまりしなくて良いですが、俳優でも撮影中のスナップ写真や一般人が登場するような場合は肖像権が壁になります。現在ガイドラインの議論がデジタルアーカイブ学会の方で進められています。

**事務局：**ご指摘いただいた分野に関して、本事業へは幸い東映様、松竹様などIPホルダーにご参加いただいており、進みやすい環境はできていると思います。権利の所在を慎重に判断しながら進むことができるのではないかと思っています。

**山口：**東映太秦映画村の映画図書室は、メディアに取り上げていただいたこともあり問い合わせも来ています。検索システムも従来のシステムより非常に便利に改善されたと思います。過去に弊社で登録したデータの誤字については修正が必要ですが、検索システムで字句が違っても他の言葉で検索するとヒットするため非常にありがたいです。

「全国映画資料アーカイブサミット2020」では福井委員の著作権に関するセミナーが非常に参考になりました。法律は更新されますので毎年お話を伺えたらありがたいですし、できるだけ多くの実際に資料に携わる方々に伝われば良いと思います。

**永島：**松竹撮影所もコロナ禍の影響に直面していて、無形の映画資料、例えば殺陣・立ち回り・所作や、あるいはカツラといった資料、ノウハウなど現在進行形の財産の保存管理が大きな懸念です。こういう分野でできることは限定されると思いますが、アーカイブの力を発揮する可能性もあるかもしれません。また事業初年度から議題に出ていましたが、京都を拠点とした元スタッフや製作者が私物として所有している資料を発掘するのも大変な作業と思います。それらが発掘できる最後のチャンスだと思いますので、検討材料にできるのではないかと思いました。

**森脇：**永島委員からお話がありましたように、京都にはアーカイブ対象から抜け落ちがちな資料の種類が多くありますが、博物館もなかなか動けない状況でした。今回東映太秦映画村の資料が図書室という形で一般公開までこぎつけられたことは大変素晴らしいと思います。京都ヒストリカ国際映画祭では製作過程の資料が発掘された長編アニメーション映画『白蛇伝』の関係者の方にお話していただいて、復元映像を上映させていただきました。

今年は『羅生門』の展覧会を国立映画アーカイブ、VIPOと一緒に開催準備をしております。我々は、映画資料をいかに楽しく見せていくかということも今年の一つの課題と考えています。データベースは現状研究者がユーザー対象とした形になっていますが、映画製作者にも活用していただきたいため、いかにデータベース化すべきか検討しなければならないと考えています。

**木下：**本事業と産学官連携のプロジェクトによって非常に使いやすいデータベースができ、成果が上がったと喜びを感じています。私も映画資料を利用する研究者として参加しましたが、京都大学の大学院生も東映太秦映画村での事業に参加する中で学び、かつ専門知識で協力することができて、教育者としても非常に有益な機会をいただけたと思っています。

私は今年6月にアメリカより帰国しましたが、研究資料、書籍、様々なもののデジタルデータへのアクセスが、日本とアメリカで大きな差があると思いました。日本では若い研究者の資料へのアクセスが限定され、コロナ禍で研究が滞っているという話をしばしば耳にします。この対応がますます重要になってくるのではないかと思いました。

映画図書室には主に東映太秦映画村が文化事業として集めた映画関係の書籍や脚本が多く、東映京都撮影所に限らない多様な資料があります。関西圏では一般の方がアクセスできる非常に便利な、関東圏でいう早稲田大学の演劇博物館に近い役割を担えるような、広範な蔵書と資料の貯蔵が特徴と思います。

しかし作業する中で気がついたこととして、内部資料が発見されてはいるものの、公開を行う判断は映画図書室によるものでは必ずしもないということです。脚本を中心に貴重なものがありますが、やはり映画会社の方に伺うと内部資料は公開できないこともあるようです。例えばアメリカ史の分野では、それらの資料が研究の大きな土台になってきました。ある意味で会社は公器なので、アメリカではある程度はアクセスできるのはないかと思います。研究者として、企業の内部資料の扱いが今後どうなっていくか、とりわけ今年度は本事業が日活多摩川撮影所のあった調布にスコープが広がるということで関心を持っています。

**板倉：**東映太秦映画村・映画図書室開館について、研究者にオープンな場が京都に開かれたことは画期的と思います。本事業はこれまで資料の発掘、保存、修復方法、利活用について様々な実証実験を行ってきており、アイデアが広がっていると感じています。今年度はさらに映画の小道具などについても、映画資料のカテゴリーの一つとして活用を模索するということで期待しています。

全国の資料館や図書館が、資料をどのように保存・活用すれば良いのか知りたいというニーズがたくさんあることがこの2年でわかったと思います。その方々に対して保存・修復・管理の方法をマニュアル化し、インターネット上で公開する教育普及的なコンテンツがあれば、本事業がより広がるかもしれないと思います。

コロナ禍でいわゆるサブスクリプション型視聴で映画を楽しむことがこれまで以上に普及していますが、一つの利活用の可能性として、資料のデジタルデータをサブスクリプション型サービスの価値を高めるものとして活用できないか。例えば自宅で映画を観た後にシナリオを見直すことができるような活用ができないかと思いました。

最後に、先ほど東映ラボテックのお話がありましたが、私は以前東京国立近代美術館フィルムセンター（現・国立映画アーカイブ）で働いており現像所との繋がりが非常に密だったので、映画資料の一つとして、現像所の資料や機材も積極的に収集・保存・利活用の対象にしていただきたいと思います。各現像所は独自の技術を持っていて、それぞれの場所で歴史や特徴があります。映像の質を最終的に決める重要な場所だと思いますので、将来大きな映画博物館のようなものができるとしたら現像所のコーナーも作らなくてはいけません。可能性として対象にできればと思います。

**事務局：**東映太秦映画村には撮影所にあった資料を中心に、各社の撮影所の資料が蓄積されています。その場合「企業内資料」の境界線が曖昧で、調査対象のスコープをどう考えるかという課題があります。

**堀口：**私も制作段階の資料を見ることがあります。東映太秦映画村の所蔵資料は他社含め基本的に公表されている宣材物が中心ですが、研究者の方々にご興味を持っていただけるものが「企業内資料」になると思います。ただ、こういったものは古い作品であれば公開しても良いかというと判断は難しいです。対象作品を決めて調査するなど、制限があればご協力ができるかと思います。

**岡田：**各社事情に従って進めるべきと考えますが、アメリカの場合テキサス大学のハリー・ランサム・センターにあるデヴィッド・O・セルズニック資料や、20世紀フォックスの本社が社内資料を公開しているなど、歴史化した事実については公開して良いと判断をしている会社は確かにあります。ただしそれらも事情に沿って、分けて判断をしています。将来に向けてはそういったことを考えても良いのではないでしょうか。

**福井：**確かに公表・非公表の問題はあります。放送台本を10万点ほど収集し国会図書館ほかで保管する「日本脚本アーカイブズ」というプロジェクトに携わっていますが、まず放送台本は公表著作物なのか非公表著作物なのかという最初の壁がありました。仮に保有していた放送局が公開に承諾したとしても、非公表作品となると著作者人格権というものがあり館内展示すらできない可能性が出てきます。台本に基づいて作られたテレビ番組は公開されていて、また台本も100部程度が関係者に配られるという聞き取りに基づき、公表著作物と判断することになりました。権利者団体や放送局などのステークホルダーで立ち上げた検討委員会の場で、こうした

考えを打ち出すことで乗り越えられました。こうした収集では、まずは保管者の公表可否の判断が関門で、そこには色々な政治的判断や人間模様もありますし、法的にも先ほどのように課題を関係者で共有して乗り越えていく場を作ることが必要と考えています。理論上公表著作物とみなすと考えられると、色々な著作権法の例外規定で教育利用でき、所在検索も可能になります。しかし公表作品かを乗り越えられない場合、著作権法の例外規定はほとんどが公表著作物を前提としていて、一気にダークアーカイブになりかねないため大きな課題だと思います。

**岡田：**コロナ禍で映画資料の整理がされることで、眠っていたものが世の中に出てくるきっかけにもなるのではと思っています。インドでは映像作家のサタジット・レイの遺族がロックダウン中に家の掃除をしたら、レイ監督の貴重な資料が山ほど出てきたそうです。このタイミングで日本の映画人や親族が資料整理をすることがあれば、新しいものが出てくるのではないのでしょうか。

**福井：**良いポイントだと思いますが、逆にその際に捨てられてしまう危険性もあるため、呼びかけが大事です。早稲田大学の演劇博物館はコロナ禍で中止になった演劇公演の資料を送ってもらうようホームページで呼びかけました。公演中止や経営危機のため、一斉廃棄されることを危惧してのようです。

**岡田：**そこで問題なのが、現有の資料館の収蔵能力を超える量が出てくる可能性があることです。当館ではひとまずそのまま受領はしますが、寄贈手続きのリスト化ができないために正式な所蔵品になっていない資料の数が膨れ上がっています。今ならではの課題として認識した方が良いと思います。また昨年水害に遭われた川崎市市民ミュージアムに関しては現在もレスキュー中で、まだ時間がかかりそうです。

**福井：**「日本脚本アーカイブズ」の放送台本も23,000冊ほど川崎市市民ミュージアムにあり、浸水被害は免れましたが、館自体が物を置ける状態でなくなってしまった。日本大学芸術学部所沢キャンパスの図書館でレスキュー的に所蔵いただけることになりましたが、置き場所は大問題です。

**山口：**映画図書室を開館したためOBから寄贈について連絡が入ることもありますし、会合などでお声掛けをすれば集まると思います。スペースについて、全てを受け入れると厳しくなるのですが、京都の大学機関など協力のネットワークを作ることができれば理想的と思っています。受け入れ後の管理の問題もありますが、支援の輪が広がっていくと嬉しく思います。

**森脇：**当館における研究者によるコロナ禍での資料閲覧について、閲覧のたびに資料を消毒すべきか、多様な種類の資料があるため、今後考えていくべきと思いました。

**岡田：**図書館一般で言うと、外国の図書館協会がコロナ禍での利用者や取り扱いガイドラインを設けていて、日本の図書館協会も参考にしています。資料を通じた接触感染を防ぐため人が触れた資料を別場所に1日隔離するなど対策をしているところもあり、国立映画アーカイブの図書室でも実施しています。

**福井：**政府のコロナ対策室が業界ごとにガイドラインのリンク集を発表していますが、政府が作ったひな型を少しずつアレンジした程度になっていて、今お話にあったような細かいところまでカバーできてないかもしれない、現場ごとの工夫が非常に大事だと思いました。

**岡田：**映画資料をどう集め、カタログ化し、提供するかに関して、提供する側としては多少不遜な言い方かもしれませんがまずユーザーになる方々を育成しなければいけないのではないでしょうか。例えば大学の場合教員が学生に場を提供し、活用の認識を広げていかなければ、未来の利用者が先細りしていくでしょうし、戦略作りが必要かと思います。例えば神戸映画資料館における高校生に整理を手伝ってもらった例のように、一般市民の方々に映画資料に気づいて親しんでもらう事業展開も今後必要なのではないかと思います。

**木下：**映画に興味がない人が映画資料に興味を持つことは難しいと感じます。東映太秦映画村では、修学旅行生などに映画自体に興味を持ってもらい、その中で写真などを中心に資料も紹介する形を取っています。

**岡田：**本質的にはそこだとは思います。ただ映画に

親しんでいる人と興味がない人の中間層もかなりいて、面白がって見てくれる人もいるのではないかと思います。最近では映画のパンフレット文化を盛り上げようとしている方々がいます。

**板倉：**岡田委員が紹介された神戸映画資料館のイベントですが、地域の方々に整理をしてもらいつつ楽しんで触れてもらいながら、資料館にとっても有益なプロジェクトとして数年前から実施しています。学校の授業の一環は別として、大半の参加者は元から映画に興味を持つ人たちであって、そのあたりは課題としてあると思います。例えばインターネット上に5分程度のPR動画を公開するなど、興味を持つきっかけになるような広報的活動も必要ではないかと思います。

**事務局：**裾野を広げる戦略に関して、本年度作成予定の「全国映画資料館録2020」は図書館を視野に入れます。

**岡田：**公共図書館が所蔵する映画資料の鉱脈を掘り当てることはとても興味深く思います。確かに図書館で映画にまつわる資料展示をよく見かけます。私の方へも、図書館から何度か、どこまで自由に資料展示をして良いのか問い合わせを受けたこともあります。所蔵品やコレクターの許諾を受けているものに関しては大丈夫と答えているのですが、問題ないですよね？

**福井：**所蔵している公表物であれば問題ないと思います。

**岡田：**問い合わせは以前より増えています。映画会社の迷惑にならない範囲を気にされる方は多いので、整理した方が良いと思います。

**福井：**実物に触れたり、その場に行くことは非常に大事かと思いますが、今年は初等・中等・大学などの教育機関でのオンライン講義元年とも言えます。著作権法も改正され、基本的には権利処理なしでオンライン講義で幅広い著作物を利用可能になりました。本事業の中でもオンライン講義と映画資料の組み合わせを取り入れても良いのではないかと思いました。

**山口：**学生に向けて映画資料の重要性を伝える必要があり、教材などで映画を扱っていただくのが良いと思います。映画が誕生して120年ですので、アートと同様文化的価値として認め、教育に取り入れていただくことが必要と思います。教科書に載っていれば絵画を観に行くのと一緒で、じゃあ黒澤明監督作品を見ておこう、となるのではないか。オンライン講義あるいは小・中・高などで直接映画の面白さを伝えるような機会があればありがたいと思います。

**中村：**今年度はオンライン授業実施を迫られ苦労しました。通常教室のスクリーンで映画を全編上映し議論することも行ってきましたが、使用している配信プラットフォームでは現状技術的に動画送信を滑らかにできません。考慮した結果、映画資料の活用とWeb視聴できるものとの組み合わせで授業を行いました。作品について集中的な考察を行う際、検閲の問題を扱うときには検閲の資料を用意したり、役者の衣装に関してDVDパッケージに写る俳優の姿について分析するなど、多様な資料の活用を努力しています。

先ほど木下委員から映画に興味がない人に映画資料に興味を持ってもらうことは難しいというお話がありましたが、映画を作りたい学生に映画資料に基づいた授業をしても、なかなか食いついてきてくれない状況もあります。ただ、授業の在り方が今年度の試行を経て今後大きく変わっていくかもしれない中で、映画の教育における映画資料の活用といった必要性も出てくる可能性がありますし、色々な形で工夫の余地があると考えています。

**事務局：**映画を作りたい学生にとっては、例えば台本の初稿と第2稿の違いは、クリエイティブ面での勉強になると思います。

**中村：**映画資料の所在について、どこに何があるか、誰がどういった資料を持っているかという情報を何らかの形で集約するセンターのようなものができないかということを考えます。全国の図書館・資料館にとどまらず、例えば個人のコレクターの情報も集約できないものかと考えています。

**岡田：**これまでその役割を果たしてきたのが「全国映画資料館録」という冊子で、各館の所蔵品を紹介しています。ただ限界もあって、所蔵品公開に踏み切れない館が参加していなかったり、住所までの公開にとどまったりなど、グラデーションもあります。

問い合わせがあった時には受け答えできるようにしていますが、私個人が把握する範囲に過ぎず、整理しておくべきと感じます。恒常的な運営は現時点では現実的ではないと思いますが、情報を集約する場が必要です。なお「全国映画資料館録 2015」制作時にはWeb化も検討しましたが、紙はOKでもネットはNGという施設が多かったため実現しませんでした。

**事務局：**似た機能として「映画資料所在地情報検索システム」を立ち上げ予定です。

**岡田：**次回「全国映画資料アーカイブサミット」においては、論文など学術的なシーンで映画資料や映画フィルムのコマ抜き画像、静止画像など使いたいという要望はたくさんあるはずですが、そうした際の法的問題に関して、海外の例も見ながら日本はどうなのか議論をしてほしいと思っています。また前回実施できなかった展示キュレーションに関して、ノウハウを蓄積した方の話を聞きたいと思っています。

**木下：**岡田委員から話のあった学術使用の問題は研究者にとって重要で、アメリカの場合はSociety for Cinema and Media Studiesという映画学会が様々な仕様のガイドラインを公式に出していて、フェアユースの有無という大きな違いがあります。

**岡田：**活用の文脈から出てきた話ですから、本事業の枠組み内ではどこまでフォーカスされるのか難しいところではあります。ただ研究系の委員の方々にとっては課題としてはあります。本事業でもまだまだやるべきことはあると痛感しており、引き続きの事業展開があるべきと考えます。

**福井：**サミットにおいて、オンライン講義をタイムリーなテーマとして扱っても良いかもしれません。SARTRASという団体が遠隔授業で作品を使う際の補償金のあり方についてずっと関係者協議をしていますが、例えば映画関係者の方はここに加わっているかなどです。補償金額が大きいため、映画資料をうまく授業で使ってもらい補償金が戻ってくるのはうまくすればビジネスモデルにもなり得ますので、テーマの一つとして考えられても良いのではないでしょうか。

**井川：**同じくサミットについて、公共図書館の参加数を集められると良いと思います。地域の図書館にはロケを行った作品の資料が多いと想像しているためです。映画会社にはロケに関する細かい資料が無いことが多く、逆に地域の図書館が持っている可能性はかなりあると思います。「映画資料所在地情報検索システム」に図書館がもっと参加すれば、映画会社で見つからない資料が見つかることもあると思います。

**堀口：**静岡文化芸術大学図書館では、地元の映画館が閉館した際に4,000点ほど資料寄贈があり、整理しているそうです。そういった情報共有がネットワークで実現できれば良いと思います。

**岡田：**これに関しては木下委員がお勤めのころ働きかけて、興行会社から大学に依頼が入ったそうです。早稲田大学や日本大学など歴史ある資料館は別として、新たに映画資料を受け取り公開につなげていく。大学での映画資料収集が盛んなアメリカでの事例にも近く、良い新展開だと思います。

**木下：**静岡で歴史の一部だった映画館が閉館されたので、モデルケースになる部分もあると思います。

**事務局：**映画館は街の中心で在り続けていたので郷土史としての側面もありますし、スタンドアローンの事例はたくさんあると思います。皆さんで情報が共有できるようになれば、この事業の意義となりうると思います。

**戸田：**今後に向けての問題が出てきましたが、一つは各地の様々な形態の資料館の情報を集約し、利活用するため、映画資料アーカイブがどのように在るべきかだと思います。研究者は強い関心をお持ちの方がたくさんいらっしゃると思いますが、それ以外のユーザーをどのように広げていくかという話もありました。また製作者に向けていかに広げるかという視点もありました。一方で映画製作に興味はあるけど映画資料にはあまり関心がない現実もあるかと思います。そういう中でいかに映画資料に光を当てていくか、またアーカイブ化されたものが持続的に運営されていくためには無償での利活用だけではなく、権利を持つ映画会社にも関係があると思いますし、利益を取りつつ運営する方向性も必要と思います。実証実験を含め、様々なことについて今年も考えていければと思います。

# 調布市立中央図書館　調査報告

**■実施概要**

対象施設：調布市立中央図書館（東京都）
日　　程：事前調査　　令和２年　９月25日（金）
　　第１回集中調査　　令和２年10月22日（木）
　　第２回集中調査　　令和２年10月30日（金）
　　データベース調査　令和２年11月20日（金）
同 席 者：調布市立中央図書館・須川綾子
　　文化庁（９月25日実施事前調査のみ）
　　日本映画史研究者／国立映画アーカイブ客員研究員・佐崎順昭
　　角川アスキー総合研究所・三村朋之（11月20日実施データベース調査のみ）
　　事務局（特定非営利活動法人映像産業振興機構）

**■調布市立中央図書館　基本情報**

**▶ 館概要**

設置主体：東京都調布市
運営主体：調布市
所在地：〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1 文化会館たづくり内
TEL：042-441-6181
設立年：1966年

**▶ 映画資料公開・管理設備**

・映画資料室（文化会館たづくり５階）
・書庫…地下収蔵庫、外部収蔵庫（高架下資料保存庫）

**▶ データベース**

・システム名「調布デジコン」…館内で操作可能、ポスター画像を搭載
・システム名「ぴゅー太」（館内利用者用閲覧端末）
・システム名「CLIS」…館内で職員のみ操作可能、脚本情報を搭載、プログラム情報
・エクセルデータ
・WebOPAC…インターネット環境から検索が可能、脚本情報、プログラム情報を搭載

## 調布市立中央図書館　映画資料室

1995年開館。「映画のまち調布」の足跡をたどる地域資料収集の一環として、調布地区にゆかりのある日活・大映の作品を中心とする映画資料を収集。蔵書数約32,000点、閲覧席６を有し、一部資料を除き貸出対応を行う。市民はもとより、映像制作会社のスタッフによる調査依頼までと利用層は幅広い。毎年「映画のまち調布　シネマフェスティバル」における資料展示を実施。

## ■映画資料状況

### ▶ 整理状況

#### ① データ化済み資料種

・書籍
・映画関係雑誌（創刊号・復刻版 etc.）：115 タイトル
・ポスター：データベースシステム内 3,000 枚強
・チラシ：約 13,400 枚
・スチル：約 6,200 枚
・ロビーカード：約 1,800 枚
・脚本：約 3,000 タイトル

#### ② 未データ化資料状況

・地下作業スペースにて保管
・書庫にて保管（未整理）

### ▶ 資料詳細

#### ① 大映 録音技師 須田武雄 旧蔵資料

須田武雄（すだ たけお）の略歴は「キネマ旬報別冊 日本映画人大鑑」1959 年 7 月号によれば、「1921 年 8 月 24 日東京生まれ、電機学校卒業、1938 年新興キネマに入社、1942 年海軍に応召、1946 年復員して大映東京撮影所に入社、現在に至る」となっており、この時点での現住所は東京都中野区広町。録音技師としての第 1 回作品は 1952 年の『群狼の街』（小石栄一監督）である。その後の経歴は、1971 年の大映倒産まで在籍し、以後テレビドラマや記録映画の仕事を続けていたと思われるが、晩年のことなどは今後の調査課題である。

資料寄贈の時期は、1995 年頃に脚本が、2004 年にその他の資料が須田の遺族により寄贈された。ただ、現在、遺族との連絡は取れず、日本映画・テレビ録音協会や大映 OB 会への照会によっても遺族を突き止めることができなかった。

資料の概要は、撮影台本、雑誌、冊子類、写真、音声テープ、手拭いやユニフォームなど多岐にわたっている。撮影台本に関しては、大映東京撮影所時代に須田が担当したおよそ 70 作品以上の台本が残されており、すべてを調査したわけではないが、その多くに詳細な書き込みがなされている。確認できたもののうちで主のものをあげると、小津安二郎監督の『浮草』（1959 年、DB 表と製作予定日割表も付属）、増村保造監督の『くちづけ』（1957 年）・『青空娘』（1957 年）・『卍』（1964 年、DB 表付属）・『積木の箱』（1968 年）・『濡れた二人』（1968 年）・『盲獣』（1969 年）・『女体』（1969 年）・『やくざ絶唱』（1970 年）・『しびれくらげ』（1970 年）・『遊び』（1971 年）、市川崑監督の『処刑の部屋』（1956 年、DB 表付属）、清水宏監督の『踊子』（1957 年）、吉村公三郎監督の『女経 第三話 恋を忘れていた女』（1961 年、香盤と場面割付属）・『女の勲章』（1961 年、DB 表と場面割付属、吉村監督直筆メモあり）、木村恵吾監督の『一刀斎は背番号 6』（1959 年）・『痴人の愛』（1960 年）・『やっちゃ場の女』（1962 年）・『瘋癲老人日記』（1962 年）、山本薩夫監督の『氷点』（1966 年）・『にせ刑事』（1967 年）、田中重雄監督の『帯をとく夏子』（1965 年）など。これらは大映東京撮影所の主要作・代表作が数多く含まれており、特に小津監督の『浮草』に関しては、従来の小津研究に新境地を拓く可能性を秘めた重要な資料である。そのほか、「W.E.735-D 型録音システムの解説並に取扱法」などの録音技術を解説した社内冊子、日本映画録音協会手帳、日本映画録音協会機関誌「録音」、広報紙「大映新聞」などの冊子類や雑誌など。

さらに1970年度社員名簿や契約書類、大映倒産時の各種書類などがあるが今回は詳しく調査できなかった。また、市川崑のイラストによる『処刑の部屋』のれん、淡島千景や高峰秀子の名前が染められた手拭い、大映東京撮影所録音課の野球ユニフォームなどもある。写真に関しては、録音担当作品の場面スチルや完成記念集合写真にまじって、須田の父である俳優の若葉馨のポートレートやスナップが数種含まれている。若葉馨は「日本映画俳優全集 男優編」（キネマ旬報社、1979年）によれば、1900年2月14日、前橋市生まれ、本名は須田庄一、芸歴は俳優として1920年から日活向島（一時、松竹蒲田）に在籍し（脚本も執筆）、1929年帝キネ（のち新興キネマ）に移籍し、1942年の大映統合まで在籍したとあるが、その後の記述はない。だが、須田武雄の映画界入りには、父である若葉馨の影響があったとも考えられる。また、若葉馨は1920年代に溝口健二の最初期のサイレント映画に出演しており、息子の録音技師・須田武雄は溝口の最晩年に同じ大映に所属したという興味深い事実もある。若葉馨と須田武雄という二世代にわたる映画人の足跡は今回初めて判明した事実であり、映画史の新たな発見につながる期待が持たれる。

整理状況に関しては、撮影台本はほぼ全ての資料が館内のデータベースに登録してあり、インターネットを介して館外からもOPACにより検索可能である。ただし、須田武雄旧蔵や書き込みの有無などの注記がないため、当該資料かどうかは、現物を見ないと判断できないという側面があり、今後の課題としたい。スチルに関しては、枚数も確認されており、専用の保存用収納袋に保管されている。その他の資料に関しても良好な保存状態にあるが、詳細な目録化が望まれるところである。

### ② 日活 編集技師 鈴木晄 旧蔵資料

鈴木晄（すずき あきら）の略歴は「日本映画テレビ人名鑑」（日本映画テレビ人名鑑編集委員会、1991年11月）や「日本の映画人」（日外アソシエーツ、2007年6月）によれば、1928年10月11日大阪市生まれ、和歌山工専卒業、1948年マキノ映画に入り安達伸生監督の助監督となる。1952年宝塚映画製作所で同じく助監督を務めるが、1954年再開した日活に移り編集部門に移る。編集技師としての第1回作品は1954年の『お月様には悪いけど』（堀池清監督）で、以後、一貫して日活作品を担当。1978年には日活撮影所取締役に就任。1980年代以降は積極的に各社の作品も手掛け、生涯に430本以上の作品を担当した。日本映画ペンクラブ特別賞や日本アカデミー賞最優秀編集賞をはじめ、受賞歴も多く、2004年度第2回文化庁映画賞では映画功労賞を受賞した。2014年4月17日没。

旧蔵資料は2014年に日活より寄贈された。今回の調査で新たに遺族と連絡を取ることが可能となった。

資料の概要は主に撮影台本で担当作品の相当数が寄贈されたものと推定でき、コンビを組んだ監督、例えば鈴木清順、蔵原惟繕、神代辰巳らの作品の書き込みがなされた台本を見つけることができたが、全体に関しては数量も多いことからそのすべてを調査するまでには至らなかった。特筆すべき資料としては、宝塚映画の助監督時代に就いた稲垣浩監督の『旅はそよ風』（1953年）のコンテ台本がある。稲垣監督は詳細な絵コンテによる映画作りが有名であるが、この手書きコンテは鈴木が助手時代に監督のコンテを全編筆記したものと思われる。また日活時代、井上梅次監督の『火の鳥』（1956年）に関しては鈴木自身による手書きノート「Cutting List」が残されており、井上梅次作品『鷲と鷹』（1957年）には「コンティニュイティ」といわれる謄写版の絵コンテ台本（現在のストーリーボードに似ている）などもあり、日活初期の緻密な映画作りを裏付ける資料となっている。

整理状況に関しては、撮影台本はほぼ全ての資料が館内のデータベースに登録してあり、インターネットを介して館外からもOPACにより検索が可能である。ただし、鈴木晄旧蔵や書き込みの有無などの注記がないため、当該資料かどうかは、現物を見ないと判断できないという状況は前記の須田

武雄資料と同様である。

### ③ 日活 美術監督 菊川芳江 旧蔵資料

菊川芳江（きくかわ よしえ）の略歴は「日本映画テレビ人名鑑」（日本映画テレビ人名鑑編集委員会、1991 年 11 月）などによれば、1931 年 10 月 24 日、広島県三原市生まれ、1954 年早稲田大学文学部を卒業後、同年日活に入社、1984 年フリーとなる。担当した映画作品は 100 本を超え、テレビ映画も 1960 年代から手掛け 300 本以上に上る。2002 年 1 月 6 日没。

寄贈時期及び経緯については、2003 年に遺族により寄贈され、その年の「調布映画祭」期間中、資料の一部がたづくりのギャラリー内に展示された。今回の調査で新たに遺族と連絡を取ることが可能となった。

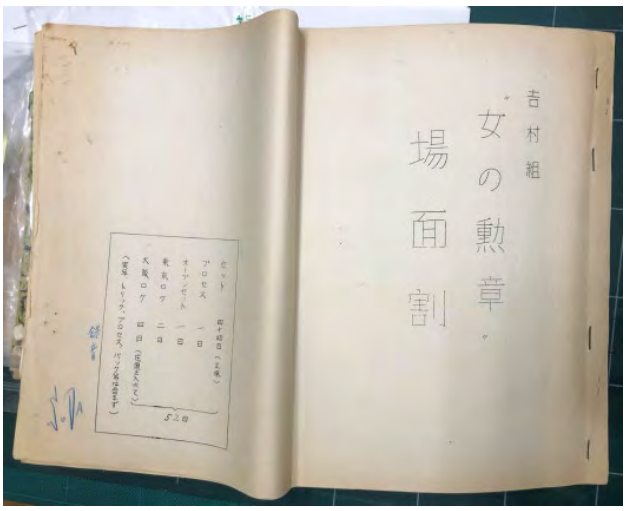
資料の概要は、美術資料としてセット図面やロケハン写真を含めた各種参考写真、スケジュール表、予算表などがあり、映画とテレビを含め 60 作品以上の資料が確認できたが詳細を調査するまでには至らなかった。撮影台本に関しても同様に 40 本以上の作品を確認できたが書き込みの有無などの詳細な調査はできなかった。今回確認できた主なものは、助手時代に美術監督の小池一美に就いた『空の下遠い夢』（1963 年、牛原陽一監督）のセット図面をはじめとして、美術監督時代の作品は鈴木清順監督の『悲愁物語』（1977 年）のセット図面やロケハン写真、神代辰巳監督の『恋文』（1985 年）のセット図面、吉田喜重監督の『人間の約束』（1986 年）のセット図面やロケハン写真、スケジュール表など、林海象監督の『CAT'S EYE』（1997 年、美術監督は木村威夫と共同）のセット図面やイメージ図、ロケハン写真などである。また 1970 年代の以降の「ロマンポルノ」作品の資料もあり、厳しい美術予算の中での映画製作の実際を裏付ける重要な資料ともなっており、映画美術の専門家による踏み込んだ調査が求められる。

整理状況に関しては、寄贈時に美術資料と撮影台本の仕分けがなされ、エクセルによる表が作成されている。また、脚本については前者と同様、図書館の OPAC に登録されているが、注記などの付与はなされていない。

### ④ 大都映画資料

大都映画は戦前に東京・巣鴨に撮影所を持ち、1942 年に大映に統合され消滅した映画会社で、時代劇・現代劇とも低予算の娯楽映画を量産した。これらの資料は、大都映画を少年時代に見た旧蔵者の蒐集品で、大乗寺八郎や三城輝子など大都スターのブロマイド、場面スチル、スナップ写真などがアルバム形式で保管されている。さらに、大乗寺八郎を偲ぶ会･乗偲會の会員連絡誌「剣優」（1982 年～）なども含まれており、会の集りに往年の大都スターや関係者を招いた懇親会の記念写真なども残されている。

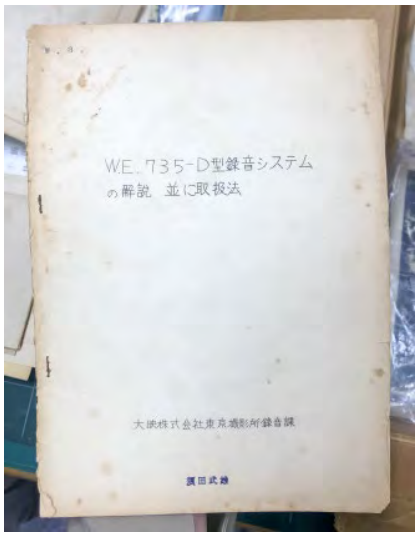
須田氏旧蔵『浮草』撮影台本、DB表



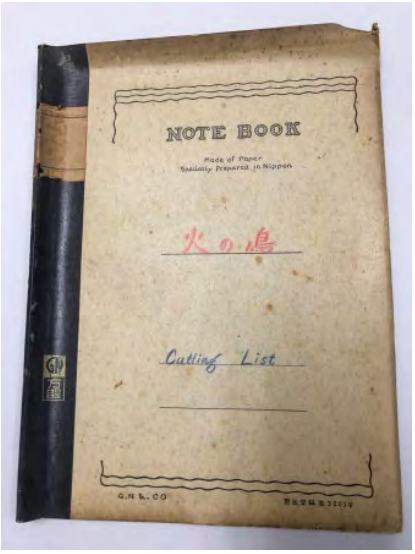

須田氏旧蔵『女の勲章』場面割

須田氏旧蔵『卍』撮影台本

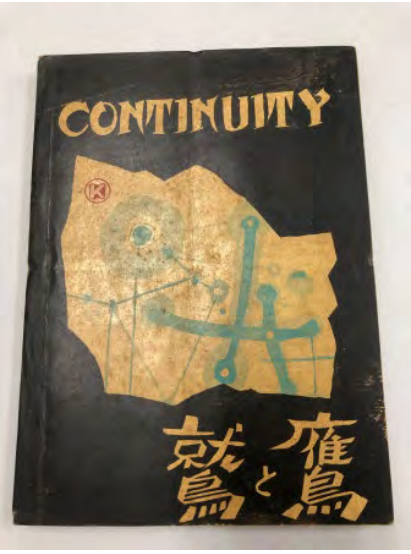
須田氏旧蔵『卍』DB表




須田氏旧蔵「W.E.735-D型録音システムの解説並に取扱法」冊子




鈴木氏旧蔵『火の鳥』Cutting List



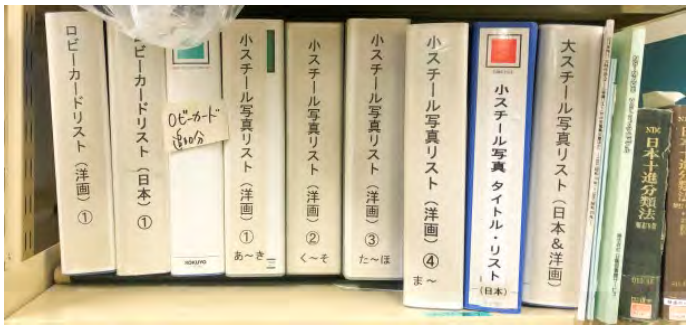

鈴木氏旧蔵『鷲と鷹』Continuity

鈴木氏旧蔵『俺に賭けた奴等』撮影コンテ

地下ポスター棚

地下シナリオ、スチル棚

地下パンフレット棚




地下スチルファイル

## ■データベース実態調査

### ▶ 概要

令和元年度に実施した、全国映画資料館データベース実態調査の結果と、「映画資料所在地情報検索システム実証実験」にて構築を行ったデータベースへの連携難易度の実地調査を行い、より具体的な確認を実施する。

### ▶ 調査対象

システム名称：調布デジコン（調布市立図書館デジタルコンテンツデータベース）

### ▶ 調査内容

現地調査では以下の項目を確認。

①資料種別

②資料内容詳細

③自動連携の可否

## ▶ 調査結果

### ①資料種別

調布デジコンで取り扱いのある資料種別は以下の５種類。

| | | |
|---|---|---|
| 新聞記事 | 映画ポスター | 地域資料ポスター |
| 図書館だより | 市報 | |

映画資料所在地情報検索システムと連携できそうな資料は映画ポスターとなり、データは3,230件（※調査時点）となっていた。

### ②資料内容詳細

調布デジコンでは以下の項目をデータとして保持している。

| 見出し | 補足説明 |
|---|---|
| 管理番号 | システム上の管理番号 |
| データ種別 | 前出の資料種別が設定されている |
| データ入力日 | 最新の登録日が2020年９月と更新頻度は高くないが、年に数回更新が行われている |
| データ更新日 | |
| カテゴリ１ | 映画ポスターでは未使用 |
| カテゴリ２ | |
| タイトル | 作品タイトル |
| タイトル読み | 作品タイトルをひらがなもしくは半角カタカナで登録 |
| 通し番号 | 館内での管理用 |
| 原作者 | 複数人の場合には、改行区切りで登録 |
| 脚本家 | |
| 監督 | |
| 出演者 | |
| 製作国・製作者 | |
| 配給会社 | |
| 製作年 | 映画ポスターでは1937 ～ 2020年まで |
| サイズ | 実寸法を登録 |
| 備考 | |
| 添付ファイル | 複数枚の場合あり |
| 添付ファイル公開区分 | ・OPAC公開非公開 |
| | ・WEB公開非公開 |
| | ・データベース公開非公開 |
| 関連リンク | |
| 公開区分 | ・OPAC公開非公開 |
| | ・WEB公開非公開 |
| | ・データベース公開非公開 |

登録データサンプル

| 見出し | 補足説明 |
|---|---|
| 管理番号 | ID-004163 |
| データ種別 | 映画ポスター |
| データ入力日 | 2016/3/1 |
| データ更新日 | 2017/5/23 |
| カテゴリ１ | |
| カテゴリ２ | |
| タイトル | チャップリンの独裁者／ THE GREAT DICTATOR（裏あり） |
| タイトル読み | ちゃっぷりんのどくさいしゃ |
| 通し番号 | 外341 |
| 原作者 | 不明 |
| 脚本家 | チャールス・チャップリン |
| 監督 | チャールス・チャップリン |
| 出演者 | チャールス・チャップリン |
| | ジャック・オーキー |
| | ポーレット・ゴダード |
| | レジナルド・ガーディナー |
| | ヘンリー・ダニエル |
| 製作国・製作者 | 米 |
| | ユナイテッド・アーチスツ映画 |
| 配給会社 | 東和 |
| 製作年 | 1940 |
| サイズ | 29.6×81.4cm |
| 備考 | |
| 添付ファイル | /movie_03043.jpg |
| | /movie_03044.jpg |
| 添付ファイル公開区分 | |
| 関連リンク | |
| 公開区分 | ・OPAC公開 |
| | ・Web非公開 |
| | ・データベース席公開 |

③自動連携の可否

調布デジコンは館内専用のシステムのため外部とのデータ連携が不可能となっており、調査時点では自動連携はできないとの結論に至った。

### ▶ データベース実態調査まとめ

調布デジコンは館内専用システムとなっているが、管理ツールとしての機能的な部分は網羅されているため、外部からのインターネット接続環境へ連携用データを出力可能なように改修を行うと自動連携が可能となる。

保持されていた映画ポスターの画像データは、館のイベントなどで印刷して使用しているとのことで、印刷にも耐えるデータとして保存されている。画像データは300dpiの横幅3000px・縦幅成行きとなっていた。

「映画資料所在地情報検索システム」との連携に関しては自動連携を行うことは調査時点ではできないが、画像データの受け渡し方法を検討すれば、資料データの出力機能は有しているため、手動で連携を行うことは可能である。

なお脚本の所蔵データを管理するデータベース（CLIS）も存在し、本年度はシステム調査は行っていないが、ヒアリングの結果、管理番号抽出が困難であるため連携難易度が高いことがわかった。

# 調布市郷土博物館　調査報告

**■実施概要**

対象施設：郷土博物館（東京都調布市）
日　　程：令和２年10月30日（金）
同 席 者：調布市教育委員会教育部郷土博物館・福澤明、杉本祐二、芝﨑由利子、小堀槙子
公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団・土井尚治、菅原裕子
日本映画史研究者／国立映画アーカイブ客員研究員・佐崎順昭
事務局（特定非営利活動法人映像産業振興機構）

**■調布市郷土博物館　基本情報**

**▶ 館概要**

設置・運営主体：調布市教育委員会
所在地：〒182-0026　東京都調布市小島町３丁目26番地２
HP：https：//www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1176118850606/
Twitter：https：//twitter.com/chofu_museum
休館日：月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始
開館時間：午前９時～午後４時
入場料：無料
展示室：企画展示室（１階）、常設展示室・ギャラリー（２階）
TEL：042-481-7656／FAX：042-481-7655
開館年：1974年
収蔵資料点数：約18,000点（令和２年度末時点）

**■業務内容**

郷土の歴史や文化・自然・美術に関する資料の収集・整理・展示、史跡・登録文化財建造物の整備、文化財指定、文化財見学会・講演会・体験学習会などの開催、武者小路実篤記念館の管理など

**■映画資料状況**

**▶ 資料詳細**

**①『敦煌』（映画「敦煌」製作委員会、監督：佐藤純彌、総指揮：徳間康快、1988年）関係資料**

完成台本、宣伝スチル写真、ポスターに加え、クランク・アップを記念したスタッフとキャストの集合写真、原作者・井上靖の短文が書かれた扇子など。また、特記すべきは主演の佐藤浩市が扮した趙行徳の木彫像「趙行徳像」（ほぼ等身大）である。これは北海道のアイヌ文化を継承した木彫家・藤戸竹喜（ふじと たけき）が制作したもので、制作過程を記録した写真などもある。

**② 大映関係資料**

・大映東京撮影所航空写真パネル（裏面には1961年10月23日、「さくらフイルム号より撮影」表記あり）
・冊子「大映東京撮影所案内」
・社内報「大映東京撮影所 所報」第１号（1951年11月20日）～第12号（1953年３月15日）のコピー

※この資料は大映東京撮影所厚生課が発行したもので、執筆者は経営陣の曽我正史や藤井朝太、文学者の小川忠恵、監督の田阪具隆、俳優の河原侃二や冬木映彦、技術者の平林龍雄など多岐にわたり、さらに撮影所業務に関することや、人事異動、製作スケジュール、脚本部通信、所員の文芸欄など、この時期の撮影所の実際を知る上で非常に重要な資料。

・機材「ダビング・マシーン」「映写機に付属するアンプ」

③ 日活関係資料

・社史「日活多摩川誌」（1942 年）、「日活四十年史」（1952 年）、「日活五十年史」（1962 年）

※「日活多摩川誌」には付属資料として「昭和十七年三月末 日活多摩川撮影所々員名簿」がある。

・雑誌「キネマ旬報」1992 年 9 月上旬号（にっかつ創立 80 周年記念特集）

・冊子「日活撮影所案内」

・撮影台本『沓掛時次郎』（監督：佐伯清、1954 年）

④ 玩具映画資料

・35mm 映写機「ライオンフィルム映写機」（収納ケース付）

・35mm のフィルム断片

⑤ 幻燈資料

・池田都楽片町幻燈製造舗の幻燈機（ブリキ製）

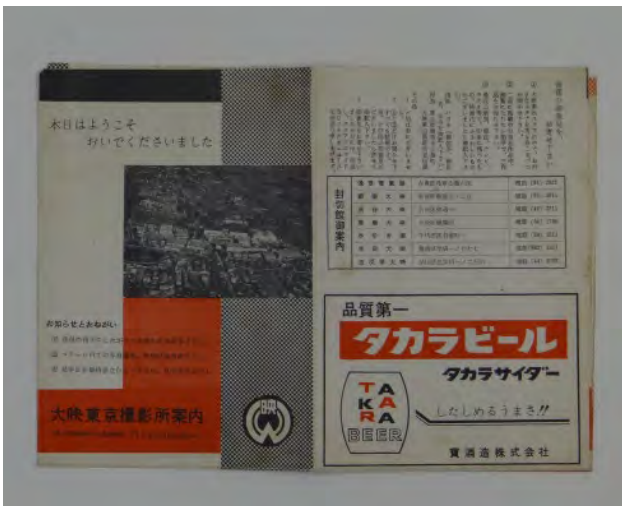
・鶴淵幻燈舗製「日清戦争大幻燈会」の種板（ガラス製）やその説明書など

『敦煌』完成台本

「趙行徳像」（映画『敦煌』より）

「趙行徳像」（映画『敦煌』より）
制作過程写真

大映東京撮影所航空写真パネル



冊子「大映東京撮影所案内」

社史「日活五十年史」

『沓掛時次郎』撮影台本

# 日活調布撮影所　調査報告

**■実施概要**

対象施設：日活調布撮影所（東京都）
日　　程：令和 2 年 11 月 13 日（金）
同 席 者：日活調布撮影所・海老原卓生、佐藤龍朗
日本映画史研究者／国立映画アーカイブ客員研究員・佐崎順昭
事務局（特定非営利活動法人映像産業振興機構）

## ■日活調布撮影所　基本情報

### ▶ 施設概要

設置・運営団体：日活株式会社
所在地：〒 182-0023　東京都調布市染地 2-8-12
TEL：042-483-1511 ／ FAX：042-483-1519
設立年：1954 年
データベース：特になし

**◯ 施設**

敷地：約 4,500 坪（最盛期の約 4 分の 1 の面積）
・スタジオ（5 棟）
・録音スタジオ（DB・MA・アフレコ・効果）
・編集室
・スタッフルーム（1 棟）
・大道具小道具関連を収容する建物
・食堂

## ■映画資料状況

日活撮影所は 1953 年に日活株式会社の多摩川撮影所として竣工。様々な変遷を経て多くの資料が整理され、撮影所に残される資料は点数が限られるが貴重なものが多数発見された。今回の調査では、撮影開始前の祈祷で使われる鳥居と祠、照明のキャットウォーク、トロフィー、楯、賞状など、紙以外の会社資料や記念品、大型の資料などが多数所蔵されていることがわかった。社屋移転など組織変革の際はスタッフが映画資料を破棄せず拾い上げ、限られたスペースの中でも大事に保管してきている。それにより撮影所ならではの貴重な資料が今日も残され、名物である食堂の日活俳優手形など撮影所に出入りする人の目に触れる場所に、一部の資料は大事にディスプレイされている。

現在も現役の食堂は撮影所建設当初と変わらない外観が残っている。その様子は撮影所内に展示される、創立 100 周年記念に作成された、敷地内にて撮影されたダイヤモンドラインと言われる日活スターら（石原裕次郎、小林旭、赤木圭一郎、和田浩治、宍戸錠）の写る特大パネルにも見てとられる。特大パネルはパールライン（笹森礼子、浅丘ルリ子、清水まゆみ、吉永小百合、芦川いづみ）版もあり、同じく当時の食堂前で撮影されている。施設は老朽化しているが、スタッフが丁寧に補修しながら現在も当時の原形を残しきれいに使用されている。

「昭和 30 年代初期の銀座オープンセット」の写真パネルは、石原裕次郎の人気ゆえ街中での撮影が困難になり、本撮影所内に作成されたセットの様子である。日活俳優は調布地区の市民とも交流し撮影時

の体験はいまも市民の記憶に残るため、これらの映画資料は郷土史としても重要といえよう。美術資料としては、『嵐を呼ぶ男』（1957 年、リメイク 1966 年）で石原裕次郎や昨年逝去された渡哲也が使用したと思われる練習用のドラムセットが、保存されていた。調査では撮影所内をくまなく案内いただき、スタッフによる映画資料の保存・活用に対する意識の高さと取り組みゆえ、あらゆる重要な資料が保存されていることがわかった。

## ■調査時発見資料一覧

| | 資料種別 | 資料名 |
|---|---|---|
| 1 | 会社資料 | 看板「日活撮影所」（初期のもの） |
| 2 | 会社資料 | 写真パネル「日活撮影所航空写真」（初期のもの） |
| 3 | 会社資料 | 写真パネル「昭和30年代初期の銀座オープンセット」 |
| 4 | 美術資料 | 『嵐を呼ぶ男』（1957年、リメイク1966年）で石原裕次郎や渡哲也が使用したとされるドラムセット |
| 5 | 美術資料 | 『太平洋ひとりぼっち』（1963年）で使用したヨット「マーメイド号」 |
| 6 | 美術資料 | ジャンゴフィルム製作『GANTZ』（2011年）で使用した大道具 |
| 7 | 記念品 | トロフィー「1956ヴェネチア国際映画祭サン・ジョルジョ賞『ビルマの竪琴』」 |
| 8 | 記念品 | メダル「エディンバラ国際映画祭『ビルマの竪琴』」 |
| 9 | 記念品 | トロフィー「キネマ旬報1963作品賞『にっぽん昆虫記』」 |
| 10 | 記念品 | トロフィー「1970年日本映画ベストテン第一位『戦争と人間』優秀映画鑑賞会・朝日新聞社」 |
| 11 | 記念品 | 賞状「1982日本アカデミー賞優秀作品賞　株式会社にっかつ撮影所殿『遠雷』」 |
| 12 | 記念品 | 賞状「1984日本アカデミー賞優秀作品賞　株式会社にっかつ撮影所殿『家族ゲーム』」 |
| 13 | 記念品 | 賞状「昭和58年度キネマ旬報ベスト・テン日本映画作品賞『家族ゲーム』にっかつ撮影所殿」 |
| 14 | 記念品 | トロフィー「'86毎日映画コンクール日本映画大賞『海と毒薬』「海と毒薬」製作委員会殿」 |
| 15 | 記念品 | トロフィー「第56回毎日映画コンクール日本映画優秀賞『日本の黒い夏（冤罪）』」 |
| 16 | 記念品 | トロフィー「第30回東京ビデオフェスティバル 日本ビクター大賞『学びの場が消えてゆく～夜間高校の教室から～』斉藤雅之殿　2008.3.2」 |
| 17 | 記念品 | トロフィー「第21回東京スポーツ映画大賞作品賞『冷たい熱帯魚』」 |
| 18 | 記念品 | トロフィー「2012日本アカデミー賞　最優秀作品賞『八日目の蝉』」 |
| 19 | 記念品 | 賞状「2012日本アカデミー賞『八日目の蝉』製作委員会殿」 |
| 20 | 記念品 | 賞状「報知映画賞作品賞・邦画部門『八日目の蝉』」 |
| 21 | 記念品 | トロフィー「第35回ヨコハマ映画祭作品賞『凶悪』映画「凶悪」製作委員会殿」 |
| 22 | 記念品 | トロフィー「2018年度 第10回TAMA映画賞特別賞『モリのいる場所』樹木希林殿」 |
| 23 | 記念品 | トロフィーと賞状「第27回中国金鶏百花映画祭2018観客賞『モリのいる場所』」 |
| 24 | 記念品 | 賞状「第10回TAMA映画賞特別賞『モリのいる場所』」 |
| 25 | 記念品 | トロフィー「サンダンス映画祭2019『WE ARE LITTLE ZOMBIES』長久允監督」 |
| 26 | 記念品 | トロフィー「映像メディア人材育成協定調印記念　日活株式会社代表取締役社長　佐藤直樹 2010年6月10日」 |

鳥居

記念品『海と毒薬』『凶悪』『モリのいる場所』トロフィー

記念品『家族ゲーム』『八日目の蝉』賞状

写真パネル「昭和30年代初期の銀座オープンセット」

大巨獣ガッパフィギュア

日活俳優手形

美術資料『嵐を呼ぶ男』ドラムセット

看板「日活撮影所」

日活撮影所航空写真

# 角川大映スタジオ　調査報告

**■実施概要**

対象施設：角川大映スタジオ（東京都）
日　　程：令和２年12月10日（木）
同 席 者：株式会社角川大映スタジオ・小畑良治
日本映画史研究者／国立映画アーカイブ客員研究員・佐崎順昭
事務局（特定非営利活動法人映像産業振興機構）

## ■角川大映スタジオ　基本情報

### ▶ 施設概要

設置・運営団体：株式会社角川大映スタジオ
所在地：〒182-0025　東京都調布市多摩川6-1-1
TEL：042-482-1151／FAX：042-482-4297
設立年：2013年
データベース：特になし

## ■映画資料状況

1933年日本映画株式会社の多摩川撮影所として建設され、翌1934年に日活多摩川撮影所となる。1942年大日本映画製作株式会社（大映）発足とともに大映の撮影所となった歴史を持つ角川大映スタジオには、幾度かの会社体制の変化を経ながら、受賞記念品や製作資料、機材、会社資料など貴重な映画資料が残されていた。今回の調査にあたり、撮影所による倉庫の総点検をいただいた結果、下記資料が発見されるに至った。

多数ある受賞記念品の中には、当時の大映代表取締役社長・永田雅一が主催して創設された第１回東南アジア映画祭で、大映作品『金色夜叉』（1954年、島耕二監督）が劇映画部門最高賞を受賞した際の金のトロフィーなど国際的・歴史的に貴重なものも含まれていた。

会社資料としては、未使用の大映社旗、名刺などに大映マークを浮き出しプレスするために使用した大映マークシール・プレスなどが保管されており、KADOKAWA本社にも現存しない貴重な資料などが発見された。

美術資料としては、溝口健二監督の『楊貴妃』（1955年）をはじめとした作品で風俗・建築などの参考とした図書が保管されていた。同図書は、1986年に京都撮影所が閉鎖時に移管されたものと思われ、貴重な書籍も多く更なる調査が求められる。

## ■所蔵資料点数

記念品　26点（トロフィー９点、楯11点、賞状５点、参加証明書１枚）
会社資料　５点
宣伝資料　３点
美術資料　２点以上
機材　１点
製作資料　１点
書籍　１冊
その他

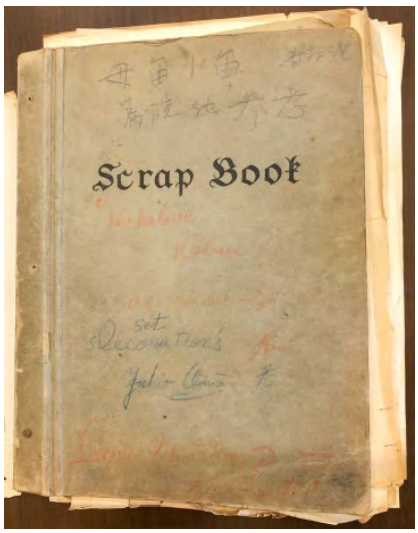
## ■調査時発見資料一覧

| | 資料種別 | 資料名 | 作品 | 監督 | 製作年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 宣伝資料 | 『敦煌』各種チラシ・ファイル | 『敦煌』 | 佐藤純彌 | 1988 | 初期のイメージ・チラシから劇場頒布用のものまで。 |
| 2 | 宣伝資料 | 『敦煌』ソウル＆イレーヌ・バスによるイメージ・ポスター | 『敦煌』 | 佐藤純彌 | 1988 | 屏風仕立てにして保存。 |
| 3 | 宣伝資料 | 『敦煌』スクラップファイル | 『敦煌』 | 佐藤純彌 | 1988 | 雑誌記事「神秘のタイトル・クレジット　ソウル＆イレーヌ・バス」や新聞記事、さらに特別に作成された「敦煌壁画切手」などをファイルしたもの。 |
| 4 | 製作資料 | 『沈まぬ太陽』使用ナショナル・エアラインズ飛行機模型 | 『沈まぬ太陽』 | 若松節朗 | 2009 | |
| 5 | 美術資料 | 『母笛子笛』スクラップブック | 『母笛子笛』<br>『帯をとく夏子』 | 斎村和彦<br>田中重雄 | 1955<br>1965 | 『母笛子笛』（斎村和彦監督、1955年）で使われた病院のセットや看板などの小道具、ロケハン写真などが、『帯をとく夏子』（田中重雄、1965年）など他の作品の参考になったことがうかがわれる資料。 |
| 6 | 美術資料 | 大映京都撮影所美術課旧蔵参考図書 | | | | 溝口健二監督の『楊貴妃』（1955年）をはじめとした作品で風俗・建築などの参考とした図書。京都撮影所が閉鎖時に移管されたものと思われ、貴重な書籍も多く更なる調査が必要である。 |
| 7 | 書籍 | "AMPTP RESERCH CENTER REPORT: Motion Picture and Television Studio Stage Survey" Prepared and witten by Milton Forman. 1970 | | | | アメリカの映画テレビプロデューサー協会が作成した撮影所の調査報告書、大映の撮影所も含まれている。 |
| 8 | 機材 | 特撮用爆破電源スイッチ | | | | 連続して爆破させるための箱形電源スイッチ。箱の面に「大映東京撮影所 電源No.1」と書かれており、「照明倉庫」とラベルが貼られている。通称「三味線」と呼ばれる。 |
| 9 | 会社資料 | 初代大映社長 菊池寛肖像写真 | | | | |
| 10 | 会社資料 | 大映社旗 | | | | 旧大映時代のもので、数種類あり綺麗な状態で保存されている。 |
| 11 | 会社資料 | 大映マーク シール・プレス | | | | 名刺などに大映マークを浮き出しプレスするために使用したもの。 |
| 12 | 会社資料 | 大映京都撮影所航空写真パネル | | | | 表に「SAKURA FILM」のロゴがあり、1961年頃、さくらフィルム号より撮影したものと思われる。 |
| 13 | 会社資料 | 大映企画製作表（1960年） | | | | 大映企画製作事務本部が1960年1月8日に作成し、第5回製作営業合同会議に提出された製作検討ラインナップ。 |
| 14 | 記念品 | トロフィー「Golden Harvest Award 1954」 | 『金色夜叉』 | 島耕二 | 1954 | 1954年5月にフィリピンのマニラで行なわれた第1回東南アジア映画祭で、劇映画部門最高賞を大映作品『金色夜叉』（カラー作品、島耕二監督）が受賞した際に授与された金のトロフィー。 |
| 15 | 記念品 | トロフィー「都民映画コンクール」 | | | | |
| 16 | 記念品 | 参加証明書「1959アカデミー賞最優秀外国語映画賞ノミネート日本代表作品『野火』」 | 『野火』 | 市川崑 | 1959 | |
| 17 | 記念品 | 楯「1960 映画世界社賞『おとうと』」 | 『おとうと』 | 市川崑 | 1960 | |
| 18 | 記念品 | トロフィー「第13回川崎市民映画コンクール芸術作品部門第3位『妻の日の愛のかたみに』」 | 『妻の日の愛のかたみに』 | 富本壮吉 | 1965 | |

| | 資料種別 | 資料名 | 作品 | 監督 | 製作年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 記念品 | 楯「大映株式会社社長永田雅一殿 財団法人オリンピック東京大会組織委員会」 | 『東京オリンピック』 | 市川崑 | 1965 | |
| 20 | 記念品 | トロフィー「第17回ブルーリボン賞作品賞『白い巨塔』」 | 『白い巨塔』 | 山本薩夫 | 1966 | |
| 21 | 記念品 | 楯「第13回児童福祉文化賞『ママいつまでも生きてね』」 | 『ママいつまでも生きてね』 | 池広一夫 | 1970 | |
| 22 | 記念品 | 楯「昭和59年度芸術祭芸術祭優秀賞 株式会社大映インターナショナルフィルム殿『ハンガリアン狂詩曲』に対し 昭和60年1月25日」 | 『ハンガリアン狂詩曲』 | ミクロシュ・ヤンチョー | 1979 | |
| 23 | 記念品 | 楯「'88年度ゴールデングロス金賞（全国興行環境衛生同業組合連合会）」 | | | | |
| 24 | 記念品 | 楯「第三十三回映画の日執行委員会 功労賞 敦煌製作委員会殿 1988年12月1日」 | 『敦煌』 | 佐藤純彌 | 1988 | |
| 25 | 記念品 | 賞状「1989日本アカデミー賞最優秀作品賞『敦煌』大映株式会社殿」 | 『敦煌』 | 佐藤純彌 | 1988 | |
| 26 | 記念品 | 楯「'88年度予告篇コンクール銀賞（全国興行環境衛生同業組合連合会）」 | | | | |
| 27 | 記念品 | 楯「平成2年度中央児童福祉審議会特別推薦（映画部門）『遥かなる甲子園』平成3年5月5日」 | 『遥かなる甲子園』 | 大澤豊 | 1990 | |
| 28 | 記念品 | トロフィー「'92毎日映画コンクール日本映画ファン賞『シコふんじゃった。』」 | 『シコふんじゃった。』 | 周防正行 | 1992 | |
| 29 | 記念品 | 賞状「1992年度キネマ旬報ベスト・テン日本映画作品賞『シコふんじゃった。』」 | 『シコふんじゃった。』 | 周防正行 | 1992 | |
| 30 | 記念品 | 賞状「1993日本アカデミー賞優秀作品賞『シコふんじゃった。』大映株式会社殿」 | 『シコふんじゃった。』 | 周防正行 | 1992 | |
| 31 | 記念品 | 賞状「第5回日刊スポーツ映画大賞作品賞『シコふんじゃった。』大映株式会社 株式会社キャビン殿 1992年12月28日」 | 『シコふんじゃった。』 | 周防正行 | 1992 | |
| 32 | 記念品 | トロフィー「ビデオ・オブ・ザ・イヤー '96最優秀邦画賞『Shall we ダンス？』」 | 『Shall we ダンス？』 | 周防正行 | 1996 | |
| 33 | 記念品 | トロフィー「'96毎日映画コンクール日本映画ファン賞『Shall we ダンス？』」 | 『Shall we ダンス？』 | 周防正行 | 1996 | |
| 34 | 記念品 | トロフィー「第20回ヨコハマ映画祭 作品賞『CURE』」 | 『CURE』 | 黒沢清 | 1997 | |
| 35 | 記念品 | トロフィー「スパンナホン賞 第44回アジア太平洋映画祭 1999」 | | | | |
| 36 | 記念品 | 楯「平成29年日本民間放送連盟賞番組部門テレビドラマ 優秀『連続ドラマW 沈まぬ太陽［第2部］第9話』」 | 『連続ドラマW 沈まぬ太陽［第2部］第9話』 | 鈴木浩介 | 2016 | |
| 37 | 記念品 | 楯「日本映画テレビプロデューサー協会 協会賞 徳間康快殿 1983年1月31日」 | | | | |
| 38 | 記念品 | 楯「日本映画テレビプロデューサー協会 協会賞 徳間康快殿 1989年1月27日」 | | | | |
| 39 | 記念品 | 賞状「1992藤本賞 徳間康快殿」 | | | | |

第1回東南アジア映画祭『金色夜叉』トロフィー

大映企画製作表（1960年）



美術資料『母笛子笛』スクラップブック

特撮用爆破電源スイッチ

大映社旗

美術資料『楊貴妃』参考図書

大映京都撮影所航空写真パネル

製作資料『沈まぬ太陽』飛行機模型

大映マーク シール･プレス

**令和2年度「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」デジタルアーカイブ実証実験**
**松竹大谷図書館所蔵映画ポスター・プレスシートのデジタル化及びJFROLへの搭載実証実験報告**

**事業内容**　松竹大谷図書館所蔵松竹映画ポスター及びプレスシートの画像及び目録のデータ化事業
**対象資料**　松竹名作のポスターとプレスシート：作品は、小津安二郎監督作品、木下恵介監督作品、60年代以降の野村芳太郎作監督作品、※黒澤明監督作品『白痴』、※深作欣二監督松竹作品※映像産業振興機構（以後VIPOという）からのリクエスト作品
**担当業者**　株式会社インフォマージュ（デジタル撮影）

## 松竹大谷図書館の名作ポスター、プレスシート

今回の事業でデジタル化を行う資料は、原物資料やデジタル画像について、事業後に、デジタル化がなされている資料群として管理が行いやすい、などの理由から監督別に選定することとした。そのためまず小津安二郎・木下恵介監督作品を選定し、他に、作品ジャンルの幅が広いこと、作品の年代が長期に渡っていることなどから、野村芳太郎監督作品を選定した。

小津安二郎監督作品（12作品）
　ポスター：25点（7作品分）、プレスシート：17点（12作品分）
木下恵介監督作品（41作品）※VIPOからのリクエスト『カルメン故郷に帰る』を含む
　ポスター：83点（29作品分）、プレスシート：58点（41作品分）
野村芳太郎監督作品（58作品）
　ポスター：190点（58作品分）、プレスシート：62点（58作品分）
黒澤明監督作品『白痴』
　ポスター：2点、プレスシート：1点
深作欣二監督松竹作品（9作品）
　ポスター：40点（9作品分）、プレスシート：11点（9作品分）合計121作品

## スケジュール　○日付業務内容（担当）

**2019年**
○3月14日：映画台本の書誌データ11,212件、所蔵データ6,752件納品（松竹大谷図書館⇒VIPO）
**2020年**
○6月8日：打ち合わせ松竹大谷図書館図書管理システムデータ調査（VIPO、松竹大谷図書館、角川アスキー総合研究所）
○6月8日：JFROL搭載実験用に、映画資料（台本、ポスター、プログラム、プレスシート、スクラップ、スチール）
　書誌データ22,583件、所蔵データ14,862件納品（松竹大谷図書館⇒VIPO）
○9月24日：2021年デジタル化事業打ち合わせ（VIPO、松竹株式会社、松竹大谷図書館）
○9月末～10月末：デジタル化候補資料リストアップ
○11月5日：予算決定
○11月20日：デジタル化作品決定
○11月27日：デジタル化資料搬出（松竹大谷図書館⇒インフォマージュ）
○12月～1月末：資料のデジタル撮影（インフォマージュ）
○12月～：デジタル化資料のメタデータ（書誌データ、所蔵データ）作成（松竹大谷図書館）
○12月～：松竹作品サムネイル画像のWeb表示・表示サイズなどについて、松竹本社への確認
○12月22日：デジタル化資料の書誌データ225件納品（松竹大谷図書館⇒VIPO）
○12月25日：公開範囲・期限限定でのサムネイル画像のWeb表示試用の松竹本社許諾

**2021年**

○1月28日：画像データ納品（インフォマージュ⇒松竹大谷図書館）
○2月2日：デジタル化資料返却（インフォマージュ⇒松竹大谷図書館）
○2月2日～：画像確認及び画像ファイル名と旧登録資料の所蔵データの紐づけ作業（松竹大谷図書館）
○2月4日：10作品分、サムネイル画像62件・所蔵データ54件納品（松竹大谷図書館⇒VIPO）
○2月10日：未登録のデジタル化資料の図書管理システムへの登録、データエクスポート（松竹大谷図書館）
○2月12日：残りの111作品分、サムネイル画像555件・所蔵データ434件納品（松竹大谷図書館⇒VIPO）
○3月初旬：報告書、仕様書納品（松竹大谷図書館⇒VIPO）

## デジタル化作業　※詳細は後記の通り

**【事前調査】**

**●ポスター、プレスシートの状態・数量調査、リストの作成**

**【デジタル撮影】株式会社インフォマージュ**

**●仕様書作成**
**●デジタルカメラによる撮影**
**●画像確認（松竹大谷図書館）**
**●画像（保存用ファイル[TIFF、JPEG]、閲覧用ファイル[PDF、JPEGサムネイル]）を納品**

**【撮影後作業】松竹大谷図書館**

**●作業報告書作成**

## デジタル化作業詳細

**【事前調査】**

**デジタル化に必要な作業の洗い出しとスケジューリングのため、資料数、劣化状況、その他注意事項などを調査**

・同時期に作成されたと思われる同じデザインの資料は、状態の良い資料を選びデジタル化対象資料とした。
・同じデザインの資料でも、印刷時期が異なると思われる資料は、両方をデジタル化対象資料とした。ただし、明らかに所蔵資料の複製（コピー）と思われる資料は対象から外した。
・同じデザインの資料でも、印刷用紙が異なる場合（ざら紙と光沢紙など）は、印刷時期が異なる可能性を考慮し、両方をデジタル化資料とした。デジタル画像で、用紙の違いの判別がつくかもデジタル化の課題とした。
・撮影サイズはB2を基準に、B2以上の大きさの資料は、B2サイズを1コマとして複数画像の合成を行うこととした。そのため、特にポスターは、サイズに関して慎重に調査を行った。
・プレスシートは、印刷が両面か片面であるかを調査。折り畳みリーフレット形式のプレスシートの場合は、資料によって情報が連続する部分が異なるため、指示票で撮影単位と撮影順の指定を行った。
・ポスター、プレスシート共に、裏面に映倫印の押印などがある資料もあったが、今回は費用の圧縮のため、印刷された情報以外の情報については、撮影を行わなかった。
・今回のデジタル化候補資料は、図書管理システムには未登録であり、目録のデジタルデータが存在しなかったため、旧登録時代の所蔵番号を、事前調査作業で資料から目視で採集し、所蔵データに反映させた。
・調査で採集した情報でデジタル化資料リストを作成

**【デジタル撮影】**

**デジタルカメラによる撮影**

・撮影内容については仕様書を参照

## 画像チェック

**デジタル画像のチェック（資料現物とデジタル画像との突合せ）**

・撮影漏れ、折り畳み資料の撮影単位・撮影順、破れ・捲れ部分・傾き・ゴミの映り込みなどのチェック

## 納品

・仕様書

・画像（保存用ファイル[TIFF、JPEG]、閲覧用ファイル[PDF、JPEGサムネイル]）納品

**【メタデータ】**

今回デジタル化を行った資料はカード目録時代に登録した資料で、図書管理システムには未登録であり、今回のデジタル化の際に目録のデジタルデータが存在しなかった。そのため、登録済の同一作品の台本の書誌データを流用する形でポスター、プレスシートの書誌データを図書管理システムに登録し、システムからエクスポートしたデータを手作業で加工することで、簡易な書誌データを作成した。所蔵データについては、納品された画像のファイル名を取得してデータにし、カード目録時代の登録番号と、[書誌番号][資料区分名][タイトル][請求記号][巻冊次]など、納品に必要な情報を手作業で入力して作成した。また、これまで全く未整理の状態の資料21点については、図書管理システムに登録し、そのデータをエクスポートし、加工することで、所蔵データを作成した。

## 本事業における今年度の成果と課題

**【成果】**

今回、松竹大谷図書館の目録データをJFROLへ搭載することができたことで、映画資料の画像と目録のデータベースのWebでの運用モデルとしての成果が期待される。実際、所蔵情報をWebで公開することで資料の利用が増加することは、前期デジタル化を行った京都映画スクラップの閲覧希望が増加したことで、検証することができた。今回も期間限定とはいえ、JFROLによる所蔵情報とサムネイル画像のWeb公開により、一般、研究者、業界人など潜在的利用者を含む幅広い利用に対して、所蔵資料のアピールができると考えている。さらに、今回デジタル化を行った資料について、今後資料の閲覧においては、原物資料は原則非公開とし、館内PCでのPDFファイル閲覧に切り替えることで、原物資料を保護し状態の劣化を防ぐことが可能となり、その点においても、デジタル化による、検索の利便性向上、資料の利活用と保存という利点が考えられる。

**【課題】**

松竹大谷図書館では、2003年以前に登録した資料はカード目録による登録、2004年以降に登録した資料は図書管理システムを利用したデータ目録で管理している。カード目録時代の映画資料に関しては、現在台本の書誌についてデータ化（簡易入力を含む）が完了したものの、所蔵データについては未登録の台本も多く、また、それ以外のスチール、プレス、ポスターなどは、まだ目録がデータ化されていない状態である。今回の事業では、これらのカード目録時代の資料のうちの一部についてデータ化を行ったが、カード目録では、資料一点一点の情報が不十分なため、データ化に際しては、原物資料を確認して所蔵番号や資料の大きさなどの情報を補足しなくてはならず、予想以上に作業が繁多であったなどの課題も見出された。しかし、今後資料の利活用を進めるためには、目録データのWeb公開は必須であり、そのためには、必要最低限の作品情報だけを入力した簡易なデータで遡及登録を進めるなど、目録のデータ化に工夫が必要であることが今回の実証実験の結果考察できた。今回JFROLには、当館所蔵の映画関連資料のうち、約10%の目録データしか提供できなかったが、いずれ全国の映画資料館同士のネットワークが構築される時のために、今後も映画資料の目録のデータ化について推進していきたい。

## 今後の運用

**運用方法・アーカイブ構築**

・画像データについては、館内PCスタンドアローンでのPDFファイル閲覧など閲覧方法の検討

・旧登録（目録カード登録）状態の資料の図書管理システム登録によるさらなる書誌情報の充実化を検討

# 仕様書

1．件名：松竹大谷図書館所蔵松竹映画ポスター及びプレスシートのデジタルデータ化事業

2．目的：松竹大谷図書館所蔵松竹映画ポスター及びプレスシートのデジタルデータ化のため

3．期間：契約締結日の翌日から令和３年１月２８日まで

4．対象資料
ポスター：416 点（340 種）
プレス：150 点（149 種）
約 1,235 カット（予定）

5．作業環境
作業場所は、受託者が用意すること。作業場はセキュリティが確保されており、作業終了後は、対象資料を施錠のできる場所に保管できること。また、適切な温湿度管理がなされていること。

6．成果物
デジタル化したデータは、利用の利便性とデータ保存の堅牢性を考慮し、以下の二種類のメディアに書き込み、保存する。
（1）　画像データ（TIFF 形式保存用画像）1 式
作製した TIFF 形式保存用画像データを長期保存用ブルーレイディスク（BD）に格納して、1 部納入すること。
（2）　画像データ（JPEG 形式閲覧用画像）1 式
作製した JPEG 形式閲覧用画像データを長期保存用 DVD-R に格納して、1 部納入すること。
（3）　画像データ（PDF 形式閲覧用画像）1 式
作製した PDF 形式閲覧用画像データを長期保存用 DVD-R に格納して、1 部納入すること。
（4）　画像データ（JPEG 形式サムネイル用画像）1 式
作製した JPEG 形式サムネイル用画像データを長期保存用 DVD-R に格納して、1 部納入すること。

7．デジタル撮影作業
（1）　デジタル撮影要件
① デジタル撮影にあたっては、細心の注意を払い丁寧に資料を取り扱うこと。また、できる限り原資料に忠実な画像データができるよう、入念かつ丁寧な撮影を行うこと。
② 使用するカメラは、8000 万画素以上のデジタルカメラを使用すること。
③ 画像の入力解像度は資料原寸に対して 350dpi とすること。

④ 照明はライトを使用せず，紫外線を極力遮断したストロボを使用すること。
⑤ レンズは極力収差や歪みのない単焦点マクロレンズを使用すること。
⑥ 資料が湾曲した状態で影が映りこんでしまう場合などは、資料の全面をガラスで押さえ、影が出ないように撮影してよいものとする。なおガラス使用の際は、極力ガラスの重さが直接資料にかかったり、無理に資料を押さえつけたりすることがない工夫を施すこと。また、光の反射、写り込みが発生しないように撮影すること。

(2) デジタル撮影方法
① 撮影は資料を床面と平行な写台に広げ、真俯瞰撮影とすること。
② 撮影する資料に対して，天地左右の過大な余白を設けないこと。
③ 撮影する全てのコマにスケール及びカラーチャート（Kodak 社カラーセパレーションガイド＆グレースケール Q13 又は同等品）を写しこむこと。スケールの大きさは、原則として資料全体をカバーする長さで入れる。
④ ゴミ、ほこりがある場合は除去してから撮影すること。
⑤ ポスターは、原則として片面印刷のため、情報のある表面のみ 1 コマ撮影とする。
⑥ 物理的に複数枚で 1 枚のポスターになるもので、資料を並べた時に 1 ショットで資料原寸 350dpi の撮影範囲に入らない資料については分割撮影し、画像合成を実施する。
⑦ プレスは原則として、片面印刷の場合は開いて情報のある表面のみ 1 コマ撮影、両面印刷の場合は開いて表面（写真・絵面）→裏面（文字面）の 2 コマ撮影とする。但し、文字や写真・絵の流れによっては、割付指示に従って撮影し、文字や写真・絵の連続性を担保するものとする。
⑧ 大型ポスターは貼られているままの向きで広げて一コマで撮影。
⑨ プレスは表（絵面）、裏（字面）の順に撮影。

8．画像データの作製作業
(1) フォルダ名
ポスターは「1」で始まり、プレスは「2」で始まるリスト上の 4 桁の番号を付与する。
(2) 画像合成
合成箇所の継ぎ目が判別できることなく、合成による歪みの生じていない精緻で厳密な処理を施す。また原則として、合成に際して画像のリサイズは行わない。
(3) TIFF 形式保存用画像の作製
① RAW データに対して、カラーチャートを元に、ホワイトバランス調整、シャープネス調整、ICC プロファイル作成を行い、RAW 現像処理を行うこと。
② ファイル形式は、非圧縮 TIFF 形式とすること。
③ 階調は、24 ビットフルカラーとすること。
④ ICC プロファイルとして Adobe RGB を埋め込むこと。
(4) JPEG 形式閲覧用画像の作製
① TIFF 形式保存用画像から JPEG 形式閲覧用画像を作製すること。
② ファイル形式は、JPEG 形式とすること。

③ スケール及びカラーチャートが画面に入らないように、資料と適度な余白を残した状態でトリミングを実施すること。
④ ファイル容量は 2MB～3MB 程度とすること。
⑤ ICC プロファイルとして sRGB を埋め込むこと。

(5)　PDF 形式閲覧用画像の作製
① JPEG 形式閲覧用画像から PDF 形式閲覧用画像を作製すること。
② ファイル形式は、PDF 形式とすること。

(6)　JPEG 形式サムネイル用画像の作製
① JPEG 形式閲覧用画像から JPEG 形式サムネイル用画像を作製すること。
② ファイル形式は、JPEG 形式とすること。
③ 画像データから資料本体のみを切り出し、ピクセル値の大きい方の辺が 150 ピクセルとなるように作製する。ピクセル値の小さい方の辺は、上下又は左右に等幅の余白を付け、150 ピクセルとする。背景はグレイの単色塗りつぶしとする。

9．品質検査

(1)　作製した成果物については、品質検査をすること。
(2)　作製した画像データについては、1 コマごとにビューアソフトで表示して目視による確認を行うこと。当該検査の項目は次のとおりとする。
① 画像ファイル数
② 文字の判読性
③ 画像の階調性
④ 画像の向き、傾き
⑤ ピンボケ、モアレ、偽色、ゴミ・汚れ、光の反射の有無
⑥ 全ファイルの表示可能確認（画像展開検査）
(3)　品質検査の結果、画像データに不備がある場合は、当該画像を同一資料の他の画像データと同一の撮影環境で作製し直すこと。

１０．　納品媒体

(1)　BD-R・DVD-R は、寿命推定試験 30 年以上の結果が得られた長期保存用の国内メーカー品を使用すること。
(2)　納入するすべての記録媒体に対し、ウイルスチェックを行うこと。

１１．　成果物に係る利用と権利

受託者は、本件で知り得た情報に関して秘密を厳守するとともに、善良なる管理者の注意義務をもって管理し、無断でデジタル化したデータを複製及び複写したり、第三者に譲渡したりしてはならない。

１２．　検査及び支払方法

(1)　業務が完了したときは報告書を作成し、所定の検査を受ける。

(2)　検査合格後、業務委託契約書の規定にしたがい支払いを行う。

１３．　担当者

公益財団法人松竹大谷図書館　事務局　武藤祥子

電話:03－5550－1694

FAX:03－3541－3471

# 松竹大谷図書館 デジタルアーカイブ化作品リスト

## 松竹大谷図書館 デジタルアーカイブ化作品リスト

| ID | 作品名 | 収納アドレス | 監督名 | 製作年 | 備考 | ポスター | | | プレス | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 撮影コマ数 | 分割接合箇所数 | 納品ファイル数 | 撮影コマ数 | 分割接合箇所数 | 納品ファイル数 |
| 0 | マダムと女房 | | 五所平之助 | 1931 | 松竹蒲田 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 | 鏡獅子 | | 小津安二郎 | 1935 | 松竹蒲田 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 2 | 風の中の牝鶏 | | 小津安二郎 | 1948 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 3 | 晩春 | | 小津安二郎 | 1949 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 4 | 麦秋 | | 小津安二郎 | 1951 | 松竹大船 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 5 | お茶漬の味 | | 小津安二郎 | 1952 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 6 | 東京物語 | マップケース | 小津安二郎 | 1953 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 4 | 0 | 4 |
| 7 | 早春 | | 小津安二郎 | 1956 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 7 |
| 8 | 東京暮色 | | 小津安二郎 | 1957 | 松竹大船 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 9 | 彼岸花 | | 小津安二郎 | 1958 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 9 | 1 | 8 |
| 10 | お早よう | | 小津安二郎 | 1959 | 松竹大船 | 15 | 3 | 12 | 7 | 1 | 6 |
| | お早よう | 筒 1/2 | 小津安二郎 | 1959 | 松竹大船 | | | | | | |
| 11 | 秋日和 | | 小津安二郎 | 1960 | 松竹大船 | 6 | 2 | 4(JFROL連結は 3) | 9 | 0 | 9 |
| 12 | 秋刀魚の味 | | 小津安二郎 | 1962 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 9 | 0 | 9 |
| 13 | 大曾根家の朝 | | 木下恵介 | 1946 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 14 | 結婚 | | 木下恵介 | 1947 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 15 | 女 | | 木下恵介 | 1948 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 16 | 肖像 | | 木下恵介 | 1948 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 17 | 破戒 | | 木下恵介 | 1948 | 松竹京都 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 18 | お嬢さん乾杯 | | 木下恵介 | 1949 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 19 | 四谷怪談 前篇・後篇 | | 木下恵介 | 1949 | 松竹京都 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 20 | 破れ太鼓 | | 木下恵介 | 1949 | 松竹京都 | 1 | 0 | 1 | 4 | 0 | 4(JFROL連結は 2) |
| 21 | 婚約指環 | | 木下恵介 | 1950 | 松竹大船<br>田中絹代プロ | 1 | 0 | 1 | 4 | 0 | 4 |
| 22 | 善魔 | | 木下恵介 | 1951 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 23 | カルメン故郷に帰る | | 木下恵介 | 1951 | 松竹大船 | 6 | 2 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 24 | 少年期 | | 木下恵介 | 1951 | 松竹大船 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 25 | 海の花火 | | 木下恵介 | 1951 | 松竹大船 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 26 | カルメン純情す | | 木下恵介 | 1952 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 27 | 日本の悲劇 | | 木下恵介 | 1953 | 松竹大船 | 6 | 3 | 3 | 2 | 0 | 2 |
| 28 | 女の園 | | 木下恵介 | 1954 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 29 | 二十四の瞳 | 2 封筒 | 木下恵介 | 1954 | 松竹大船 | 6 | 2 | 4 | 7 | 0 | 7 |
| 30 | 遠い雲 | | 木下恵介 | 1955 | 松竹大船 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 31 | 野菊の如き君なりき | | 木下恵介 | 1955 | 松竹大船 | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 32 | 夕やけ雲 | | 木下恵介 | 1956 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 33 | 太陽とバラ | | 木下恵介 | 1956 | 松竹大船 | 1 | 0 | 1 | 5 | 0 | 5 |
| 34 | 喜びも悲しみも幾歳月 第一部第二部 | | 木下恵介 | 1957 | 松竹大船 | 3 | 0 | 3 | 2 | 0 | 2 |
| | 喜びも悲しみも幾歳月 第一部第二部 | 筒 2/2 | 木下恵介 | 1957 | 松竹大船 | | | | | | |
| 35 | 風前の灯 | | 木下恵介 | 1957 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 36 | 楢山節考 | | 木下恵介 | 1958 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 6 | 1 | 5 |
| 37 | この天の虹 | | 木下恵介 | 1958 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 8 | 1 | 7 |
| 38 | 風花 | | 木下恵介 | 1959 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 39 | 惜春鳥 | | 木下恵介 | 1959 | 松竹大船 | 14 | 8 | 6 | 7 | 1 | 6 |
| 40 | 今日もまたかくてありなん | | 木下恵介 | 1959 | 松竹大船 | 5 | 2 | 3 | 7 | 1 | 6 |
| 41 | 春の夢 | | 木下恵介 | 1960 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 2 | 0 | 2 |
| 42 | 笛吹川 | | 木下恵介 | 1960 | 松竹大船 | 6 | 3 | 3 | 2 | 0 | 2 |
| 43 | 永遠の人 | | 木下恵介 | 1961 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 44 | 今年の恋 | | 木下恵介 | 1962 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 45 | 二人で歩いた幾春秋 | | 木下恵介 | 1962 | 松竹大船 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 9 |

| ID | 作品名 | 収納アドレス | 監督名 | 製作年 | 備考 | ポスター | | | プレス | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 撮影コマ数 | 分割接合箇所数 | 納品ファイル数 | 撮影コマ数 | 分割接合箇所数 | 納品ファイル数 |
| 46 | 歌え若人達 | | 木下惠介 | 1963 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 47 | 死闘の伝説 | | 木下惠介 | 1963 | 松竹大船 | 5 | 1 | 4 | 2 | 0 | 2 |
| 48 | 香華 前後篇 | | 木下惠介 | 1964 | 松竹大船 | 13 | 0 | 13 | 8 | 0 | 8 |
| 49 | 衝動殺人　息子よ | | 木下惠介 | 1979 | 松竹<br>東京放送 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 50 | 父よ母よ！ | | 木下惠介 | 1980 | 松竹大船 | 3 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 51 | この子を残して | | 木下惠介 | 1983 | 松竹<br>ホリ企画 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 52 | 新・喜びも悲しみも幾歳月 | | 木下惠介 | 1986 | 松竹<br>東京放送<br>博報堂 | 4 | 1 | 3 | 2 | 0 | 2 |
| 53 | 父 | | 木下惠介 | 1988 | 松竹<br>ビックバン＝<br>キネマ東京 | 5 | 1 | 4 | 3 | 0 | 3 |
| 54 | 黄色いさくらんぼ | | 野村芳太郎 | 1960 | 松竹大船 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 55 | 鑑賞用男性 | | 野村芳太郎 | 1960 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 56 | 最後の切札 | | 野村芳太郎 | 1960 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 57 | ゼロの焦点 | | 野村芳太郎 | 1961 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 58 | 恋の画集 | | 野村芳太郎 | 1961 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 59 | 背徳のメス | | 野村芳太郎 | 1961 | 松竹京都 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 60 | 春の山脈 | | 野村芳太郎 | 1962 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 61 | 左ききの狙撃者 東京湾 | | 野村芳太郎 | 1962 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 62 | あの橋の畔で | | 野村芳太郎 | 1962 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 63 | あの橋の畔で 第２部 | | 野村芳太郎 | 1962 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 4 | 0 | 4 |
| 64 | あの橋の畔で 第３部 | | 野村芳太郎 | 1963 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 65 | あの橋の畔で 完結篇 | | 野村芳太郎 | 1963 | 松竹大船 | 6 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 66 | 拝啓天皇陛下様 | | 野村芳太郎 | 1963 | 松竹大船 | 9 | 3 | 6 | 1 | 0 | 1 |
| 67 | 続・拝啓天皇陛下様 | | 野村芳太郎 | 1964 | 松竹大船 | 6 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 68 | 拝啓総理大臣様 | | 野村芳太郎 | 1964 | 松竹大船 | 6 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 69 | 五辨の椿 | | 野村芳太郎 | 1964 | 松竹大船 | 12 | 2 | 10 | 7 | 0 | 7 |
| 70 | 素敵な今晩わ | | 野村芳太郎 | 1965 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 71 | 望郷と掟 | | 野村芳太郎 | 1966 | 松竹＝<br>ＣＡＧ | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 72 | 暖流 | | 野村芳太郎 | 1966 | 松竹大船 | 6 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 73 | おはなはん | | 野村芳太郎 | 1966 | 松竹大船 | 6 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 74 | おはなはん 第二部 | | 野村芳太郎 | 1966 | 松竹大船 | 5 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 75 | 命果てる日まで | | 野村芳太郎 | 1966 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 76 | あゝ君が愛 | | 野村芳太郎 | 1967 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 77 | 女たちの庭 | | 野村芳太郎 | 1967 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 78 | 女の一生 | | 野村芳太郎 | 1967 | 松竹大船 | 8 | 2 | 6 | 3 | 0 | 3 |
| 79 | 男なら振りむくな | | 野村芳太郎 | 1967 | 松竹大船 | 6 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 80 | 夜明けの二人 | | 野村芳太郎 | 1968 | 松竹大船 | 8 | 2 | 6 | 1 | 0 | 1 |
| 81 | 白昼堂々 | | 野村芳太郎 | 1968 | 松竹大船 | 5 | 1 | 4 | 2 | 0 | 2 |
| 82 | コント５５号と水前寺清子の神様の恋人 | | 野村芳太郎 | 1968 | 松竹大船 | 5 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 83 | でっかいでっかい野郎 | | 野村芳太郎 | 1969 | 松竹大船 | 7 | 2 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 84 | ひばり・橋の花と喧嘩 | | 野村芳太郎 | 1969 | 松竹大船 | 7 | 3 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 85 | コント５５号と水前寺清子のワン・ツウー・パンチ三百六十五歩のマーチ | | 野村芳太郎 | 1969 | 松竹大船 | 7 | 2 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 86 | チンチン５５号ぶっ飛ばせ！出発進行 | | 野村芳太郎 | 1969 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 87 | 影の車 | | 野村芳太郎 | 1970 | 松竹大船 | 6 | 2 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 88 | 三度笠だよ人生は | | 野村芳太郎 | 1970 | 松竹大船 | 7 | 2 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 89 | こちら５５号応答せよ！危機百発 | | 野村芳太郎 | 1970 | 松竹大船 | 6 | 2 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 90 | なにがなんでも為五郎 | | 野村芳太郎 | 1970 | 松竹大船 | 5 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 |

松竹大谷図書館 デジタルアーカイブ化作品リスト ── P.2

| ID | 作品名 | 収納アドレス | 監督名 | 製作年 | 備考 | ポスター | | | プレス | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 撮影コマ数 | 分割接合箇所数 | 納品ファイル数 | 撮影コマ数 | 分割接合箇所数 | 納品ファイル数 |
| 91 | コント５５号と水前寺清子の大勝負 | | 野村芳太郎 | 1970 | 松竹大船 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 92 | やるぞみておれ為五郎 | | 野村芳太郎 | 1971 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 93 | 花も実もある為五郎 | | 野村芳太郎 | 1971 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 94 | コント５５号とミーコの絶体絶命 | | 野村芳太郎 | 1971 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 95 | 初笑いびっくり武士道 | | 野村芳太郎 | 1972 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 96 | しなの川 | | 野村芳太郎 | 1973 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 97 | ダメおやじ | | 野村芳太郎 | 1973 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 98 | 東京ド真ン中 | | 野村芳太郎 | 1974 | 松竹大船 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 99 | 砂の器 | | 野村芳太郎 | 1974 | 松竹<br>橋本プロ | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 100 | 昭和枯れすすき | | 野村芳太郎 | 1975 | 松竹大船 | 5 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 101 | 八つ墓村 | | 野村芳太郎 | 1977 | 松竹 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 102 | 事件 | | 野村芳太郎 | 1978 | 松竹 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 103 | 鬼畜 | | 野村芳太郎 | 1978 | 松竹 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 104 | 配達されない三通の手紙 | | 野村芳太郎 | 1979 | 松竹 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 105 | わるいやつら | | 野村芳太郎 | 1980 | 松竹<br>霧プロ | 5 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 106 | 震える舌 | | 野村芳太郎 | 1980 | 松竹 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 107 | 真夜中の招待状 | | 野村芳太郎 | 1981 | 松竹 | 3 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 108 | 疑惑 | | 野村芳太郎 | 1982 | 松竹<br>霧プロ | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 109 | 迷走地図 | | 野村芳太郎 | 1983 | 松竹<br>霧プロ | 7 | 2 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 110 | ねずみ小僧怪盗伝 | | 野村芳太郎 | 1984 | 松竹<br>クラップボード | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 111 | 危険な女たち | | 野村芳太郎 | 1985 | 松竹<br>クラップボード | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 112 | 白痴 | | 黒澤明 | 1951 | 松竹大船 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 113 | 黒蜥蜴 | | 深作欣二 | 1968 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 114 | 恐喝こそわが人生 | | 深作欣二 | 1968 | 松竹大船 | 8 | 2 | 6 | 1 | 0 | 1 |
| 115 | 黒薔薇の舘 | | 深作欣二 | 1969 | 松竹大船 | 4 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 116 | 道頓堀川 | | 深作欣二 | 1982 | 松竹 | 5 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 117 | 蒲田行進曲 | | 深作欣二 | 1982 | 松竹<br>角川春樹事務所 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 118 | 上海バンスキング | | 深作欣二 | 1984 | 松竹<br>テレビ朝日<br>西武流通グループ | 7 | 2 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| 119 | 必殺ＩＶ 恨みはらします | | 深作欣二 | 1987 | 松竹<br>朝日放送<br>京都映画 | 10 | 3 | 7 | 2 | 0 | 2 |
| 120 | いつかギラギラする日 | | 深作欣二 | 1992 | 日本テレビ<br>バンダイ<br>松竹<br>第一興行 | 5 | 1 | 4 | 8 | 2 | 6 |
| 121 | 忠臣蔵外伝 四谷怪談 | | 深作欣二 | 1994 | 松竹 | 9 | 3 | 6 | 4 | 0 | 4 |
| | 計 | | | | | 465 | 124 | 337 | 287 | 8 | 275 |

VIPO様ご依頼：『白痴』（公開70周年）・深作欣二監督作品（初監督作品公開60周年）
未整理資料
所蔵なし

# 東映太秦映画村　デジタルアーカイブ実証研究に関わる業務についての完了報告書

令和２年度文化庁受託事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」
デジタルアーカイブ実証研究に関わる業務についての完了報告書

株式会社東映京都スタジオ
管理部長河西

◆概要
弊社が運営している東映太秦映画村にある映画図書室は、ポスター約３万点(重複分含む)、台本約１万 5,000 冊、スチール写真約 10 万点、プレスシート約１万点以上、書籍 7,000 冊、映像ソフト約 5,000 点など、総計 20 万点以上を所蔵している。

◆作品
令和 2 年度文化庁受託事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」デジタルアーカイブ実証研究により、これらのアナログ資料群の内、東映株式会社アーカイブ・スクワッドと映像産業振興機構との検討の結果、以下のテーマに沿った作品群のポスターとプレスシートについてデジタル化を実施した。

●東映 70 周年記念作品（5 作品）
ポスター：6 点（4 作品分）、プレスシート 16 点（4 作品分）
●深作欣二監督作品：初監督作品公開 60 周年（51 作品）
ポスター：73 点（47 作品分）、プレスシート 217 点（51 作品分）
●高倉健主演作品：生誕 90 周年（180 作品）
ポスター：206 点（172 作品分）、プレスシート 690 点（179 作品分）
●岩下志麻主演作品：生誕 80 周年（14 作品）
ポスター：27 点（14 作品分）、プレスシート 140 点（14 作品分）

◆スケジュール
○9 月 29 日：2021 年デジタル化事業打ち合わせ（VIPO、東映株式会社、東映京都スタジオ）
○9 月末～10 月末：デジタル化候補資料リストアップ
○10 月 13 日：デジタル化作品打合せ
○10 月 28 日：デジタル化連結方法打合せ（VIPO、東映株式会社、東映京都スタジオ）
○11 月 24 日～12 月 25 日：ポスター・デジタルアーカイブ作成
○12 月 3 日～23 日：プレスシート・デジタルアーカイブ作成
○12 月 25 日：デジタル化資料データ 1,372 件納品（東映京都スタジオ⇒角川アスキー）

○3 月初旬：報告書納品（東映京都スタジオ⇒VIPO）◆作業内容

① プレスシート

・使用機材

Fujitsu fi-7460（スキャナー・今季購入）

Canon kissX5（デジタルカメラ）

上記機材でスキャンできない大きい下記資料を撮影し、SD カードから PC に保存。

●東映 70 周年記念作品　2 点（1 作品）

●深作欣二監督作品　54 点（15 作品）

●高倉健主演作品　97 点（78 作品）

●岩下志主演麻作品　42 点（12 作品）

・スケジュール

12 月 3 日～4 日：文化館資料庫内より資料搬出

12 月 7 日～18 日：スキャニング期作業（7 日は確認・準備作業）

12 月 21 日～23 日：タイトル付与・データフォルダ作成

②ポスター

・担当業者：Kinkos

・スケジュール

11 月 24 日～26 日：文化館資料庫内より資料搬出

11 月 27 日：データ化依頼

12 月 25 日：データ納品

◆成果

これらのデジタルアーカイブデータを JFROL へ提供したことにより、これまで倉庫の奥にしまい込まれていた映画資料に限定公開とは言え、日の目を当たらせることができたのは、このようなプロジェクトが無ければ決して実現しなかっただろうと思われる。

但し、今回はポスターに限れば、デジタルアーカイブ化した分量は所蔵しているものの数パーセントに過ぎず、費用面の観点から今後のデジタルアーカイブ化する資料の優先順位や取捨選択、外注ではなく違うデジタル化の方法などを検討する必要があるだろう。

また、次期以降は諸問題をクリアしつつデジタルアーカイブを一般の方へも公開を広げ、さらに弊社は展示スペースもあるので、公開している作品と連動させた現物資料の展示を実施し、旧作への関心を高め映画文化の振興を図っていくことが次期以降、取り組むべきテーマだと考えている。

## 東映太秦映画村・映画図書室 デジタルアーカイブ化作品リスト

| | 作品名 | 公開年 | ポスター | プレス |
|---|---|---|---|---|
| 70周年記念作品 | 無国籍者 | 19510414 | 1 | 0 |
| | 赤穂浪士 天の巻・地の巻 | 19560115 | 1 | 8 |
| | 反逆児 | 19611108 | 0 | 2 |
| | 赤穂浪士 | 19610328 | 2 | 5 |
| | 白蛇伝 | 19581022 | 2 | 1 |
| 深作欣二監督作品 | ガンマー第３号　宇宙大作戦 | 19681219 | 0 | 1 |
| | 日本暴力団　組長 | 19690708 | 1 | 3 |
| | 血染の代紋 | 19700131 | 1 | 3 |
| | 博徒外人部隊 | 19710112 | 1 | 3 |
| | 現代やくざ　人斬り与太 | 19720506 | 1 | 1 |
| | 仁義なき戦い | 19730113 | 2 | 7 |
| | 人斬り与太　狂犬三兄弟 | 19721025 | 1 | 2 |
| | 仁義なき戦い　代理戦争 | 19730929 | 2 | 3 |
| | 仁義なき戦い　広島死闘篇 | 19730428 | 1 | 2 |
| | 仁義なき戦い　頂上作戦 | 19740115 | 2 | 6 |
| | 仁義なき戦い　完結篇 | 19740629 | 1 | 2 |
| | 仁義の墓場 | 19750215 | 2 | 2 |
| | 新仁義なき戦い | 19741228 | 1 | 1 |
| | 県警対組織暴力 | 19750426 | 2 | 1 |
| | 資金源強奪 | 19750621 | 1 | 1 |
| | 新仁義なき戦い　組長の首 | 19751101 | 2 | 1 |
| | 新仁義なき戦い　組長最後の日 | 19760424 | 2 | 1 |
| | 暴走パニック大激突 | 19760228 | 1 | 1 |
| | やくざの墓場　くちなしの花 | 19761030 | 1 | 1 |
| | 北陸代理戦争 | 19770226 | 1 | 2 |
| | ドーベルマン刑事 | 19770702 | 1 | 2 |
| | 柳生一族の陰謀 | 19780121 | 2 | 11 |
| | 宇宙からのメッセージ | 19780429 | 3 | 15 |
| | 赤穂城断絶 | 19781028 | 2 | 10 |
| | 仁義なき戦い　総集篇 | 19800405 | 2 | 0 |
| | 青春の門 | 19810115 | 4 | 9 |
| | 魔界転生（１９８１年） | 19810606 | 2 | 15 |
| | 人生劇場 | 19830129 | 3 | 11 |
| | 里見八犬伝 | 19831210 | 3 | 8 |
| | 火宅の人 | 19860412 | 2 | 11 |
| | 華の乱 | 19881001 | 3 | 12 |
| | おもちゃ | 19990115 | 1 | 6 |
| | バトル・ロワイアル | 20001216 | 2 | 3 |
| | バトル・ロワイアル　特別篇 | 20010407 | 1 | 2 |
| | バトル・ロワイアルⅡ　鎮魂歌 | 20030705 | 1 | 2 |
| | バトル・ロワイアル　３Ｄ | 20101120 | 1 | 2 |
| | 風来坊探偵　赤い谷の惨劇 | 19610609 | 1 | 4 |
| | 風来坊探偵　岬を渡る黒い風 | 19610623 | 0 | 2 |
| | ファンキーハットの快男児 | 19610805 | 0 | 6 |
| | ファンキーハットの快男児　２千万円の腕 | 19610913 | 0 | 2 |
| | 白昼の無頼漢 | 19611101 | 1 | 2 |
| | 誇り高き挑戦 | 19620328 | 1 | 8 |
| | ギャング対Ｇメン | 19621102 | 1 | 4 |
| | ギャング同盟 | 19630731 | 1 | 2 |
| | ジャコ萬と鉄 | 19640208 | 1 | 2 |
| | 狼と豚と人間 | 19640826 | 1 | 2 |
| | 脅迫 | 19660217 | 1 | 4 |
| | カミカゼ野郎　真昼の決斗 | 19660604 | 2 | 6 |
| | 北海の暴れ竜 | 19661022 | 2 | 4 |
| | 解散式 | 19670401 | 1 | 3 |
| | 博徒解散式 | 19680209 | 1 | 3 |

| | 作品名 | 公開年 | ポスター | プレス |
|---|---|---|---|---|
| 高倉健主演作品 | 侠客列伝 | 19680801 | 1 | 4 |
| | ごろつき | 19681012 | 1 | 2 |
| | 人生劇場 飛車角と吉良常 | 19681025 | 1 | 2 |
| | 博徒列伝 | 19681228 | 1 | 3 |
| | 新網走番外地 | 19681228 | 2 | 7 |
| | 緋牡丹博徒 花札勝負 | 19690201 | 1 | 3 |
| | 昭和残侠伝 唐獅子仁義 | 19690306 | 1 | 2 |
| | 緋牡丹博徒 二代目襲名 | 19690410 | 1 | 4 |
| | 戦後最大の賭場 | 19690419 | 1 | 2 |
| | 懲役三兄弟 | 19690501 | 1 | 3 |
| | 日本侠客伝 花と龍 | 19690531 | 1 | 2 |
| | 日本女侠伝 侠客芸者 | 19690731 | 1 | 4 |
| | 新網走番外地 流人岬の血斗 | 19690813 | 1 | 1 |
| | 日本暗殺秘録 | 19691015 | 2 | 3 |
| | 昭和残侠伝 人斬り唐獅子 | 19691128 | 2 | 2 |
| | 渡世人列伝 | 19691227 | 1 | 2 |
| | 新網走番外地 さいはての流れ者 | 19691227 | 2 | 5 |
| | 日本女侠伝 真赤な度胸花 | 19700109 | 2 | 3 |
| | 博徒一家 | 19700329 | 1 | 2 |
| | 捨て身のならず者 | 19700501 | 1 | 2 |
| | 日本ダービー 勝負 | 19700513 | 1 | 2 |
| | 遊侠列伝 | 19700704 | 1 | 3 |
| | 新網走番外地 大森林の決斗 | 19700814 | 1 | 2 |
| | 昭和残侠伝 死んで貰います | 19700922 | 2 | 2 |
| | 最後の特攻隊 | 19701029 | 1 | 8 |
| | 日本侠客伝 昇り龍 | 19701203 | 1 | 3 |
| | 新網走番外地 吹雪のはぐれ狼 | 19701230 | 1 | 4 |
| | 日本やくざ伝 総長への道 | 19710306 | 1 | 3 |
| | 日本女侠伝 血斗乱れ花 | 19710403 | 1 | 3 |
| | 日本侠客伝 刃 | 19710428 | 1 | 2 |
| | ごろつき無宿 | 19710625 | 1 | 3 |
| | 新網走番外地 嵐呼ぶ知床岬 | 19710813 | 1 | 2 |
| | 昭和残侠伝 吼えろ唐獅子 | 19711027 | 2 | 3 |
| | 新網走番外地 吹雪の大脱走 | 19711229 | 1 | 3 |
| | 任侠列伝 男 | 19711203 | 1 | 3 |
| | 新網走番外地 嵐呼ぶダンプ仁義 | 19720812 | 3 | 2 |
| | 純子引退記念映画 関東緋桜一家 | 19720304 | 2 | 3 |
| | 望郷子守唄 | 19720401 | 1 | 4 |
| | 博奕打ち外伝 | 19720730 | 1 | 3 |
| | 昭和残侠伝 破れ傘 | 19721230 | 2 | 2 |
| | 日本任侠道 激突篇 | 19750115 | 2 | 3 |
| | ゴルゴ１３ | 19731229 | 1 | 7 |
| | 山口組三代目 | 19730811 | 1 | 3 |
| | 現代任侠史 | 19731027 | 1 | 1 |
| | 三代目襲名 | 19740810 | 1 | 2 |
| | 新幹線大爆破 | 19750705 | 2 | 4 |
| | 大脱獄 | 19750405 | 1 | 1 |
| | 神戸国際ギャング | 19751004 | 3 | 3 |
| | 動乱 第１部海峡を渡る愛／第２部雪降り止まず | 19800115 | 1 | 26 |
| | 冬の華 | 19780617 | 3 | 6 |
| | 鉄道員（ぽっぽや） | 19990605 | 3 | 4 |
| | ホタル | 20010526 | 0 | 3 |
| | 電光空手打ち | 19560122 | 1 | 3 |
| | 流星空手打ち | 19560129 | 1 | 6 |
| | チョップ先生 | 19560404 | 1 | 5 |
| | 大学の石松 | 19560518 | 1 | 4 |

東映太秦映画村　映画図書室 デジタルアーカイブ化作品リスト ── P.1

| | 作品名 | 公開年 | ポスター | プレス |
|---|---|---|---|---|
| 高倉健主演作品 | にっぽんGメン 特別武装班出動 | 19560725 | 1 | 7 |
| | 大学の石松 ぐれん隊征伐 | 19560829 | 1 | 5 |
| | 大学の石松 太陽族に挑戦す | 19560911 | 1 | 3 |
| | 夕日と拳銃 日本篇／大陸篇 | 19560918 | 0 | 9 |
| | 母孔雀 | 19561205 | 1 | 8 |
| | 拳銃を捨てろ | 19561219 | 1 | 5 |
| | 恐怖の空中殺人 | 19561226 | 1 | 7 |
| | 喧嘩社員 | 19570313 | 1 | 2 |
| | 無敵社員 | 19570327 | 1 | 7 |
| | 第十三号桟橋 | 19570409 | 0 | 5 |
| | 大学の石松 女群突破 | 19570416 | 1 | 6 |
| | 多情佛心 | 19570507 | 1 | 3 |
| | 霧の街 | 19570618 | 2 | 4 |
| | 鯨と斗う男 | 19570709 | 1 | 4 |
| | 青い海原 | 19570730 | 1 | 4 |
| | 血まみれの決闘 | 19570828 | 1 | 5 |
| | ジェット機出動 第１０１航空基地 | 19571215 | 1 | 0 |
| | 娘十八 御意見無用 | 19580103 | 1 | 3 |
| | 多羅尾伴内 十三の魔王 | 19580115 | 1 | 4 |
| | 台風息子 修学旅行の巻 | 19580311 | 1 | 10 |
| | 台風息子 最高殊勲の巻 | 19580318 | 1 | 4 |
| | 非常線 | 19580409 | 1 | 5 |
| | 恋愛自由型 | 19580430 | 1 | 5 |
| | 季節風の彼方に | 19580610 | 1 | 13 |
| | 奴の拳銃は地獄だぜ | 19580615 | 1 | 4 |
| | ひばりの花形探偵合戦 | 19580806 | 1 | 3 |
| | 空中サーカス 嵐を呼ぶ猛獣 | 19580812 | 1 | 3 |
| | 希望の乙女 | 19580910 | 1 | 3 |
| | 森と湖のまつり | 19581126 | 1 | 6 |
| | 娘の中の娘 | 19581209 | 1 | 4 |
| | 旋風家族 | 19590128 | 1 | 3 |
| | 無法街の野郎ども | 19590128 | 1 | 3 |
| | 黒い指の男 | 19590210 | 1 | 4 |
| | 獣の通る道 | 19590224 | 2 | 5 |
| | 漂流死体 | 19590513 | 2 | 3 |
| | 地獄の底までつき合うぜ | 19590601 | 0 | 1 |
| | 疑惑の夜 | 19590630 | 1 | 10 |
| | 静かなる兇弾 | 19590902 | 1 | 4 |
| | 高度 7000 米 恐怖の四時間 | 19590930 | 1 | 5 |
| | 空港の魔女 | 19591122 | 1 | 2 |
| | 天下の快男児 万年太郎 | 19600121 | 1 | 6 |
| | 二発目は地獄行きだぜ | 19600127 | 1 | 6 |
| | 続べらんめぇ藝者 | 19600301 | 1 | 5 |
| | 大いなる旅路 | 19600308 | 1 | 10 |
| | ずべ公天使 | 19600315 | 1 | 3 |
| | 大空の無法者 | 19600510 | 1 | 4 |
| | 天下の快男児 突進太郎 | 19600713 | 1 | 6 |
| | 続々べらんめぇ藝者 | 19600807 | 1 | 1 |
| | 砂漠を渡る太陽 | 19600824 | 1 | 2 |
| | 殴り込み艦隊 | 19601030 | 1 | 3 |
| | 男ならやってみろ | 19601129 | 1 | 4 |
| | べらんめぇ藝者罷り通る | 19610109 | 1 | 8 |
| | 俺が地獄の手品師だ | 19610115 | 1 | 7 |
| | 天下の快男児 旋風太郎 | 19610214 | 1 | 4 |
| | 男の血潮がこだまする | 19610514 | 1 | 2 |
| | 魚河岸の女石松 | 19610531 | 0 | 2 |

| | 作品名 | 公開年 | ポスター | プレス |
|---|---|---|---|---|
| 高倉健主演作品 | 花と嵐とギャング | 19610623 | 1 | 2 |
| | ひばり民謡の旅シリーズ べらんめぇ藝者佐渡へ行く | 19610805 | 0 | 1 |
| | 万年太郎と姐御社員 | 19611007 | 0 | 2 |
| | ひばり民謡の旅シリーズ べらんめぇ中乗りさん | 19611022 | 1 | 2 |
| | 悪魔の手毬唄 | 19611115 | 0 | 1 |
| | 南太平洋波高し | 19620109 | 1 | 1 |
| | べらんめぇ芸者と大阪娘 | 19620207 | 1 | 3 |
| | 二・二六事件 脱出 | 19620314 | 1 | 3 |
| | 恋と太陽とギャング | 19620321 | 1 | 2 |
| | 千姫と秀頼 | 19620325 | 1 | 5 |
| | 黄門社長漫遊記 | 19620404 | 1 | 2 |
| | 民謡の旅 桜島 おてもやん | 19620501 | 1 | 2 |
| | 東京丸の内 | 19620829 | 1 | 1 |
| | 三百六十五夜 | 19620909 | 1 | 3 |
| | 暗黒街最後の日 | 19621012 | 2 | 1 |
| | 東京アンタッチャブル | 19621021 | 1 | 2 |
| | 遊民街の銃弾 | 19621209 | 1 | 3 |
| | 裏切者は地獄だぜ | 19621223 | 1 | 2 |
| | 暗黒街の顔役 十一人のギャング | 19630115 | 1 | 1 |
| | 第八空挺部隊 壮烈鬼隊長 | 19630206 | 1 | 2 |
| | 暴力街（１９６３年） | 19630309 | 1 | 3 |
| | 人生劇場 飛車角 | 19630316 | 2 | 4 |
| | 東京アンタッチャブル 脱走 | 19630316 | 1 | 1 |
| | 最後の顔役 | 19630412 | 1 | 1 |
| | 親分を倒せ | 19630622 | 1 | 3 |
| | 暗黒街最大の決斗 | 19630713 | 1 | 2 |
| | 宮本武蔵 二刀流開眼 | 19630814 | 1 | 5 |
| | 恐喝 | 19630914 | 1 | 3 |
| | ギャング忠臣蔵 | 19631019 | 1 | 3 |
| | 鬼検事 | 19631113 | 1 | 2 |
| | 宮本武蔵 一乗寺の決斗 | 19640101 | 1 | 5 |
| | 東京ギャング対香港ギャング | 19640101 | 1 | 2 |
| | ならず者 | 19640405 | 2 | 3 |
| | 暗黒街大通り | 19640425 | 1 | 2 |
| | 日本侠客伝 | 19640813 | 2 | 3 |
| | いれずみ突撃隊 | 19641021 | 2 | 3 |
| | 顔役 | 19650103 | 1 | 4 |
| | 飢餓海峡 | 19650115 | 2 | 2 |
| | 日本侠客伝 浪花篇 | 19650130 | 1 | 3 |
| | 網走番外地 | 19650418 | 1 | 5 |
| | 続網走番外地 | 19650710 | 2 | 4 |
| | 日本侠客伝 関東篇 | 19650812 | 1 | 4 |
| | 宮本武蔵 巌流島の決斗 | 19650904 | 1 | 24 |
| | 昭和残侠伝 | 19651001 | 1 | 5 |
| | 網走番外地 望郷篇 | 19651031 | 1 | 6 |
| | 網走番外地 北海篇 | 19651231 | 2 | 4 |
| | 昭和残侠伝 唐獅子牡丹 | 19660113 | 2 | 4 |
| | 日本侠客伝 血斗神田祭り | 19660203 | 1 | 1 |
| | 網走番外地 荒野の対決 | 19660423 | 2 | 6 |
| | 男の勝負 | 19660701 | 1 | 6 |
| | 昭和残侠伝 一匹狼 | 19660709 | 2 | 5 |
| | 網走番外地 南国の対決 | 19660813 | 1 | 3 |
| | 日本侠客伝 雷門の決斗 | 19660917 | 1 | 4 |
| | 地獄の掟に明日はない | 19661030 | 1 | 4 |
| | 網走番外地 大雪原の対決 | 19661230 | 1 | 4 |
| | 日本侠客伝 白刃の盃 | 19670128 | 1 | 3 |

東映太秦映画村　映画図書室 デジタルアーカイブ化作品リスト ── P.2

| | 作品名 | 公開年 | ポスター | プレス |
|---|---|---|---|---|
| 高倉健主演作品 | 網走番外地 決斗零下３０度 | 19670420 | 1 | 2 |
| | あ＞同期の桜 | 19670603 | 1 | 7 |
| | 昭和残侠伝 血染の唐獅子 | 19670708 | 1 | 1 |
| | 網走番外地 悪への挑戦 | 19670812 | 1 | 3 |
| | 日本侠客伝 斬り込み | 19670915 | 1 | 2 |
| | 侠客の掟 | 19671010 | 1 | 5 |
| | 侠骨一代 | 19671101 | 1 | 1 |
| | 網走番外地 吹雪の斗争 | 19671223 | 1 | 2 |
| | 日本侠客伝 絶縁状 | 19680222 | 1 | 3 |
| | 獄中の顔役 | 19680419 | 1 | 1 |
| | 荒野の渡世人 | 19680615 | 1 | 4 |
| | 緋牡丹博徒 | 19680914 | 2 | 9 |
| 岩下志麻主演作品 | 鬼龍院花子の生涯 | 19820605 | 3 | 20 |
| | 悪霊島 | 19811003 | 1 | 12 |
| | 北の螢 | 19840901 | 3 | 6 |
| | 魔の刻 | 19850126 | 1 | 9 |
| | 極道の妻たち | 19861115 | 1 | 7 |
| | 桜の樹の下で | 19890513 | 3 | 6 |
| | 極道の妻たち 最後の戦い | 19900602 | 3 | 3 |
| | 新 極道の妻たち | 19910615 | 2 | 11 |
| | 新 極道の妻たち 覚悟しいや | 19930130 | 1 | 5 |
| | 新 極道の妻たち 惚れたら地獄 | 19940115 | 1 | 15 |
| | 極道の妻たち 赫い絆 | 19950909 | 1 | 14 |
| | 霧の子午線 | 19960120 | 2 | 16 |
| | 極道の妻たち 危険な賭け | 19960601 | 3 | 8 |
| | 極道の妻たち 決着 | 19980117 | 2 | 8 |

深作欣二監督作品：初監督作品公開60周年
高倉健主演作品　：生誕90周年
岩下志麻主演作品：生誕80周年

東映太秦映画村　映画図書室 デジタルアーカイブ化作品リスト ── P.3

# 「映画資料所在地情報検索システム
# （ JFROL:Japanese Film Resources Online ）」の
# ベータ版開発・公開に関する
# 報告書

令和３年３月

目　次

1.　目的　　..... 3

2.　協力所蔵館　..... 3

3.　実施内容　　..... 3

4.　おわりに　　..... 5

5.　参考資料：WEB サイト画面構成　　..... 6

## 1. 概要

令和元年度に実施した映画資料所在地情報検索システム（NFA:仮称）実証実験にて構築を行ったデータベースを元に、実験結果から得られた検討事項の対応、一般公開に向けた機能追加と映画資料所在地情報検索システム（以下、JFROL）と各所蔵館との資料データ自動連携に向けた機能強化を実施。

## 2. 協力所蔵館

・公益財団法人松竹大谷図書館
東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 3 階

・東映太秦映画村
京都府京都市右京区太秦東蜂岡町 10

## 3. 実施内容

① 資料種別の統一
令和元年度の実験結果より JFROL では資料種別の統一が必要と結論づけ、JFROL では、以下の通りの表記をすることで統一を図った。

資料種別名称（JFROL）

| シナリオ |
|---|
| ポスター |
| プレス資料等 |
| パンフレット |
| チラシ |
| スチル写真 |
| その他 |
| |

3

資料種別名称変換表（松竹大谷図書館から JFROL）

| 松竹大谷図書館 | JFROL |
|---|---|
| 映像ポスター | ポスター |
| 映像スチール | スチル写真 |
| 映像プレス | プレス資料等 |
| 映像プログラム | パンフレット |
| 映像台本 | シナリオ |
| 映像スクラップ | プレス資料 |

資料種別名称変換表（東映太秦映画村から JFROL）

| 東映太秦映画村 | JFROL |
|---|---|
| ポスター | ポスター |
| スチール | スチル写真 |
| 宣伝印刷物 | プレス資料等 |
| ビデオ | その他 |
| シナリオ | シナリオ |
| ネガ | その他 |
| ポジ | その他 |
| DVD | その他 |
| ブルーレイ | その他 |

② 作品に関連した項目の JFROL での表示

令和元年度の実験結果より、本年度の JFROL では両所蔵館が同等の内容を保持している項目と所蔵館への問い合わせに必要な項目を表示することとした。

また作品スタッフやキャストなどの項目も保持しているが、登録状態の差異が大きいため、本年度の JFROL ではこれらの情報を検索機能のみに利用することとした。

作品に関連した項目変換表

| JFROL | 東映太秦映画村 | 松竹大谷図書館 |
|---|---|---|
| 作品名 | 作品名 | タイトル |
| 作品名（カナ） | 作品名（カナ） | タイトル読み |
| 製作年 | 製作年 | 発行年 1 |

③ 資料画像の表示機能

本年度に実施したデジタルアーカイブ実証研究の成果物である資料の画像データを登録・表示機能を追加。

提供画像数

| 松竹大谷図書館 | 東映太秦映画村 |
|---|---|
| 617 点 | 1,375 点 |

④ 検索機能の強化

一般公開も視野に入れ、本年度では表示項目として利用しなかった作品スタッフ・キャストのデータに関しても、キーワード検索として利用できるよう機能を追加。

また画像データの有無による絞り込み検索機能も追加。

## 4. おわりに

・所蔵館ごとに作品や資料のデータ項目が違うという問題については、本年度においては「作品」+「資料種別」というものとした。

単一作品を判断するための ID のようなものは、今後も課題として残り続けていくものであると考えられる。

・本年度の開発業務により、今後連携する所蔵館を増やしていくための土台となるものが出来た。

今後は利用者の意見を取り入れつつ、改善を進めていく必要があると考えられる。

参考資料：WEB サイト画面構成

WEB サイト名称：映画資料所在地情報検索システム（ JFROL ）

URL：https://jfrol.jp/
視聴期間：８月末日（予定）
ユーザー名：jfrol
パスワード：nonfilmarchive
・トップページ

6

「映画資料所在地情報検索システム（ JFROL:Japanese Film Resources Online ）」のベータ版開発・公開に関する報告書 ── P.6

・検索結果ページ

7

「映画資料所在地情報検索システム（ JFROL:Japanese Film Resources Online ）」のベータ版開発・公開に関する報告書 ── P.7

・詳細ページ

デジタルアーカイブ実証研究の成果物である資料の画像データは下記ページに搭載

【松竹大谷図書館 所蔵資料】

8

「映画資料所在地情報検索システム（ JFROL:Japanese Film Resources Online ）」のベータ版開発・公開に関する報告書 ── P.8

【東映太秦映画村 映画図書室 所蔵資料】

9

「映画資料所在地情報検索システム（ JFROL:Japanese Film Resources Online ）」のベータ版開発・公開に関する報告書 ── P.9

# 全国映画資料館録2020の作成について

**■概要**

2010年・2015年に東京国立近代美術館フィルムセンター（現・国立映画アーカイブ）が実施した資料館のアンケートをアップデートするものとして実施。

期　　間：10月～12月
調査対象館数：81館（うち、8館は対象資料の所有なし）
回 答 館 数：68館

**■調査内容**

## 「全国映画資料館録2020」調査

**■0.資料館番号／資料館名**

| | |
|---|---|
| | |

**■1.基本情報**

| | |
|---|---|
| 設置主体 | |
| 所属団体 | |
| 運営主体 | |
| 所在地（連絡先） | |
| TEL | |
| FAX | |
| ホームページ | |
| 設立年 | |
| 開館年 | |
| 加盟団体 | |
| メールアドレス | |

※「設置主体」：地方公共団体、学校法人及び社会福祉法人を原則とすること。

**■2.所蔵品**

**貴館に関する主な調査対象資料（　　）**

**【1】映画資料**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 映画ポスター（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画脚本（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画プレス資料（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画パンフレット（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画関連書籍（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画関連雑誌（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画スチル写真（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画スクラップ（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画美術資料（点数） | | 備考（詳細） | |
| 映画関連機材（点数） | | 備考（詳細） | |
| その他① | | | |
| その他② | | | |
| その他③ | | | |
| その他④ | | | |
| その他⑤ | | | |

※該当箇所のみご記入ください　　※「未整理」／「不明」
※概数でも結構です
※所蔵しているが未整理の場合は「未整理」とご記入ください

調査票 ── 1

**【2】所蔵品の主な特徴**

| |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |

※映画以外の分野にもまたがる場合はコレクション全体についてご記入ください

**【3】所蔵品の主な入手先**

| |
|---|
| |

**【4】映画フィルムの所蔵本数**

| |
|---|
| |

**■3.展示活動**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 常設展示の有無 | | 備考(詳細) | | |
| 企画展示の有無 | | 備考(詳細) | | |
| ※以下は有の場合 | | | | |
| 展示面積(㎡) | ㎡ | 常設展示: ㎡ | 企画展示: ㎡ | |
| 入場料金 | | | | |
| 休館日 | | | | |
| 開館時間 | | | | |

**■4.普及活動**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 資料閲覧の可否 | | 備考(対象資料範囲) | |
| 閲覧室の有無 | | 備考(申請の有無) | |
| 資料の貸出・画像提供の可否 | | 備考 | |
| 資料館出版物の有無 | | 名称・内容等の詳細 | |
| 上記資料デジタル化推進の有無 | | 備考 | |
| 上映活動実施の有無 | | 備考 | |
| その他① | | | |
| その他② | | | |

※「未定」/「不明」

**■5.アーカイブ化**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所蔵する映画資料の一覧・目録の作成・管理の有無 | | 備考 | |
| 管理番号の有無 | | 備考 | |
| 目録のデジタル化の有無 | | 備考 | |
| デジタル化の形式 | | | |
| 具体的なシステム名 | | | |

**■6.その他**

| | |
|---|---|
| 弊機構HPへの掲載可否 | |

調査票 ── 2

## ■掲載館

| | |
|---|---|
| **北海道地区** | |
| 1 | 市立小樽文学館　※2 |
| 2 | 北の映像ミュージアム |
| 3 | 登別映像機材博物館　※3 |
| **東北地区** | |
| 4 | 五所川原市立図書館　※1 |
| 5 | 三沢市寺山修司記念館 |
| 6 | 須賀川特撮アーカイブセンター　※3 |
| 7 | 湯川たから館（高羽哲夫記念館）※3 |
| 8 | 円谷英二ミュージアム　※3 |
| **関東地区** | |
| 9 | 水戸市立中央図書館　※1 |
| 10 | 太田市立新田図書館 |
| 11 | 市川市文学ミュージアム |
| 12 | 市川崑記念室 |
| 13 | 葛飾柴又寅さん記念館 |
| 13 | 山田洋次ミュージアム　※3 |
| 14 | 公益財団法人 川喜多記念映画文化財団 |
| 15 | 江東区古石場文化センター |
| 16 | 松竹大谷図書館 |
| 17 | 杉並アニメーションミュージアム |
| 18 | 世田谷文学館 |
| 19 | 台東区立下町風俗資料館 |
| 20 | 高津装飾美術株式会社 芸能美術文庫 PAL |
| 21 | 調布市立中央図書館 映画資料室 |
| 22 | 東映アニメーションミュージアム |
| 23 | 株式会社 ナックイメージテクノロジー |
| 24 | 日本カメラ博物館 |
| 25 | 日本大学芸術学部芸術資料館 |
| 26 | 三鷹市立アニメーション美術館（三鷹の森ジブリ美術館） |
| 27 | 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 |
| 28 | 大佛次郎記念館　※2 |
| 29 | 小田原市立図書館（小田原文学館）※1 |
| 30 | 神奈川県立神奈川近代文学館　※2 |
| 31 | 鎌倉市川喜多映画記念館 |
| 32 | 鎌倉市中央図書館　※1 |
| 33 | 鎌倉文学館 |
| 34 | 川崎市民ミュージアム |
| 35 | 茅ヶ崎館　※3 |
| **中部地区** | |
| 36 | 山梨県立文学館　※2 |
| 37 | 熊井啓記念館　※3 |
| 38 | 新・雲呼荘（野田高梧記念 蓼科シナリオ研究所）※3 |
| 39 | 羽島市歴史民俗資料館 羽島市映画資料館 |
| 40 | 木下恵介記念館（浜松市旧浜松銀行協会 ） |
| 41 | 静岡文化芸術大学図書館・情報センター　※1 |
| 42 | 豊田市郷土資料館 |

| | |
|---|---|
| **近畿地区** | |
| 43 | 亀山市歴史博物館 |
| 44 | おもちゃ映画ミュージアム |
| 45 | 京都府京都文化博物館 |
| 46 | 京都府立図書館　※1 |
| 47 | 高津古文化会館 |
| 48 | 東映太秦映画村・映画図書館 |
| 49 | 立命館大学アート・リサーチセンター　※3 |
| 50 | 大阪芸術大学博物館 |
| 51 | 公益財団法人 阪急文化財団池田文庫 |
| 52 | プラネット映画資料図書館 |
| 53 | 朝来市旧生野鉱山職員宿舎（甲社宅）志村喬記念館 |
| 54 | 神戸映画資料館 |
| 55 | 橋本忍記念館 |
| **中国・四国地区** | |
| 56 | 西河克己映画記念館 |
| 57 | 足立美術館　※3 |
| 58 | おのみち映画資料館 |
| 59 | 下関市立近代先人顕彰館（田中絹代ぶんか館） |
| 60 | 二十四の瞳映画村 ギャラリー松竹座映画館 |
| 61 | 高知県立文学館　※2 |
| **九州・沖縄地区** | |
| 62 | 福岡市総合図書館 文学・映像課 |
| 63 | 松永文庫 |
| 64 | 長崎市遠藤周作文学館　※2 |
| **その他（基本情報のみ掲載）** | |
| 65 | 声優ミュージアム　※3 |
| 66 | 加山雄三ミュージアム |
| 67 | 伊丹十三記念館 |

※1　公共図書館（選定）から追加館：6 館
※2　文学館（選定）から追加館：6 館
※3　その他の追加館：10 館

| | |
|---|---|
| **「全国映画資料館録 2015」掲載館（2020 未掲載）リスト** | |
| 閉館・休館他 | |
| 閉館 | 小津安二郎青春館 |
| 閉館 | 八丁座映画図書館 |
| 休会 | 天本英世記念館をつくる会 |
| 閉館 | 石原裕次郎記念館 |
| 閉館 | 庄内映画村資料館 |
| 休館 | 松林宗恵映画記念館 |

# 全国映画資料館録 2020

## はじめに

映画の発明以来125年を経て、文化遺産としての映画の価値はますます高まっています。映画保存の機運も拡がっていますが、その「映画」とは必ずしも映画フィルムだけを指すものではありません。個々の作品の製作にまつわる資料や事物、ポスターやスチル写真などの宣伝材料、映画人の貴重な遺品、各地の映画文化のかたちを物語る資料など、映画を取り巻くこうした多種の資料は、その重要度において映画フィルムに比肩するものと言えます。

国立映画アーカイブは、旧称の東京国立近代美術館フィルムセンターの時代から、唯一の国立映画機関として、フィルム資料と並んでこうした「ノンフィルム資料」の収集にも力を入れてきました。また、近年になって、公立・私立を問わず日本各地で続々と映画にまつわる資料館が誕生しています。しかし、その一方で全国に散在する映画資料の総体を横断的に捉えようとする視野がなかったのも事実です。

そこでフィルムセンターは2010年と2015年に「全国映画資料館アンケート」を実施し、各館のコレクションや活動に関する情報を取りまとめた上で、それぞれの回、冊子「全国映画資料館録」を作成しました。今回、5年ぶりの発行となる3冊目の「全国映画資料館録」は、文化庁の「令和2年度アーカイブ中核拠点形成モデル事業」の一環として、国立映画アーカイブと映像産業振興機構の共同編集により刊行されることになりました。公共図書館・文学館など調査対象をさらに拡げたことで、全国の映画資料の収集・保存・公開の充実ぶりが改めて確認できます。

この冊子が、コレクション情報などの共有を通じて各機関同士の密接な関係作りを促進し、映画文化のさらなる普及・振興の一助となれば幸いです。アンケートにご協力いただいた各館に改めて御礼を申し上げます。

文化庁
国立映画アーカイブ

## この調査について

この「全国映画資料館アンケート」は、国立映画アーカイブと映像産業振興機構が2020年の10月から12月にかけて実施したもので、長い時を経て散逸の危険性も指摘されている、こうした映画資料の意義を再確認するきっかけとなることが期待されます。

このアンケートは、両機関が情報を収集した全国の81館に送付され、情報の掲載につき諒解が得られた68館について記載しています（うち3館は基本情報のみ掲載）。残念ながら、映画資料の有力な所蔵先でありながら回答が得られていない機関もありますが、前回のアンケート（掲載数50館）に比してより高い網羅性を持つことができました。

アンケートの内容は、各館の基本情報、映画関連資料にまつわる情報のほか、展示活動、普及活動にわたり、その結果からは各館の特徴が色濃く現れています。公立施設と企業運営施設といった運営基盤の違い、映画専門の資料館・記念館のほか博物館・図書館・文学館といった本来の事業の色彩に沿った各館の性格、地元の観光事業との兼ね合い、資料収集をめぐる歴史的な経緯、保存と公開のバランスの置き方など、各地の事情に合わせた映画資料のあり方が浮き彫りになっています。

今後国立映画アーカイブでは、この結果をもとに、映画資料を後世に残してゆくことの重要性が社会にますます広く認識されるよう、さまざまな事業を展開してゆく所存です。

## この冊子について

＊この冊子は、上記の「全国映画資料館アンケート」に対して、回答のあった各館の記入情報をもとに編集されたものです。2020年12月11日現在で回答のない館については、記載されておりません。
＊各館において非公開としている情報については記載しておりません。
＊アンケート項目のうち、Eメールアドレスと職員関連情報については記載しておりません。
＊二次元コードから各資料館のウェブサイトにアクセスできます。
＊新型コロナウイルス感染症の影響で休館や開館時間、展示内容の変更を行っている館もあります。連絡・訪問の際はあらかじめ各館にご確認ください。

国立映画アーカイブでは、このほかにも映画資料を収集している機関やその活動に関する情報を収集しています。情報をお寄せください。



## 国立映画アーカイブの映画資料概要

| | |
|---|---|
| 映画図書 | 50,069点（和書44,591点＋洋書5,478点）<br>雑誌：和雑誌22種、洋雑誌8種を定期受け入れ |
| 映画ポスター | 約61,000点 |
| スチル写真 | 約760,000点 |
| 映画脚本 | 約48,000点（整理中） |
| プレス資料 | 約74,000点（整理中） |
| 映画関連雑誌 | 約40,000点（整理中） |
| 映画パンフ | 約8,700点 |
| 映画館プログラム | みそのコレクション 約15,000点ほか |
| 映画関連カレンダー | 約630点 |
| 技術資料 | 映画関連機材約700点 |
| 映画人の旧蔵資料 | 監　督：反町茂雄旧蔵衣笠貞之助コレクション<br>大藤信郎・藤田敏八・松川八洲雄・石井輝男・<br>中村麟子・浦山桐郎・荒井良平 ほか<br>俳　優：小杉勇・志村喬・香川京子・澤村四郎五郎 ほか<br>製 作 者：本木荘二郎・永島一朗 ほか<br>脚 本 家：三村伸太郎 ほか<br>美術監督：水谷浩 ほか |
| 特徴的なコレクション | みそのコレクション（映画資料コレクター御園京平旧蔵資料）<br>袋一平旧蔵ソビエト映画ポスター・コレクション<br>新外映旧蔵外国映画ポスター・コレクション |

（2020年3月31日現在）

NFAJ 国立映画アーカイブ National Film Archive of Japan

# 全国映画資料館リスト


**北海道地区**
1 市立小樽文学館 ..... 6
2 北の映像ミュージアム ..... 7
3 登別映像機材博物館 ..... 8

**東北地区**
4 五所川原市立図書館 ..... 9
5 三沢市寺山修司記念館 ..... 10
6 須賀川特撮アーカイブセンター ..... 11
7 湯川たから館 ..... 12
8 円谷英二ミュージアム ..... 13

**関東地区**
9 水戸市立中央図書館 ..... 14
10 太田市立新田図書館 ..... 15
11 市川市文学ミュージアム ..... 16
12 市川崑記念室 ..... 17
13 葛飾柴又寅さん記念館 ..... 18
13 山田洋次ミュージアム ..... 19
14 公益財団法人 川喜多記念映画文化財団 ..... 20
15 江東区古石場文化センター ..... 21
16 松竹大谷図書館 ..... 22
17 杉並アニメーションミュージアム ..... 23
18 世田谷文学館 ..... 24
19 台東区立下町風俗資料館 ..... 25
20 高津装飾美術株式会社 芸能美術文庫 PAL ..... 26
21 調布市立中央図書館 映画資料室 ..... 27
22 東映アニメーションミュージアム ..... 28
23 株式会社 ナックイメージテクノロジー ..... 29
24 日本カメラ博物館 ..... 30
25 日本大学芸術学部芸術資料館 ..... 31
26 三鷹市立アニメーション美術館（三鷹の森ジブリ美術館） ..... 32
27 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ..... 33
28 大佛次郎記念館 ..... 34
29 小田原市中央図書館（小田原文学館） ..... 35
30 神奈川県立神奈川近代文学館 ..... 36
31 鎌倉市川喜多映画記念館 ..... 37
32 鎌倉市中央図書館 ..... 38
33 鎌倉文学館 ..... 39
34 川崎市市民ミュージアム ..... 40
35 茅ヶ崎館 ..... 41

**中部地区**
36 山梨県立文学館 ..... 42
37 熊井啓記念館 ..... 43
38 新・雲呼荘 ..... 44
39 羽島市歴史民俗資料館 羽島市映画資料館 ..... 45
40 木下惠介記念館（浜松市旧浜松銀行協会） ..... 46
41 静岡文化芸術大学図書館・情報センター ..... 47
42 豊田市郷土資料館 ..... 48

**近畿地区**
43 亀山市歴史博物館 ..... 49
44 おもちゃ映画ミュージアム ..... 50
45 京都府京都文化博物館 ..... 51
46 京都府立図書館 ..... 52
47 高津古文化会館 ..... 53
48 東映太秦映画村・映画図書館 ..... 54
49 立命館大学アート・リサーチセンター ..... 55
50 大阪芸術大学博物館 ..... 56
51 公益財団法人 阪急文化財団池田文庫 ..... 57
52 プラネット映画資料図書館 ..... 58
53 朝来市旧生野鉱山職員宿舎（甲社宅） 志村喬記念館 ..... 59
54 神戸映画資料館 ..... 60
55 橋本忍記念館 ..... 61

**中国・四国地区**
56 西河克己映画記念館 ..... 62
57 足立美術館 ..... 63
58 おのみち映画資料館 ..... 64
59 下関市立近代先人顕彰館（田中絹代ぶんか館） ..... 65
60 二十四の瞳映画村 ギャラリー松竹座映画館 ..... 66
61 高知県立文学館 ..... 67

**九州・沖縄地区**
62 福岡市総合図書館 文学・映像課 ..... 68
63 松永文庫 ..... 69
64 長崎市遠藤周作文学館 ..... 70

**その他の施設**
声優ミュージアム・加山雄三ミュージアム・伊丹十三記念館 ..... 71








## 1 市立小樽文学館

### 基本情報

設置主体 北海道小樽市
運営主体 小樽市教育委員会
所在地 〒047-0031 北海道小樽市色内1-9-5
TEL 0134-32-2388 FAX 0134-32-2388
URL http://otarubungakusha.com/yakata
設立 1978年 開館 1978年
加盟団体 全国文学館協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　10点：山中恒、小林正樹、石原慎太郎・裕次郎関連
- 映画脚本　27点：八田尚之（1937年～1954年）、石原慎太郎・裕次郎関連（1956年～1960年）、小林正樹（1956年～1983年）、山中恒（1963年～1999年）
- 映画プレス　未整理
- 映画パンフレット　10点：小林正樹、山中恒
- 映画関連書籍　未整理
- 映画関連雑誌　未整理

所蔵品の主な特徴 小樽にゆかりのある作家の作品・資料
所蔵品の主な入手先 作家本人・関係者からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（石原慎太郎・山中恒の常設展示中、映画ポスター・脚本等展示することがある）
企画展示 有（「鋼鉄の映画人 小林正樹展」「映像になった山中恒作品」等実施）
展示面積 常設展示 445.76㎡（随時展示室全体の1/2～1/5を使用）
入場料金 一般 300円、高校生・市内高齢者 150円、中学生以下無料
休館日 月曜、祝日の翌日（祝日が土・日・月曜の場合は開館し、振替となる）
開館時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 有（「市立小樽文学館報」、企画展関連ブックレット等）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有（企画展に関連し、数年に一度上映することがある）



## 2 北の映像ミュージアム

### 基本情報

設置主体 NPO法人北の映像ミュージアム
運営主体 NPO法人北の映像ミュージアム
所在地 〒060-0062 北海道札幌市中央区南2条西6丁目14大友ビル8F
TEL 011-522-7670 FAX 011-522-7195
URL http://kitanoeizou.net/
設立 2003年 開館 2011年（2018年現在地へ移転）

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　1,500点：北海道ロケ作品、1960年代～
- 映画脚本　1,300点：社会ドラマ、日坂、水木洋子
- 映画プレス資料　3,000点：1960年代～恋愛ドラマ、アクション、サスペンスほか
- 映画パンフレット　5,000点：時代劇、社会ドラマ、1950年代～現在
- 映画関連書籍　2,000点：全ジャンル
- 映画関連雑誌　1,500点：「キネマ旬報」（戦後復刊第1号～現在）、「映画の友」
- 映画スチル写真　1,000点：全ジャンル、北海道ロケ作品中心
- 映画関連機材　4点：8mmフィルム映写機 2台、16mmフィルム映写機 1台、35mmフィルム映写機 1台（使用不可）
- その他
  - ・札幌市サンピアザ劇場のキセノンランプ式35mmフィルム映写機（富士セントラルF-7）
  - ・黒澤明監督直筆の手紙（札幌ロケ『白痴』に関して）
  - ・北海道ロケ地マップ100選＆リスト
  - ・北海道出身の俳優及び映画人リスト

所蔵品の主な特徴 北海道をロケ地、舞台とした劇映画やテレビドラマ等に関する資料
所蔵品の主な入手先 理事及び有志の寄贈
映画フィルムの所蔵本数 8mmフィルム 約20本、16mmフィルム 3本

### 展示活動

常設展示 有（北の映像ミュージアム） 企画展示 有（不定期）
展示面積 約20㎡ 入場料金 無料
休館日 土・日曜・祝日、年末年始
開館時間 10：00～14：00

### 普及活動

資料閲覧 可 閲覧室 有 資料貸出・画像提供 可（要相談）
資料館出版物 有（「北の映像ミュージアム会報」年3回発行）
上記資料デジタル化推進 有（「キネマ旬報」の北海道ロケ関連ページ）
上映活動実施 有（年約1回）
その他 有（ミュージアムを会場に北海道ロケ等をテーマにした“トーク”イベント「北のシネマ塾」を開催 ※不定期）

## 3 登別映像機材博物館

### 基本情報

運営主体 山本 敏（個人）
TEL 090-8631-7050 FAX 0143-84-8202
URL http://binmuseum.web.fc2.com/
設 立 2015年7月 開 館 2015年9月

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 20枚：昔のB全
- 映画関連書籍 約1,000冊
- 映画関連雑誌 約1,000冊
- 映画関連機材 多数（計測不能）

所蔵品の主な特徴 8mm・16mm・35mmフィルムカメラ及び各映写機／SDタイプビデオカメラ 25台／SDタイプVTR2インチから4分の1インチまで多数所蔵
所蔵品の主な入手先 TV局、映像プロダクション、個人
映画フィルムの所蔵本数 約30本

### 展示活動

常設展示 有
企画展示 有
展示面積 200㎡（常設展示 250㎡）
入場料金 無料
休館日 木曜、その他に不定休
開館時間 10：00～16：00

### 普及活動

資料閲覧 有（閲覧装置有）
閲覧室 有（展示場の一画）
資料貸出・画像提供 有

## 4 五所川原市立図書館

### 基本情報

設置主体 青森県五所川原市
運営主体 五所川原市教育委員会
所在地 〒037-0046 青森県五所川原市字栄町119
TEL 0173-34-4334 FAX 0173-34-3256
URL http://www.city.goshogawara.lg.jp/lib/
設 立 1966年 開 館 1977年

### 所蔵品

映画資料
- 映画パンフレット 約3,300点：昭和時代の日本・外国映画（分野問わず）
- 映画関連書籍 約2,800点：書籍、雑誌合計
- 映画関連雑誌 「アートシアター」「イメージフォーラム」「キネマ旬報」「Lumière（リュミエール）」等

所蔵品の主な入手先 個人からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 無
入場料金 無料
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、第三木曜、年末年始（12月29日～1月3日）
開館時間 火～金曜9：30～18：00、土・日曜・祝日9：30～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（図書館だより「本古知新」）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 無

## 5 三沢市寺山修司記念館

### 基本情報

設置主体 青森県三沢市
運営主体 株式会社テラヤマ・ワールド
所在地 〒033-0022
青森県三沢市大字三沢字淋代平116-2955
TEL 0176-59-3434 FAX 0176-59-3440
URL https://www.terayamaworld.com/
設 立 1987年 開 館 1997年
加盟団体 日本博物館協会、青森県博物館等協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 50点：1970年～1980年代
- 映画脚本 35点
- 映画スクラップ 1,000点：スクラップブック
※表現分野ごとに分類管理されておらず、数の詳細を出すのは難しい

所蔵品の主な特徴 寺山修司の遺品、直筆原稿、書簡、愛蔵品、蔵書等
所蔵品の主な入手先 寺山修司の母はつ氏からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有
企画展示 有（年約2回）
展示面積 833㎡
入場料金 常設展330円、企画展220円
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（応相談）
資料館出版物 有（館ニュース、「寺山修司記念館15周年記念誌」、所蔵品カタログ）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有
その他 定期的に国内外の国際映画祭で作品上映



## 6 須賀川特撮アーカイブセンター

### 基本情報

設置主体 福島県須賀川市
運営主体 須賀川市
所在地 〒962-0302 福島県須賀川市柱田字中地前22番地
TEL 0248-94-5200 FAX 0248-94-5237
URL https://www.city.sukagawa.fukushima.jp/bunka_sports/bunka_geijyutsu/1006499/index.html
設 立 2020年11月3日 開 館 2020年

### 所蔵品

映画資料
- 映画関連書籍 約570冊：特撮関係書籍（絵本、ムック本、論考本等）
- 映画関連雑誌 約360冊：「宇宙船」「ピークラブ」「シネフェックス」等
- 映画美術資料 1,000点以上
- その他 映画、ドラマフィルム（ネガ、ポジ）／未整理

所蔵品の主な特徴 特撮映像作品に関する資料
所蔵品の主な入手先 個人からの寄贈、特定非営利活動法人アニメ特撮アーカイブ機構からの寄託
映画フィルムの所蔵本数 有（未整理）

### 展示活動

常設展示 有（本施設は展示を目的としたものではなく、収蔵庫の一部を見学できる場所という位置づけのため、「展示」という文言は使わず「見学」と表現している）
企画展示 無
展示面積 225.11㎡（常設展示 225.11㎡）
入場料金 無料
休館日 火曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可 閲覧室 有
資料貸出・画像提供 可（条件付）
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 有
上映活動実施 有（1日7回／プロジェクターによる映写）

## 7 湯川たから館

### 基本情報

設置主体 福島県河沼郡湯川村役場
所属団体 湯川村役場
運営主体 湯川村商工会
所在地 〒969-3556 福島県河沼郡湯川村大字勝常字堂後830番地
TEL 0241-27-3957　FAX 0241-27-3992
URL https://www.yugawask.com/地域活性化施設たから館
設　立 2010年4月　開　館 2010年4月28日

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　48点：『男はつらいよ』シリーズ
- 映画脚本　92点：山田洋次監督もの、『男はつらいよ』以外のもの
- 映画関連書籍　20点：山田洋次監督作品集
- その他
  - ・アカデミー撮影賞楯 2点、ブロンズ 2点、その他受賞楯 9点

所蔵品の主な特徴 撮影監督高羽哲夫氏に関する品（愛用カメラ、書籍、バック、ジャンパー、帽子）
山田監督から高羽氏に贈られた直筆文
所蔵品の主な入手先 高羽哲夫氏宅
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（所蔵資料による）
企画展示 無
入場料金 無料
休館日 毎週火曜、年末年始
開館時間 9：00～16：00

### 普及活動

資料閲覧 不可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（公共施設に限る）
資料館出版物 有（湯川たから館「高羽哲夫の軌跡」）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有（「寅さんと50年」 ※10分）



## 8 円谷英二ミュージアム

### 基本情報

設置主体 福島県須賀川市
運営主体 須賀川市民交流センター
所在地 〒962-0845 福島県須賀川市中町4-1市民交流センター5F
TEL 0248-73-4407　FAX 0248-73-4410
URL https://s-tette.jp/
設　立 2019年　開　館 2019年

### 所蔵品

所蔵品の主な特徴 円谷英二監督の携わった作品を中心とした模型・解説等（いずれも新規作成）
所蔵品の主な入手先 円谷英二ミュージアム展示制作のための新規作成
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有
展示面積 496.5㎡（常設展示 496.5㎡）
入場料金 無料
休館日 火曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始
開館時間 9：00～17：00

## 9 水戸市立中央図書館

### 基本情報

設置主体 茨城県水戸市
運営主体 水戸市立中央図書館
所在地 〒310-0062 茨城県水戸市大町3-3-20
TEL 029-226-3951　FAX 029-225-2769
URL https://www.library-mito.jp

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　未整理
- 映画脚本　未整理
- 映画パンフレット　未整理
- 映画関連書籍　未整理
- 映画関連雑誌　未整理
- 映画スチル写真　未整理

所蔵品の主な特徴 映画監督深作欣二氏が所有していた書籍及び雑誌等
所蔵品の主な入手先 所有者遺族（深作健太氏）
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 無
入場料金 無料
休館日 金曜、毎月第1木曜（11月を除く）
開館時間 9：30～20：00

### 普及活動

資料閲覧 不可（見学のみ）
閲覧室 有（要申請）
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 無



## 10 太田市立新田図書館

### 基本情報

設置主体 群馬県太田市
運営主体 太田市
所在地 〒370-0313 群馬県太田市新田反町町877
TEL 0276-57-2676　FAX 0276-57-2677
URL http://www2.lib.ota.gunma.jp/
設　立 1980年　開　館 1980年
加盟団体 日本図書館協会

### 所蔵品

映画資料 田中純一郎旧蔵資料
- 映画脚本　37点：NHK「ロマンス」脚本、『浮雲』水木洋子直筆脚本原稿ほか
- 映画プレス資料　1,648点
- 映画関連書籍　434点：「日本映画発達史」ほか
- 映画スチル写真　15,488点：各種ネガフィルム 1,183点含む
- その他　新聞、雑誌切抜き 18冊、書簡 381点ほか

所蔵品の主な入手先 田中純一郎氏遺族から寄贈
映画フィルムの所蔵本数 3本

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 無

### 普及活動

資料閲覧 不可
資料貸出・画像提供 可（利用目的によって画像を提供、原本貸出は不可）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 無

## 11 市川市文学ミュージアム

### 基本情報

設置主体 千葉県市川市
運営主体 市川市
所在地 〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
市川市生涯学習センター2階
TEL 047-320-3334 FAX 047-320-3356
URL https://www.city.ichikawa.lg.jp/cul06/litera.html
設立 2013年（2005年～2013年は文学プラザとして運営）
開館 2013年
加盟団体 全国文学館協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 11点：水木洋子作品
- 映画脚本 38タイトル：水木洋子作品
- 映画関連書籍 約2,170点：水木洋子蔵書
- 映画関連雑誌 約1,200点：「映画芸術」「映画評論」「キネマ旬報」「シナリオ」ほか
- 映画スチル写真 約880点：水木洋子作品
- その他
  - ・映画パンフ・プレス資料 約50点：水木洋子蔵書
  - ・水木洋子寄贈による自筆原稿、創作取材資料、生活用品等

所蔵品の主な特徴 脚本家・水木洋子寄贈による邸宅を含む財産すべて
所蔵品の主な入手先 水木洋子氏より死因贈与
映画フィルムの所蔵本数 1本

### 展示活動

常設展示 有
企画展示 有（年約2回）
展示面積 約498.8㎡
入場料金 常設展は無料、企画展は企画ごとに異なる
休館日 月曜、月末最終平日、展示替え期間、年末年始
開館時間 火～金曜10：00～19：30、土・日曜・祝日10：00～18：00

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 一部不可（一般への資料の貸出はしていない）
資料館出版物 有（「ミュージアムレター」、展覧会カタログ）
上記資料デジタル化推進 推進中
上映活動実施 有（通常年約30回／35mmフィルム、16mmフィルム、DVD）
その他 市民ボランティア「水木洋子市民サポーターの会」との市民協働による事業展開



## 12 市川崑記念室

### 基本情報

設置主体 株式会社崑プロ
運営主体 株式会社崑プロ
所在地 〒150-0036 東京都渋谷区南平台町18-4
TEL 03-3461-5541（予約受付専用）
URL http://www.konichikawa.com/memorial.html
設立 2008年 開館 2015年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 未整理
- 映画脚本 未整理
- 映画プレス資料 未整理
- 映画パンフレット 未整理
- 映画関連書籍 未整理
- 映画関連雑誌 未整理
- 映画スチル写真 未整理
- 映画関連機材 3点：35mmフィルムカメラ、編集機

所蔵品の主な入手先 市川崑及び和田夏十の作品に関するもの
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（市川崑監督作品／作品紹介パネル、『東京オリンピック』関係資料）
企画展示 有（年約1回）
展示面積 常設展示 約55㎡・企画展示 約35㎡
入場料金 500円
休館日 月・木・土曜（第2土曜を除く）、日曜・祝日
開館時間 11：00～16：30（電話予約制）

### 普及活動

資料閲覧 不可
資料貸出・画像提供 可
上記資料デジタル化推進 有（脚本）
上映活動実施 無

## 13 葛飾柴又寅さん記念館・山田洋次ミュージアム

### 基本情報

設置主体 東京都葛飾区
運営主体 葛飾区観光施設指定管理者 株式会社共立メンテナンス
所在地 〒125-0052 東京都葛飾区柴又6-22-19
TEL 03-3657-3455 FAX 03-3657-3418
URL http://www.katsushika-kanko.com/
設立 2006年（組織設立年）
開館 1997年（葛飾柴又寅さん記念館）・2012年（山田洋次ミュージアム）

#### 葛飾柴又寅さん記念館

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 6点：昭和映画ポスター（山田洋次監督31点無料休憩室）
- 映画スチル写真 約10点：『男はつらいよ』シリーズ、ほか（ロビーカード48枚）
- その他
  - ・小道具、寅さんのトランクと中身、寅さんの衣裳上下・腹巻・帽子・雪踏・ふんどし・ダボシャツ
  - ・可動式ジオラマ、ジオラマ
  - ・映像

所蔵品の主な特徴 『男はつらいよ』撮影時に使用した大道具・小道具
所蔵品の主な入手先 松竹株式会社
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（映画『男はつらいよ』の世界を15のコーナーに分けて紹介）
企画展示 無
展示面積 常設展示 約530㎡
入場料金 常設展 一般500円、シニア400円、小・中学生300円（山田洋次ミュージアムと共通）
休館日 毎月第3火曜、12月は第3火・水・木曜
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 不可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 画像可
上記資料デジタル化推進 有（ポスターをプロジェクトマッピングで紹介）
上映活動実施 有（年約1～2回／35mmフィルム上映またはDVD）

#### 山田洋次ミュージアム

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 2点：渥美清主演作品
- 映画脚本 147点：山田洋次監督・脚本作品
- 映画関連書籍 約46点：『男はつらいよ』ほか
- 映画スチル写真 約20点：山田洋次監督作品
- 映画スクラップ 約9点：撮影風景
- 映画美術資料 約5点：模型、実物
- 映画関連機材 約10点：映写機、シンクロナイザー、ムヴィオラ、スプライサーほか
- その他 生フィルム

所蔵品の主な特徴 山田洋次監督の長年映画に携わってきたフィルムへの想いと映画作りへの想いを表している
所蔵品の主な入手先 松竹株式会社
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（山田洋次監督の世界を9のテーマに分けて紹介）
企画展示 無
展示面積 常設展示 約90㎡
入場料金 常設展 一般500円、シニア400円、小・中学生300円（寅さん記念館と共通）
休館日 毎月第3火曜と12月第3火・水・木曜
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 不可
資料貸出・画像提供 不可
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 有（年約1～2回／35mmフィルム上映またはDVD）

## 14 公益財団法人 川喜多記念映画文化財団

### 基本情報

設置主体 公益財団法人川喜多記念映画文化財団
運営主体 公益財団法人川喜多記念映画文化財団
所在地 〒102-0082 東京都千代田区一番町18
TEL 03-3265-3281 FAX 03-3265-3276
URL https://www.kawakita-film.or.jp/
設立 1982年 開館 1982年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 約16,000点：外国映画の日本公開時ポスターほか
- 映画脚本 約3,200点：日本映画
- 映画プレス資料 約18,000点：日本映画、外国映画全般
- 映画パンフレット 約6,800点：日本映画、外国映画全般
- 映画関連書籍 約8,000点：外国語書籍を含む
- 映画関連雑誌 約16,000点：「キネマ旬報」ほか
- 映画スチル写真 約30,000：タイトル 日本映画、外国映画
- 映画美術資料 約100点：水谷浩美術監督
- その他 小津安二郎監督の脚本、絵コンテほか 約190点

所蔵品の主な特徴 川喜多長政・かしこ両氏が配給した外国映画や、海外に紹介した日本映画、さらに国内外を問わず交流の深かった映画人たちにかかわる資料を所蔵
所蔵品の主な入手先 フィルム・ライブラリー協議会時代の所蔵品、個人寄贈（筈見恒夫氏、淀川長治氏ほか）、法人（東宝東和ほか）からの寄贈品等
映画フィルムの所蔵本数 約1,200本

### 展示活動

常設展示 無（別途鎌倉市川喜多映画記念館での展示事業を企画）
企画展示 無（別途鎌倉市川喜多映画記念館での展示事業を企画）
入場料金 無料
休館日 土・日曜・祝日、特別休日
開館時間 13：00～17：00（毎月最終金曜は14：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 可
上記資料デジタル化推進 推進予定
上映活動実施 有（海外での日本映画上映を実施）
その他 2010年4月より指定管理者として
鎌倉市川喜多映画記念館を管理・運営を行う

## 15 江東区古石場文化センター

### 基本情報

設置主体 東京都江東区
運営主体 公益財団法人江東区文化コミュニティ財団
所在地 〒135-0045 東京都江東区古石場2-13-2
TEL 03-5620-0224 FAX 03-5620-0258
URL https://www.kcf.or.jp/
設立 1982年（組織設立年） 開館 1997年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 4点：小津安二郎監督作品
- 映画脚本 4点：小津安二郎監督作品
- 映画パンフレット 約10点：小津安二郎監督作品
- 映画関連書籍 約200点：小津安二郎関連ほか
- 映画関連雑誌 約300点：「キネマ旬報」
- その他 小津安二郎監督の幼少時の資料、小道具、絵画ほか

所蔵品の主な特徴 小津安二郎監督に関連するもの
所蔵品の主な入手先 小津安二郎監督遺族、スタッフ、全国小津安二郎ネットワーク、松竹（借用）
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（「小津安二郎紹介展示コーナー」／年表、作品紹介、人物の紹介、江東区とのゆかりの紹介、その他関連展示）
企画展示 有（年約4回）
展示面積 常設展示 約80㎡・企画展示 約150㎡
入場料金 無料
休館日 第1・3月曜（祝日は開館）、年末年始
開館時間 9：00～21：00

### 普及活動

資料閲覧 不可
閲覧室 有（展示室内にテーブル一つ椅子二脚を設置）
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 有（「シネマ倶楽部だより」「小津安二郎と深川」）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 有（年約38回／35mmフィルム、16mmフィルム、DVD、VHS）
その他 年1回映画祭を開催、出前上映会、アウトリーチ、講座の実施、
シネマボランティア（音声ガイド）



## 16 松竹大谷図書館

### 基本情報

運営主体 公益財団法人松竹大谷図書館
所在地 〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1
銀座松竹スクエア3F
TEL 03-5550-1694
URL https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/
設立 1956年 開館 1958年
加盟団体 専門図書館協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 約13,100点：戦後の松竹映画中心、1990年代以降のUIP配給作品
- 映画脚本 約11,500作品
- 映画プレス資料 約13,800点
- 映画パンフレット 約17,300点
- 映画関連書籍 数量不明
- 映画関連雑誌 約33,000点：「キネマ旬報」「シナリオ」等
- 映画スチル写真 約141,000点：松竹映画中心
- 映画スクラップ 約4,100点：松竹作品の記事、広告、宣材を貼り込んだ資料

所蔵品の主な特徴 演劇・映画関連図書及び雑誌、脚本、スチル写真、プログラム、ポスターほか
所蔵品の主な入手先 松竹株式会社
映画フィルムの所蔵本数 34本

### 展示活動

常設展示 有（組上燈籠復刻版展示）
企画展示 有（閲覧室内展示ケースにて2か月ごとに所蔵資料のミニ企画展示）
入場料金 無料
休館日 土・日曜・祝日、毎月最終木曜、5月1日、11月22日、年末年始、春期・夏期休館あり
開館時間 10：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有（14席）
資料貸出・画像提供 不可（出版・放送展示等特別使用に限り要相談）
資料館出版物 有（「（公財）松竹大谷図書館ニューズレター」）
上記資料デジタル化推進 有（雑誌「蒲田週報」、
松竹京都映画作品のスクラップ（一部）
のデジタル画像による閲覧）

## 17 杉並アニメーションミュージアム

### 基本情報

設置主体 東京都杉並区
運営主体 一般社団法人日本動画協会
所在地 〒167-0043 東京都杉並区上荻3-29-5
杉並会館3階
TEL 03-3396-1510 FAX 03-3396-1530
URL https://sam.or.jp/
設立 2005年（組織設立年） 開館 2005年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 約2,800点：アニメーション作品（テレビアニメーション含む）
- 映画脚本 未整理：アニメーション作品
- 映画プレス資料 未整理
- 映画パンフレット 約500点：アニメーション作品
- 映画関連書籍 約5,800点：主にアニメーションの書籍（テレビアニメーション含む）
- 映画関連雑誌 約3,000点：「アニメージュ」「Newtype」「アニメディア」等
- 映画美術資料 未整理
- 映画関連機材 未整理：フィルムでのアニメーション制作に関する資料
- その他 未整理：アニメーション制作資料（設定、原・動画、セル画、脚本等）

所蔵品の主な特徴 アニメーションに関するもの
所蔵品の主な入手先 購入ほか、鈴木伸一館長・アニメ制作スタジオ・アニメ関係者・一般の方からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 未整理

### 展示活動

常設展示 有（「アニメができるまで」コーナーほか）
企画展示 有（年3～4回）
展示面積 常設展示 約200㎡・企画展示 約100㎡
入場料金 無料
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始（12月28日～1月4日）
開館時間 10：00～18：00

### 普及活動

資料閲覧 可（書籍・パンフレット閲覧、DVD視聴）
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有（毎日4回／DVD ※所蔵物の上映に限らない）
その他 アニメ制作に関するワークショップの実施

## 18 世田谷文学館

### 基本情報

設置主体 東京都世田谷区
運営主体 公益財団法人せたがや文化財団
所在地 〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120
URL http://www.setabun.or.jp/
設立 1995年 開館 1995年
加盟団体 日本博物館協会、全国文学館協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 約1,700点
- 映画脚本 約2,000点
- 映画プレス資料 約30点
- 映画パンフレット 約350点
- 映画関連書籍 約1,000点：ほか映画関係者寄贈図書、映画原作図書等あり
- 映画関連雑誌 約7,000点：「キネマ旬報」ほか
- 映画スチル写真 約7,300点：ほか未整理の写真資料多数
- 映画スクラップ 約300点
- 映画美術資料 約3,000点：中古智、植田寛
- 映画関連機材 約75点：寄託資料
- その他
  小林正樹資料（脚本・スチル写真・調度品等 約2,700点）、成瀬巳喜男資料（脚本・スチル写真・調度品等 約2,400点）、柳生悦子資料（衣裳デッサン等 約4,200点）、秦大三資料（スチール写真等 約1,500点）、児玉進資料（脚本・雑誌等 約1,900点）

所蔵品の主な特徴 世田谷ゆかりの文学者の原稿・書簡・図書・雑誌等のほか、ポスター・脚本等映画関係者の旧蔵資料
所蔵品の主な入手先 世田谷ゆかりの文学者、映画関係者とその親族等
映画フィルムの所蔵本数 約8本

### 展示活動

常設展示 有（コレクション展を年2回開催） 企画展示 有（不定期開）
展示面積 1階展示室 約180㎡・2階展示室 約500㎡
入場料金 コレクション展200円（企画展は内容によって異なる）
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始
開館時間 10：00～18：00

### 普及活動

資料閲覧 可 閲覧室 有 資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（定期刊行物「世田谷文学館ニュース」、所蔵品カタログ、展覧会カタログ）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 有（不定期開催／35mmフィルム、16mmフィルム、DVD）



## 19 台東区立下町風俗資料館

### 基本情報

設置主体 東京都台東区
所属団体 公益財団法人台東区芸術文化財団
運営主体 台東区
所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園2-1
TEL 03-3823-7451 FAX 03-3823-3870
URL https://www.taitocity.net/zaidan/shitamachi/
設立 1980年 開館 1980年
加盟団体 日本博物館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 22点：邦画（1930年～1989年）
- 映画脚本 7点：邦画（1935年～1962年、伏見晃ほか）
- 映画パンフレット 約200点：邦画及び洋画（昭和初期～平成）
- 映画関連書籍 約50点：映画史（大正末期～平成、筈見恒夫ほか）
- 映画関連雑誌 約400点：「芝居とキネマ」「映画と演劇」「映画情報」「キネマ旬報」
- 映画スチル写真 約500点：邦画（昭和初期～昭和30年代）
- その他
  ・プログラム 約1,200点、チラシ 約40点、邦画及び洋画（大正末期～昭和40年代）
  ・榎本健一遺品

所蔵品の主な特徴 演劇・演芸等芸能や娯楽に関わる資料のほか、衣食住、生産、生業等庶民生活全般の資料
所蔵品の主な入手先 個人
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 無（映画関連の展示はなし）
企画展示 有（浅草の芸能史の中のコンテンツの一つとして）
展示面積 常設展示 約328.4㎡・企画展示 約177.7㎡
入場料金 常設展一般300円、企画展・特別展一般300円
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）
開館時間 9：30～16：30（入館は16：00まで）

### 普及活動

資料閲覧 不可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 不可（博物館等の公共機関の場合は可）
資料館出版物 有（ニュース紙「号外」）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 無



## 20 高津装飾美術株式会社 芸能美術文庫 PAL

### 基本情報

設置主体 高津装飾美術株式会社
所在地 〒182-0022 東京都調布市国領町1-30-3 プレステージ2地下1F
TEL 042-487-5747 FAX 042-487-5759
URL https://www.takatsu-web.co.jp/themes/
設立 1998年（組織設立年） 開館 1998年

### 所蔵品

映画資料
- その他 甲冑等（現在調査中）

所蔵品の主な特徴 映画に使用された工芸品
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（刀）
企画展示 有（映画資料を用いての企画展）
入場料金 500円
休館日 土・日曜・祝日
開館時間 10：00～16：30

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（画像提供は不可）
資料館出版物 有（展覧会カタログ）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 無
その他 「映画のまち調布 シネマフェスティバル」に参加

## 21 調布市立中央図書館 映画資料室

### 基本情報

設置主体 東京都調布市
運営主体 調布市
所在地 〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1 文化会館たづくり5階
TEL 042-441-6181
URL https://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/
設立 1966年 開館 1995年
加盟団体 日本図書館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 3,230点（うちデジタル化済の公開分が2,840点）
- 映画パンフレット 2,700タイトル
- 映画関連書籍 32,000冊：パンフレット（約2,700タイトル）、撮影台本（約3,000タイトル）含む
- 映画関連雑誌 115タイトル：「キネマ旬報」「シナリオ」等
- その他
  ・ロビーカード 約1,800枚
  ・チラシ 約13,400枚

所蔵品の主な特徴 調布市内に撮影所のある日活・大映の資料を含む日本映画を中心とした映画資料の収集
所蔵品の主な入手先 書籍・雑誌は書店より購入、ポスター・プログラム等は寄贈が多い
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 有（時節に合ったテーマを決めて展示）
入場料金 無料
休館日 原則として第4月曜とその翌日、2月・9月の蔵書点検期間、年末年始
開館時間 9：00～20：30

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有（映画資料室は申請不要）
資料貸出・画像提供 不可（図書館利用者は一部図書の貸出可）
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 有
上映活動実施 無
その他 毎年「映画のまち調布 シネマフェスティバル」で「出張！映画資料室」を開催して資料を展示

## 22 東映アニメーションミュージアム

### 基本情報

設置主体 東映アニメーション株式会社
運営主体 東映アニメーション株式会社
所在地 〒178-8567 東京都練馬区東大泉2-10-5（2020年2月末より休館中）
TEL 03-5905-5115
URL http://www.toei-anim.co.jp/tag/03.html
設立 2018年　開館 2018年

### 所蔵品

映画資料
●アニメーション資料　整理中
所蔵品の主な特徴 東映アニメーションの製作したアニメーションに関する資料
所蔵品の主な入手先 東映アニメーション
映画フィルムの所蔵本数 未整理

### 展示活動

常設展示 有
企画展示 有
展示面積 470㎡
入場料金 無料
休館日 水曜
開館時間 10：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 不可（展示以外）
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 有（全般）
上映活動実施 無
その他 練馬アニメカーニバル、アニメプロジェクトin大泉等地域イベントへの協力



## 23 株式会社 ナックイメージテクノロジー

### 基本情報

設置主体 株式会社ナックイメージテクノロジー
運営主体 株式会社ナックイメージテクノロジー
所在地 〒107-0061 東京都港区北青山2-11-3
TEL 03-3796-7900　FAX 03-3796-7905
URL http://nacinc.jp
設立 1958年（会社設立年）
開館 1980年（展示ホール開館年、1991年閉館 現在部分的展示）
加盟団体 日本映画テレビ技術協会、日本ポストプロダクション協会

### 所蔵品

映画資料
●映画関連書籍　約300点
●映画関連機材　約50点
所蔵品の主な特徴 19世紀後期から各国で製造され名機と称された各種フィルムサイズの映画撮影カメラ、およびフィルム映写機を収集展示／また自社で開発した特殊カメラシステム・撮影レンズ等も含む
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（映画カメラの一部を展示）
企画展示 有（映画カメラの一部を展示）

### 普及活動

資料閲覧 不可（一部応相談、要事前打合せ）
資料貸出・画像提供 不可
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 無
その他 映画技術研究会（映画技術に関する話題を取り上げた技術後援や、参加者との情報交換会を自社会議室にて不定期に開催）

## 24 日本カメラ博物館

### 基本情報

設置主体 一般財団法人日本カメラ財団
運営主体 一般財団法人日本カメラ財団
所在地 〒102-0082 東京都千代田区一番町25 JCII一番町ビル
TEL 03-3263-7110　FAX 03-3234-4650
URL https://www.jcii-cameramuseum.jp/
設立 1954年　開館 1989年

### 所蔵品

映画資料
●映画ポスター　2点：資料貸出協力した映画のもの
●映画関連書籍　約450冊：映画史、撮影技術書（主に8mmフィルム・16mmフィルム）、展覧会図録、映画作品の写真集等
●映画関連雑誌　不明：20タイトル
●映画関連機材　約900点：ムービーカメラ（主に8mmフィルム）
●その他
・映写機 約250点、レンズ 約100点
・編集用品 約70点、ビューワー 約30点等
所蔵品の主な特徴 ・ムービーカメラや映写機、付属するソフト等
・ライブラリーに映画関連書籍、雑誌類を収蔵
所蔵品の主な入手先 個人からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 不明（数本）

### 展示活動

常設展示 有（「日本の歴史的カメラ（デジタル）」スチルカメラ用マウントのデジタルムービーカメラの展示／「体験コーナー」8mmムービーカメラの体験コーナー ※体験コーナーは休止中／企画展示には2020年10月現在1点展示中）
企画展示 有
展示面積 310㎡
入場料金 常設展300円（企画展含む）
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始、展示替え期間
開館時間 10：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 不可（取材等は要申請、ライブラリーは予約で書籍閲覧可）
閲覧室 有（ライブラリーの閲覧室）
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（定期刊行物「JCIINEWS」、展覧会カタログ）
上記資料デジタル化推進 有（収蔵資料（機器）のデータベース化）
上映活動実施 無
その他 特別展の一部で企画としてムービーカメラを展示することがある



## 25 日本大学芸術学部芸術資料館

### 基本情報

設置主体 学校法人日本大学
運営主体 日本大学芸術学部
所在地 〒176-8525 東京都練馬区旭丘2-42-1
TEL 03-5995-8315　FAX 03-5995-8743
URL http://www.art.nihon-u.ac.jp/facility/attached/archives/
設立 1993年　開館 1993年

### 所蔵品

映画資料
●映画ポスター　未整理
●映画脚本　未整理
●映画プレス資料　未整理
●映画パンフレット　未整理
●映画関連書籍　未整理
●映画関連雑誌　未整理
●映画スチル写真　約80,000点：洋画1950～1970年代
●映画関連機材　約110点：撮影機、現像関連、編集機材、映写機
●その他　映画用生フィルム及びパッケージ 約70点（未整理）
所蔵品の主な入手先 映画製作プロダクション
映画フィルムの所蔵本数 非公開

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 有
展示面積 約164.63㎡
入場料金 無料
休館日 日曜・祝祭日、大学の定める休日、休暇中
開館時間 月～金曜9：30～16：30（土曜は正午まで）

### 普及活動

資料閲覧 不可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 無

## 26 三鷹市立アニメーション美術館(三鷹の森ジブリ美術館)

### 基本情報

設置主体 東京都三鷹市
運営主体 公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団
所在地 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-1-83
TEL 0570-055777
URL http://www.ghibli-museum.jp/
設立 2001年（組織設立年） 開館 2001年

### 所蔵品

映画資料
- 映画美術資料 20,000点
- その他
  - ・アニメーション原画 12,000点
  - ・アニメーション動画 200点
  - ・その他 10,000点

所蔵品の主な特徴 アニメーション映画の背景画・原画・動画・制作資料等が中心
所蔵品の主な入手先 株式会社スタジオジブリ
映画フィルムの所蔵本数 所蔵あり

### 展示活動

常設展示 有（「映画の生まれる場所」ほか）
企画展示 有（年約1回）
展示面積 常設展示 約524㎡・企画展示 約133㎡
入場料金 有料（日時指定の予約制）
休館日 火曜、展示替え・メンテナンス等長期休館あり
開館時間 10：00～18：00

### 普及活動

資料閲覧 不可
資料貸出・画像提供 可
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有（毎日24回、外部上映会イベントを年1～2回実施）
その他 アニメーション映画上映会（一部興行もあり）、文化講座等



## 27 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

### 基本情報

設置主体 坪内博士記念演劇博物館設立実行委員会
運営主体 早稲田大学
所在地 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
TEL 03-5286-1829 FAX 03-5273-4398
URL http://www.waseda.jp/enpaku/
設立 1928年 開館 1928年
加盟団体 日本博物館協会、日本図書館協会

### 所蔵品

映画資料 整理中につき非公開
所蔵品の主な特徴 錦絵 47,000点、舞台写真 494,000点、図書 274,000点、チラシ・プログラムなどの演劇上演資料 122,000点、衣裳・人形・書簡・原稿などの博物資料 159,000点
所蔵品の主な入手先 寄贈、購入
映画フィルムの所蔵本数 約850本

### 展示活動

常設展示 有（映画資料の常設展示）
企画展示 有（年複数回）
展示面積 常設展示 約378㎡（演劇の展示）・企画展示 約172㎡
入場料金 無料
休館日 祝日・連休の日曜、大学創立記念日（10月21日）、年末年始、入試期間ほか
開館時間 月・水・木・土曜10：00～17：00、火・金曜10：00～19：00（大学夏季・冬季休業期間は17：00まで）

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（定期刊行物「演劇博物館報enpaku book」、所蔵品カタログ、展覧会カタログ）
上記資料デジタル化推進 有（スチル写真ほか）
上映活動実施 無



## 28 大佛次郎記念館

### 基本情報

設置主体 神奈川県横浜市
運営主体 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地 〒231-0862 神奈川県横浜市中区山手町113
TEL 045-622-5002 FAX 045-622-5071
URL http://osaragi.yafjp.org/
開館 1978年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 約100点：『鞍馬天狗』、その他大佛次郎作品
- 映画脚本 約20点：『鞍馬天狗』、その他大佛次郎作品
- 映画プレス資料 約15点：『鞍馬天狗』、その他大佛次郎作品
- 映画パンフレット 約100点：大佛次郎作品、その他大佛次郎旧蔵資料（外国映画）
- 映画関連書籍 約50点：大佛次郎旧蔵資料（大正～昭和）、その他参考資料
- 映画関連雑誌 約850点：「映画往来」「キネマ旬報」「Cinémagazine」「Ciné à ciné magazine」等和・洋雑誌
- 映画スチル写真 約100点：『鞍馬天狗』、その他大佛次郎作品
- 映画スクラップ 約100点：『鞍馬天狗』、その他大佛次郎作品

所蔵品の主な特徴 『鞍馬天狗』『照る日くもる日』『帰郷』等大正・昭和初期～戦後期の大佛次郎原作の映画関連資料／大佛次郎が収集した国内外の映画資料（雑誌、書籍）／映画関係者書簡（映画会社、映画監督、脚本家等、大正末～昭和期）
所蔵品の主な入手先 大佛次郎関係者、寄贈者
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（映画関連の展示はなし）
企画展示 有（映画関連の展示はなし）
展示面積 127㎡（常設展示 73㎡・企画展示 54㎡）
入場料金 大人200円、小・中学生以下は無料、毎月第2第4土曜と23日は高校生無料
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始、展示替え期間
開館時間 4～9月 10：00～17：30（入館は17：00まで）、10～3月10：00～17：00（入館は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可（要事前連絡、整理済の資料に限り保存状態と著作権の範囲内で対応）
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 可（応相談）
資料館出版物 有（「おさらぎ選書」）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 無



## 29 小田原市立中央図書館（小田原文学館）

### 基本情報

設置主体 神奈川県小田原市
運営主体 小田原市教育委員会
所在地 〒250-0875 神奈川県小田原市南鴨宮1丁目5-30
TEL 0465-49-7800
URL https://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/literature-museum/bungakukan.html
設立 1994年 開館 1994年
加盟団体 神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会、神奈川県博物館協会、神奈川県図書館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 28点：1940年～1970年代東宝の劇映画
- 映画脚本 92点：1940年～1970年代東宝の劇映画（成瀬巳喜男、黒澤明、豊田四郎等）
- 映画プレス資料 約150点：1940年～1970年代東宝の劇映画（成瀬巳喜男、黒澤明、豊田四郎等）
- 映画パンフレット 20点：1940年～1970年代東宝の劇映画（成瀬巳喜男、黒澤明、豊田四郎等）
- 映画関連雑誌 約20点：「キネマ旬報」や掲載誌等
- 映画スチル写真 プリント 3,865点、ネガフィルム 772コマ、1940年～1970年代東宝の劇映画（成瀬巳喜男、黒澤明、豊田四郎等）
- 映画スクラップ 61点：1940年～1970年代東宝の劇映画（成瀬巳喜男、黒澤明、豊田四郎等）
- その他
  - ・手書き脚本原稿 45点
  - ・撮影現場に関するメモ類、場面割、ロケセット割、スケジュール表、ダビング表、キャスト表等多数含む

所蔵品の主な特徴 東宝助監督・脚本家の廣澤榮（1924年～1996年）が旧蔵していた1940年～1970年代の東宝映画に関する資料群が422件／直筆原稿類、映画広報資料、撮影現場写真、脚本台本類、書簡等多様な資料群／テレビドラマ、演劇関係資料を含む「水戸黄門」「大岡越前」等
所蔵品の主な入手先 個人からの寄贈 映画フィルムの所蔵本数 1本

### 展示活動

常設展示 無 企画展示 無（検討中）
入場料金 一般250円、小・中学生100円、団体料金あり
休館日 年末年始（12月28日～1月3日）、臨時休館あり
開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可（要事前連絡） 閲覧室 有（要申請）
資料貸出・画像提供 要相談
資料館出版物 有（「地域資料室通信」、所蔵目録、展覧会カタログ）
上記資料デジタル化推進 無 上映活動実施 無
その他 かもめ名画座、図書館子ども特別映画会（小田原市立中央図書館）

## 30 神奈川県立神奈川近代文学館

### 基本情報

設置主体 神奈川県
所属団体 神奈川県
運営主体 公益財団法人神奈川文学振興会
所在地 〒231-0862 神奈川県横浜市中区山手町110
TEL 045-622-6666　FAX 045-623-4841
URL https://www.kanabun.or.jp/
設　立 1984年　開　館 1984年
加盟団体 全国文学館協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　70点：主に日本近代文学作品を原作とする映画
- 映画脚本　80点：主に日本近代文学作品を原作とする映画
- 映画プレス資料　35点：主に日本近代文学作品を原作とする映画
- 映画パンフレット　170点：主に日本近代文学作品を原作とする映画
- 映画関連書籍　730冊
- 映画関連雑誌　120誌：冊数ではなくタイトル数
- 映画スチル写真　75点：主に日本近代文学作品を原作とする映画
- その他　映画チラシ 80点

所蔵品の主な特徴 個人からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（固定常設「神奈川の風光と文学」／横浜、鎌倉等県内を5地域に分けてゆかりの文学者と作品を立体的に紹介）
企画展示 有（個人作家展、テーマ展等随時内容を変更して展示室2室で実施）
展示面積 677.2㎡（常設展示 182㎡・企画展示 495.2㎡）
入場料金 一般料金 常設展260円、特別展（企画展）700円
休館日 月曜、年末年始
開館時間 展示室9：30～17：00（入場は16：30まで）、閲覧室9：30～19：00（土・日は17：00まで）

### 普及活動

資料閲覧 可（図書、雑誌及び特別資料）
閲覧室 有（特別資料の肉筆資料等は要予約／閲覧制限あり）
資料貸出・画像提供 可（資料貸出は原則類似施設／館内閲覧のみ／申請により条件等確認の上で貸出）
資料館出版物 有（機関紙「神奈川近代文学館」、同年報、展示解説図録等）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有（文芸映画上映会を年間平均6日間程度／主に16mmフィルム）
その他 一般向けの映画会とは別に年間平均2回程度子ども向けアニメ映画等の上映会



## 31 鎌倉市川喜多映画記念館

### 基本情報

設置主体 神奈川県鎌倉市
運営主体 川喜多・KBSグループ
所在地 〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12
TEL 0467-23-2500　FAX 0467-23-2503
URL https://kamakura-kawakita.org
設　立 2009年　開　館 2010年

### 所蔵品

映画資料 記念館としての所蔵品はなし

### 展示活動

常設展示 有（川喜多長政・かしこ夫妻の展示／夫妻年表や愛用品等を展示）
企画展示 有（年約4回）
展示面積 約150㎡
入場料金 企画展200円、特別展400円、小学生は半額、ほかに映画鑑賞料あり
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）、展示替え等
開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可（映画関連書籍）
閲覧室 有
上映活動実施 有（年約275回／35mmフィルム、16mmフィルム、DCP）
その他 企画展ごとに映画関連資料を展示／シアターでは企画展に関連した上映やトークショー、定期的な特集上映も開催／その他ワークショップや映画談話室、上映解説、展示解説等も開催

## 32 鎌倉市中央図書館

### 基本情報

設置主体 神奈川県鎌倉市
運営主体 鎌倉市教育委員会
所在地 〒248-0012 神奈川県鎌倉市御成町20-35
TEL 0467-25-2611　FAX 0467-24-6544
URL https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/
設　立 1911年　開　館 1911年
加盟団体 日本図書館協会、神奈川県図書館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画脚本　166点：テレビドラマ・映画の脚本、テレビドラマ構成台本等

所蔵品の主な特徴 刊行年不明のものも含め、1980年までの資料を所蔵
所蔵品の主な入手先 個人からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 無

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 可（個人貸出および閲覧、一部複写可）
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 無

## 33 鎌倉文学館

### 基本情報

設置主体 神奈川県鎌倉市
運営主体 公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団
所在地 〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷1-5-3
TEL 0467-23-3911　FAX 0467-23-5952
URL http://www.kamakurabungaku.com/
開　館 1985年
加盟団体 全国文学館協議会

### 所蔵品

所蔵品の主な特徴 小津安二郎監督遺品（日記、手紙、愛用品、写真等）［寄託］
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 映画関連の展示はなし
企画展示 映画関連の展示はなし
展示面積 常設展示 約119㎡・企画展示 約86㎡
入場料金 特別展300・500円 ※常設展含む、展示により異なる
休館日 月曜（祝休日の場合は開館）、5月・6月・10月・11月は臨時開館有、展示替え、特別整理、年末年始
開館時間 9：00～17：00（10月～2月は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可（要申請）
資料貸出・画像提供 可
上記資料デジタル化推進 未着手
上映活動実施 無

## 34 川崎市市民ミュージアム

### 基本情報

設置主体 神奈川県川崎市
運営主体 アクティオ・東急コミュニティー共同事業体（2017年4月1日から）
所在地 〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2
TEL 044-754-4500 FAX 044-754-4533
URL https://www.kawasaki-museum.jp/
設立 1988年 開館 1988年
加盟団体 全国美術館会議、美術館連絡協議会、神奈川県博物館協会

### 所蔵品

映画資料 2019年東日本台風の被害により調査・整理途中
所蔵品の主な特徴 独立プロダクション製作映画、川崎ゆかりの作品、記録映画
映画フィルムの所蔵本数 2019年東日本台風の被害により調査・整理途中

### 展示活動

当面の間、休館

### 普及活動

資料館出版物 有（展覧会カタログ）
上映活動実施 有（35mmフィルム、16mmフィルム）

## 35 茅ヶ崎館

### 基本情報

運営主体 有限会社茅ヶ崎館
所在地 〒253-0055 神奈川県茅ヶ崎市中海岸3-8-5
TEL 0467-82-2003 FAX 0467-82-3133
URL http://chigasakikan.co.jp/
設立 1899年 開館 1899年
加盟団体 茅ヶ崎市観光協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　10点：小津安二郎監督作品（1945年～1955年）
- 映画脚本　3点：三澤拓哉監督作品脚本等（2013年～2018年）
- 映画プレス資料　10点：『東京物語』宣伝用台本、三澤拓哉監督作品チラシ
- 映画パンフレット　5点：『東京物語』復刻版、『命みじかし、恋せよ乙女』等
- 映画関連書籍　100点：小津安二郎監督を中心に是枝裕和監督等著作
- 映画関連雑誌　30点：「キネマ旬報」等
- 映画スチル写真　20点：小津安二郎監督作品
- 映画スクラップ　3点：監督・俳優のサインや写真（1913年～現在）
- 映画美術資料　10点：暖簾、ちゃぶ台、椅子等
- 映画関連機材　3点：16mmフィルム映写機、プロジェクター・スクリーン音響機器
- その他　顕微鏡映像の巨匠小林米作の資料・太平洋戦争中ニューギニアでの貴重な現地部族との写真多数未整理

所蔵品の主な特徴 小津安二郎監督を中心とした資料／茅ヶ崎館を舞台にロケーション撮影された作品の資料／茅ヶ崎館自体が映画遺産
所蔵品の主な入手先 茅ヶ崎館に現存していたもの、古書店、寄付、謹呈
映画フィルムの所蔵本数 3本

### 展示活動

常設展示 有
企画展示 有（数年に1度）
展示面積 500㎡（常設展示 50㎡・企画展示 500㎡）
入場料金 無料と有料の場合あり、予約制の見学ガイドあり
休館日 月曜
開館時間 11：00～17：00予約制（飲食業務と宿泊業務を行っているため）

### 普及活動

資料閲覧 可　閲覧室 有（要申請）
資料貸出・画像提供 取材のみ
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 有（少量）
上映活動実施 有（年3回／16mmフィルム、DVD、ブルーレイ）
その他 茅ヶ崎映画祭主催代表実行委員長 森浩章



## 36 山梨県立文学館

### 基本情報

設置主体 山梨県
運営主体 山梨県
山梨県立美術館・文学館・
芸術の森公園指定管理者 SPS・桔梗屋・
KBS共同事業体
所在地 〒400-0065 山梨県甲府市貢川1丁目5-35
TEL 055-235-8080 FAX 055-226-9032
URL https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/
設立 1989年 開館 1989年
加盟団体 日本博物館協会、全国文学館協議会、
ミュージアム甲斐ネットワーク

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　約40点：文芸映画
- 映画脚本　約1,000点：映画、テレビドラマ、演劇の脚本を含む
- 映画プレス資料　約15点：文芸映画
- 映画パンフレット　約40点：文芸映画
- 映画関連書籍　約120点：映画、評論、映画史、映画論、脚本等戦後の研究資料
- 映画関連雑誌　約2,000点：「キネマ旬報」「シナリオ」等

所蔵品の主な特徴 山梨出身・ゆかりの文学者の文学作品を原作とした文芸映画の資料を収集
所蔵品の主な入手先 寄贈、寄託、購入等
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有
企画展示 有
展示面積 999㎡（常設展示 479㎡・企画展示（一部常設）520㎡）
入場料金 常設展一般330円、大学生220円（高校生以下の児童・生徒、65歳以上、障害者手帳所持者及びその介護者は無料）、企画展別途
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、祝日翌日（日曜の場合は開館）、年末年始、その他臨時開館・休館あり
開館時間 展示室9：00～17：00、閲覧室9：00～16：00

### 普及活動

資料閲覧 可（資料により事前申請が必要）
閲覧室 有（資料により事前申請が必要）
資料貸出・画像提供 可（貸出・画像提供の可否は資料による）
資料館出版物 有（研究紀要「資料と研究」、企画展展示図録、館報、年報）
上記資料デジタル化推進 一部デジタル化
上映活動実施 有（年5回程度／借用したDVD・16mmフィルム）



## 37 熊井啓記念館

### 基本情報

設置主体 長野県安曇野市
運営主体 安曇野市
所在地 〒399-8205 長野県安曇野市豊科5609-3
TEL 0263-71-4033 FAX 0263-73-1802
URL https://www.city.azumino.nagano.jp/site/kibo/1524.html
設立 2011年 開館 2011年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　未整理：熊井啓監督作品
- 映画脚本　未整理：熊井啓監督が関わった作品
- 映画スチル写真　未整理：熊井啓監督が関わった作品
- その他
  - ・熊井啓監督著書
  - ・愛用品ほか

所蔵品の主な特徴 直筆の書き込みがある脚本等、熊井啓監督が映画製作に使用した資料を収蔵／学生時代に所属した映画サークルの機関紙をはじめ、幼少期、学生時代、脚本家・助監督、監督時代と生きた時代の資料を収蔵／熊井啓監督が受賞した賞の賞状やトロフィーを収蔵
所蔵品の主な入手先 遺族
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有　企画展示 無　展示面積 46.85㎡
入場料金 無料
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、
祝日翌日（土日曜又は休日の場合を除く）、
年末年始（12月28日～1月4日）
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可（熊井啓記念館所蔵資料）
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（博物館の相互貸借の場合）
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有（年1回／熊井啓監督作品）
その他 上映会に合わせ、講演会を実施（講師：妻・熊井明子氏）

## 38 新・雲呼荘

### 基本情報

設置主体 一般社団法人野田高梧記念蓼科シナリオ研究所
運営主体 一般社団法人野田高梧記念蓼科シナリオ研究所
所在地 〒391-0301 長野県茅野市北山4035-1360
TEL 0266-67-2058 FAX 0266-67-2058
URL http://www.noda-tateshina.jp/
設立 2015年6月2日 開館 2016年7月23日

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　未整理
- 映画脚本　169点：他未整理 映画（1928年～）・蒲田映画脚本選集第1巻（1925年6月）
- 映画パンフレット　7点：他未整理 映画野田高梧脚本小津安二郎監督作品
- 映画関連書籍　100点：他未整理 野田高梧蔵書
- 映画関連雑誌　200点：他未整理 雑誌「シナリオ」「時代映画」「映畫批評」「映画評論」「映画往来」ほか1917年からの映画雑誌合本
- 映画スクラップ　未整理
- その他
  - 「蒲田週報」約500点、「松竹週報」2点
  - 「蓼科日記」全18巻原本及び複製：1954年～1968年に雲呼荘（野田高梧所有）に置かれた集合日記
  - 野田高梧の手帳及び日記の原本：戦前～戦後の期間に書かれたもの 約40冊
  - 昭和30年代前半に撮られた8mmフィルムのDVD版：蓼科での野田夫妻、小津安二郎ほか、『彼岸花』撮影風景
  - 山内久・立原りゅう関連資料は未整理

所蔵品の主な特徴 野田高梧関連資料、シナリオ関連資料
所蔵品の主な入手先 山内美智子より借受
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（野田高梧関連資料の展示閲覧）　企画展示 有（「蓼科日記」複製の展示閲覧）
展示面積 18.6㎡（常設展示 17㎡・企画展示 1.55㎡）
入場料金 400円
休館日 火・水曜、シーズンオフ月～金曜、12月～3月は冬季休館
開館時間 10：00～16：00

### 普及活動

資料閲覧 可（特定資料を除く）　閲覧室 無
資料貸出・画像提供 不可（一般個人への貸出・提供は不可／他個別対応有）
資料館出版物 有（「新・雲呼荘」メールマガジン会員宛発行及び来館者には無料配布）
上記資料デジタル化推進 無　上映活動実施 無
その他 8mmフィルム原版は国立映画アーカイブに寄贈、当法人にてDVD収蔵
映像所有権は山内美智子



## 39 羽島市歴史民俗資料館 羽島市映画資料館

### 基本情報

設置主体 岐阜県羽島市　所属団体 羽島市
運営主体 公益財団法人羽島市地域振興公社
所在地 〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻町2614-1
TEL 058-391-2234　FAX 058-391-7663
URL http://www.hashima-rekimin.jp/
設立 1996年　開館 1996年
加盟団体 岐阜県博物館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　47,045点：昭和30年代の邦画ポスターが多い
- 映画脚本　109点：東映太秦映画村寄贈（藤井邦夫、水戸黄門ほか）
- 映画プレス資料　8,137点：昭和50年代前後の洋画作品
- 映画パンフレット　5,015点：昭和30年代前後の洋画作品
- 映画関連書籍　2,330点：「黒澤明の映画」ドナルド・リチー著（1979年）ほか
- 映画関連雑誌　1,733点：「キネマ旬報」1950年3号から現在まで
- 映画スチル写真　30,280点：昭和50年代の邦画・洋画作品
- 映画関連機材　105点：産業遺産データベースに登録の1947年製35mmフィルム映写機
- その他　朝日館（1934年～1971年開館）で使用していた無声映画時代の大太鼓、貸傘、貸火鉢、劇場用いす、広告宣伝用銅版、宣伝用旗等

所蔵品の主な特徴 歴史民俗資料館と併設で、映画関連資料の年代に沿った生活文化資料も展示／映画チラシの収集が充実している／岐阜県にあった映画館の営業実態に関する調査資料
所蔵品の主な入手先 廃館になった映画館（岐阜豊富館、名古屋弥富館）、個人のコレクター
映画フィルムの所蔵本数 4本

### 展示活動

常設展示 有（「映画資料展示室」旧朝日館から発見された映画資料を集約し展示紹介：廃館になった映画館から寄贈された1945年製35mmフィルム映写機、整流器、寄贈を受けたポスター、チラシ等も展示）
企画展示 有（年約1回～2回）
展示面積 常設展示 232.6㎡・企画展示 77.42㎡
入場料金 常設展300円、小・中学生無料
休館日 月曜・祝日翌日、年末年始（12月28日～1月4日）
開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 不可（展示以外）　閲覧室 無
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 有（ポスター、チラシ）
上映活動実施 有（年約20回／16mmフィルム）

## 40 木下恵介記念館（浜松市旧浜松銀行協会）

### 基本情報

設置主体 静岡県浜松市
運営主体 浜松創造都市協議会・東海ビル管理グループ
所在地 〒432-8025 静岡県浜松市中区栄町3-1
TEL 053-457-3450
URL https://keisukemuseum.org/
設立 2001年　開館 2001年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　148点
- 映画脚本　75点
- 映画パンフレット　228点
- 映画関連書籍　7点
- 映画関連雑誌　72点
- 映画スチル写真　201点
- その他　木下恵介監督旧蔵品
  - 私服（セーター、背広、ズボン、シャツ、着物）149点
  - ネクタイ 72本、靴 17足、小物（帽子、マフラーほか）27点
  - 灰皿 40点、トロフィー 110点、小物（ガラス類、お皿、飾り物、日用品ほか）465点
  - 家具 31点、本 875冊

所蔵品の主な入手先 遺族からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 29本（使用不可）

### 展示活動

常設展示 有（作品ポスター、トロフィー、脚本、洋服、本等）
企画展示 有
展示面積 約135㎡
入場料金 100円（70歳以上、高校生以下、障害者手帳をお持ちの方無料）
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始、メンテナンス休館
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可（目的により可）
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（用途等により検討）
資料館出版物 有（「KEISUKE 木下恵介記念館」発行：木下恵介記念館）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 有（年約12回／DVD）
その他 出張上映会（年約6回／DVD、浜松市内のみ）



## 41 静岡文化芸術大学図書館・情報センター

### 基本情報

設置主体 静岡県
所属団体 公立大学法人静岡文化芸術大学
運営主体 公立大学法人静岡文化芸術大学
所在地 〒430-8533 静岡県浜松市中区中央2-1-1
TEL 053-457-6124　FAX 053-457-6125
URL https://www.suac.ac.jp/library/
設立 2000年　開館 2000年
加盟団体 公立大学協会図書館協議会、
日本図書館協会ほか

### 所蔵品

映画資料
- 映画脚本　141点：1960年～1990年代製作の邦画作品
- 映画パンフレット　約1,400点：1918年～2009年製作映画作品（リバイバル上映含）
- 映画関連書籍　50点：「世界の映画作家」「女優」（別冊太陽）ほか
- 映画関連雑誌　約3,500点：「映画芸術」「映画評論」「キネマ旬報」「Lumière（リュミエール）」ほか
- その他
  - 映画フライヤー 176点
  - 映画鑑賞券 135点

所蔵品の主な特徴 寄贈元の映画館の封切作品ほか、都内のミニシアターや地方名画座での上映作品パンフレットを含む／映画編集技術者故浦岡敬一が制作に関わった映画作品の脚本・パンフレットを含む／テレビドラマの脚本（1970年～1990年代放送作品）134冊、舞台上演脚本2冊も所蔵
所蔵品の主な入手先 静活株式会社
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 有
入場料金 無料
休館日 日曜・祝祭日、大学行事等による休日
開館時間 開講期平日8：45～20：00（閉講期平日9：00～17：00）、土曜10：00～16：00

### 普及活動

資料閲覧 検討中
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 有（図書館・情報センターだより「温故知新」）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 無

## 42 豊田市郷土資料館

### 基本情報

設置主体 愛知県豊田市
運営主体 豊田市
所在地 〒471-0079 愛知県豊田市陣中町1-21
TEL 0565-32-6561　FAX 0565-34-0095
URL http://www.toyota-rekihaku.com/
設立 1967年　開館 1967年
加盟団体 日本博物館協会、愛知県博物館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　18点：1941年～1943年
- 映画脚本　58点：草稿、断簡含む、寿々喜多呂九平
- 映画プレス資料　未整理
- 映画パンフレット　未整理
- 映画関連書籍　45点
- 映画関連雑誌　29点：「マキノ」「活動グラフ」等バラバラに所蔵
- 映画スチル写真　4点：マキノキネマ「日輪」（1925年）ほか
- 映画美術資料　11点：不明、「砂絵呪縛」衣裳下絵
- 映画関連機材　12点：スライド含む
- その他
  - ・映画パンフ、プレス資料 221点：未整理（マキノキネマニュース、大正～昭和初期の日活ニュース、ビラ等）
  - ・金森万象個人資料 23点
  - ・映画鑑賞割引券 6点
  - ・映画館看板 5点

所蔵品の主な特徴 金森万象旧蔵資料によるマキノキネマコレクションが中心
所蔵品の主な入手先 個人からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 19本

### 展示活動

常設展示 有（映画関連の展示はなし）　企画展示 有（映画関連の展示はなし）
展示面積 常設展示 約225㎡・企画展示 約75㎡
入場料金 常設展無料、特別展300円～
休館日 月曜、年末年始
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可（要事前連絡）　閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（「郷土資料館だより」、展覧会カタログ）
上記資料デジタル化推進 未定　上映活動実施 無



## 43 亀山市歴史博物館

### 基本情報

設置主体 三重県亀山市
運営主体 亀山市
所在地 〒519-0151 三重県亀山市若山町7-30
TEL 0595-83-3000　FAX 0595-83-3334
URL http://kameyamarekihaku.jp/
設立 1994年　開館 1994年
加盟団体 日本博物館協会、三重県博物館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　ポスター写真（1951年～1966年衣笠貞之助作品）
- 映画脚本　42点：衣笠貞之助作品（1952年、1953年、1963年）
- 映画スチル写真　40点：衣笠貞之助作品（1926年～1966年）の写真パネル等
- その他
  - ・衣笠貞之助直筆原稿「故山遠慕」
  - ・『忠臣蔵』のれん
  - ・『天一坊と伊賀之亮』幟

所蔵品の主な特徴 衣笠貞之助の親族関係から寄贈のプライベート写真、地元にある映画館関連資料、衣笠貞之助の付人から寄贈の撮影中の衣笠貞之助の写真等
所蔵品の主な入手先 小亀淳家、小亀田鶴家、衣笠映画塾、NHK放送文化研究所、落合喜好家、澤田松雄家
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 無（映画関連の展示はなし）
企画展示 有（2003年10月～11月、2015年1月～2月実施）
展示面積 約111㎡
入場料金 常設展200円、企画展無料
休館日 火曜（祝休日の場合は翌平日）
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（展覧会カタログ ※絶版）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 無



## 44 おもちゃ映画ミュージアム

### 基本情報

設置主体 一般社団法人京都映画芸術文化研究所
運営主体 一般社団法人京都映画芸術文化研究所
所在地 〒604-8805 京都府京都市中京区壬生馬場町29-1
TEL 075-803-0033　FAX 075-803-0034
URL http://toyfilm-museum.jp/
設立 2015年　開館 2015年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　未整理
- 映画脚本　未整理
- 映画プレス資料　未整理
- 映画関連書籍　未整理
- 映画関連雑誌　未整理
- 映画スチル写真　未整理
- 映画関連機材　約200点：撮影機、映写機、光学玩具、幻燈機
- その他
  - ・16mmフィルム、パテ・ベビー（9.5mm）フィルム 500本
  - ・立体写真ステレオスコープ（未整理）　・日本映画コマ画像（未整理）
  - ・各種ガラス種板（未整理）

所蔵品の主な特徴 プレシネマとしての写真、光学玩具、マジック・ランタン等／家庭での映画（玩具映写機及び小型映画機材16mmフィルム、9.5mmフィルム、8mmフィルム映写機）／映像データとして、「京都ニュース」240巻、大阪芸大学生映画作品の鑑賞
所蔵品の主な入手先 購入、寄贈、インターネット・オークション
映画フィルムの所蔵本数 玩具映画フィルム 900本、16mmフィルム 280本、9.5mmフィルム 200本

### 展示活動

常設展示 有（プレシネマと玩具映写機）
企画展示 有（「岡本忠成資料展」「成瀬巳喜男資料展」「『満州国』って、知っていますか展」「映画『祇園祭』展」「小型映画の資料展」「福住富雄名作映画ポスター展」（2020年度））
展示面積 99㎡　入場料金 高校生以上一般500円、中学生300円、小学生以下無料
休館日 月・火曜　開館時間 歴代学生映画1971-2020は10：30～12：00、一般展示は12：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可（端末、それ以外は要申請）　閲覧室 無（特別室はないが、館内で閲覧可）
資料貸出・画像提供 可（有料貸出）
資料館出版物 有（「尾上松之助生誕140年記念展」図録、小冊子「ミュージアムの図録」「活動記録と応援メッセージ」「パテ・ベビーの時代」「明日へのことば−ラジオ深夜便放送とその反響」／映画『祇園祭』資料集、京都の映画館に関する小冊子2冊を発行予定）
上記資料デジタル化推進 有（収蔵フィルム・収集機材をホームページで紹介/フィルムのデジタル化を進めているが、費用・専用機材・作業時間の問題で未着手フィルム多数）
上映活動実施 有（大阪芸大映像学科歴代学生映画、語りや音を付けて編集した無声映画の時代劇やアニメーション／国内外映画祭等でも上映）
その他 京都国際映画祭クラシック部門企画（サイレント映画・アニメーション・京都ニュース等の上映）、運営



## 45 京都府京都文化博物館

### 基本情報

設置主体 京都府　運営主体 公益財団法人京都文化財団
所在地 〒604-8183　京都府京都市中京区三条通り高倉上ル
TEL 075-222-0888　FAX 075-222-0889　URL http://www.bunpaku.or.jp/
設立 1986年　開館 1988年　加盟団体 日本博物館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　約10,000点（未整理含む）：日本映画中心
- 映画脚本　約25,000点（未整理含む）：日本映画・テレビ、寿々喜多呂九平、結束信二等
- 映画プレス資料　約500点（未整理含む）：大映京都作品中心
- 映画パンフレット　約13,000点（未整理含む）：日本映画、1980年以降京都公開作品
- 映画関連書籍　約54,000点（未整理含む）：映画全般
- 映画関連雑誌　約160,000点（未整理含む）：「キネマ旬報」等
- 映画スチル写真　約80,000点（未整理含む）：日本映画中心
- 映画美術資料　約500点（未整理含む）：内藤昭
- 映画関連機材　約250点（未整理含む）：日活京都・大映京都撮影所使用機材等
- その他　大映京都撮影所資料（約18万点）、岡田一人文庫（コレクター 13,262点）、伊藤大輔文庫（映画監督 126,521点）、荻昌弘文庫（映画評論家 4,987点）、大角正夫文庫（録音技師 368点）、森一生文庫（映画監督 17,932点）、結束信二文庫（脚本家 4,743点）、寿々喜多呂九平文庫（映画脚本家 415点）、倉嶋暢音響文庫（大映京都音響監督 1,706点）、土田正義文庫（大映京都プロデューサー 640点）、KYOTO映画塾文庫（京都の映画人養成施設 8,810点）、山中貞雄文庫（映画監督 446点）、坂根田鶴子文庫（日本初の女性映画監督 726点）、菊水映劇文庫（映画館 3,021点）、朝日シネマ文庫（映画館 未整理）、内藤昭文庫（美術監督 未整理）、森田佐吉文庫（日活社長 未整理）ほか

所蔵品の主な特徴 日本のハリウッドと呼ばれた京都の映画文化を収集・保存・公開する／特に、京都の映画職人からの寄贈が多く、映画製作にあたっての製作関連資料や自筆原稿、音響資料等も収蔵／京都でどのようにして映画が製作されたのか、京都の映画製作文化、映画職人文化をアーカイヴする／また、映画受容の歴史として地域の映画館の資料も系統的に所蔵している
所蔵品の主な入手先 京都で映画を製作していた製作会社、京都で映画製作に携わっていた映画人
映画フィルムの所蔵本数 約800本

### 展示活動

常設展示 有（フィルムシアター・ギャラリー／上映作品に関する宣材や製作関連資料を展示）
企画展示 有（年間約0.2回）　展示面積 常設展示 30㎡・企画展示 1,800㎡
入場料金 常設展 500円、企画展 1,000円～ 1,300円
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）　開館時間 10：00～19：30

### 普及活動

資料閲覧 可（要申請）　閲覧室 有　資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（京都文化博物館フィルムシアター・プログラム（上映作品解説））
上記資料デジタル化推進 有　上映活動実施 有（年間 約600～700回／年間約300タイトル／35mmフィルム、16mmフィルム、DVD、DCP、ブルーレイ）
その他
- ・京都フィルムメーカーズラボ（世界各国から若手フィルムメーカーを集め東映、松竹の京都撮影所で短編時代劇を製作する英語を公用語にしたワークショップ）
- ・京都ヒストリカ国際映画祭(京都の時代劇復興を目指し、世界の新しい歴史映画を上映)
- ・子ども向け映像製作ワークショップ（スマートフォンやドローン、特撮セットを使う）　ほか

## 46 京都府立図書館

### 基本情報

設置主体 京都府
運営主体 京都府教育委員会
所在地 〒606-8343 京都府京都市左京区岡崎成勝寺町
TEL 075-762-4655　FAX 075-762-4653
URL https://www.library.pref.kyoto.jp/
設　立 1898年　開　館 1898年
加盟団体 日本図書館協会、京都府図書館等連絡協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画脚本　約1,400点：1950年～1960年代中心に太秦の撮影所で使用
- 映画関連書籍　約4,500点：100年前から現在まで既刊の受入図書
- 映画関連雑誌　29点：「キネマ旬報」「日本映画」（復刻版）等

所蔵品の主な特徴 1950年～1960年代中心に太秦の撮影所で使用
脚本にタイトルや配役の変更等、現在の映画情報にはない手書き情報もあり
所蔵品の主な入手先 複数の研究者のコレクションから、京都府立総合資料館（現京都府立京都学・歴彩館）に寄贈された後、当館に移管
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

企画展示 有（常時、所蔵資料（本や雑誌）のテーマ展示を実施）
展示面積 企画展示 79㎡
入場料金 無料
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、第４木曜、年末年始、特別整理期間
開館時間 平日9：00～19：00（土・日曜・祝日は17：00まで）

### 普及活動

資料閲覧 可（図書、雑誌、VHS・DVD等の視聴覚資料、オンラインデータベース）
閲覧室 有（申請不要）
資料貸出・画像提供 可（DVD等映像資料は貸出不可）
資料館出版物 有（「事業概要」等）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 有（年数回実施／館内上映権付きDVD）





## 47 高津古文化会館

### 基本情報

設置主体 株式会社高津商会
運営主体 株式会社高津商会
所在地 〒602-8375 京都府京都市上京区
今出川天神筋下ル大上之町61
TEL 075-461-8700　075-882-7866
FAX 075-461-8771　075-881-3243
URL http://www1.odn.ne.jp/kozu-kobunka/
設　立 1975年　開　館 1975年
加盟団体 日本博物館協会

### 所蔵品

映画資料
- その他
  - ・尾上松之助の浮世絵「大石蔵之助」
  - ・尾上松之助私用の太刀拵

所蔵品の主な特徴 甲冑、刀剣、大名婚礼調度を始めとする漆工芸品／仁清、乾山を始めとする京焼、狩野派、土佐派等の絵画作品、源氏物語図屏風、茶の湯道具、浮世絵等

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 無（現在都合により開催していない）
入場料金 学生300円（学生証提示）、一般500円（障害者割引あり）
休館日 月曜、年末年始
開館時間 9：00～16：00

### 普及活動

資料貸出・画像提供 可（要事前連絡）

## 48 東映太秦映画村・映画図書室

### 基本情報

設置主体 株式会社東映京都スタジオ
運営主体 株式会社東映京都スタジオ
所在地 〒616-8586 京都府京都市右京区太秦東蜂岡町10
TEL 075-864-7718　FAX 075-864-7763
URL https://www.toei-eigamura-library.com/
設　立 1975年　開　館 2020年
加盟団体 日本博物館協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　30,000点（重複分含む）：1950年以降のほぼ全部の東映作品（東映以外の作品もあり）
- 映画脚本　15,000点：他社作品もあり
- 映画プレス資料　10,000点
- 映画パンフレット　未整理
- 映画関連書籍　7,000点
- 映画関連雑誌　未整理
- 映画スチル写真　100,000点（重複分含む）
- 映画スクラップ　未整理
- 映画美術資料　未整理
- 映画関連機材　約10点：撮影カメラ、映写機

所蔵品の主な特徴 日本映画各社の脚本やポスター等の取揃え
所蔵品の主な入手先 映倫、東映本社
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（「映画の殿堂・顕彰者展示」「牧野省三賞受賞者パネル掲示」）
企画展示 有（テーマに沿った映画資料の展示）
展示面積 350㎡（常設展示 350㎡）
入場料金 無料（映画村入場料は要）
休館日 要問合せ ※図書室と展示スペースは異なる
開館時間 9：00～17：00（12月～2月は10：00開館）※図書室と展示スペースの時間は異なる

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有（HPから予約制）
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 有
上映活動実施 無

## 49 立命館大学アート・リサーチセンター

### 基本情報

設置主体 学校法人立命館
運営主体 立命館大学アート・リサーチセンター
所在地 〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1
TEL 075-466-3411　FAX 075-466-3415
URL https://www.arc.ritsumei.ac.jp/
設　立 1998年　開　館 1999年

### 所蔵品

映画資料
- 映画脚本　1,113点
- 映画パンフレット　5,119点
- 映画関連書籍　530点
- 映画関連雑誌　未整理
- 映画スチル写真　4,525点：林美一コレクション映画スチル、戦後～1960年頃
- その他
  - ・都村健コレクション（デジタル画像 3,015点）
  - ・目玉の松ちゃん・尾上松之助活動写真デジタル資料（写真・絵葉書等 2,500点、遺品資料 60点）

所蔵品の主な特徴 浮世絵、古典籍を中心とした文化、芸術資料や当該分野の図書、雑誌のほか、映画関係者旧蔵のスチル写真
所蔵品の主な入手先 寄贈、古書籍商等からの購入等
映画フィルムの所蔵本数 約3,384本

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 有
展示面積 79.2㎡
入場料金 無料
休館日 土・日曜・祝日、夏季、年末年始
開館時間 事務局9：00～17：30、展示は不定期開催

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有（要申請）
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（紀要「アート・リサーチ」ほか）
上記資料デジタル化推進 有
上映活動実施 無

## 50 大阪芸術大学博物館

### 基本情報

設置主体 学校法人塚本学院
運営主体 大阪芸術大学
所在地 〒585-8555 大阪府南河内郡河南町東山469
TEL 0721-93-3781 FAX 0721-93-8564
URL https://www.osaka-geidai.ac.jp/guide/museum
設立 2002年 開館 2002年
加盟団体 日本博物館協会、全国美術館会議

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 54点：ポーランド映画（1970年～1980年代）
- 映画関連機材 22点：カメラ、映写機、映画館用オーディオ機器

所蔵品の主な特徴 造形系からメディア系まで、大学教育にかかわる分野の芸術作品及び資料を収集
所蔵品の主な入手先 特定の入手先はなし
映画フィルムの所蔵本数 21本（おもちゃ映画、8mmフィルム）

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 有（不定期開催）
展示面積 796㎡（企画展示 796㎡）
入場料金 無料
休館日 展覧会開催時のみ開館
開館時間 11：00～18：00（展覧会開催時、展覧会によって開館時間の変更あり）

### 普及活動

資料閲覧 可（要申請）
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（要申請）
資料館出版物 有（所蔵品カタログ、展覧会カタログ）
上記資料デジタル化推進 有
上映活動実施 無

## 51 公益財団法人 阪急文化財団池田文庫

### 基本情報

設置主体 公益財団法人阪急文化財団
所属団体 池田文庫
運営主体 公益財団法人阪急文化財団
所在地 〒563-0058 大阪府池田市栄本町12-1
TEL 072-751-3185 FAX 072-751-3302
URL http://www.hankyu-bunka.or.jp/ikedabunko/
設立 2011年 開館 1949年
加盟団体 日本図書館協会、大阪公共図書館協会
専門図書館協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 26点：東宝・東和商事
- 映画脚本 約280点：宝塚映画製作所・東宝・東映・日活・松竹ほか
- 映画パンフレット 約1,800点：主に戦前の映画館プログラム
- 映画関連書籍 約1,600点
- 映画関連雑誌 約12,300点：「キネマ旬報」「東宝」「エスエス」「映画評論」ほか、洋雑誌もあり

所蔵品の主な特徴 映画以外では、阪急電鉄関係資料（ポスター・図書・雑誌ほか）、宝塚歌劇関係資料（ポスター・図書・雑誌・プログラムほか）、歌舞伎関係資料（役者絵・番付・台帳・絵看板ほか）、民俗芸能関係資料（宝塚歌劇団内の郷土芸能研究会が各地で取材した映像テープ・取材メモほか）、演劇のプログラム
所蔵品の主な入手先 購入や寄贈（阪急・東宝等グループ会社の資料として収集されたものが多い）
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 無（当面は予定なし）
企画展示 無（当面は予定なし）
入場料金 無料
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始
開館時間 10：00～17：00（入館は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 有
資料貸出・画像提供 可（展示等への貸出は可、画像提供可能な映画資料はなし）
資料館出版物 有（「阪急文化」「阪急文化研究年報」）
上記資料デジタル化推進 有（ポスター、役者絵で実施済／HPで公開）
上映活動実施 無



## 52 プラネット映画資料図書館

### 基本情報

設置主体 プラネット映画資料図書館
運営主体 プラネット映画資料図書館
所在地 〒530-0028 大阪府大阪市北区万歳町3-41城野ビル206
TEL 06-6364-2165 FAX 06-6312-8232
URL https://planetcinema.web.fc2.com/
設立 1974年 開館 1974年
加盟団体 大阪興行協会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 約1,000点：未整理（他は神戸映画資料館に移管）
- 映画脚本 約100点：未整理（他は神戸映画資料館に移管）
- 映画プレス資料 約300点：未整理（他は神戸映画資料館に移管）
- 映画パンフレット 約2,000点：未整理（他は神戸映画資料館に移管）
- 映画関連書籍 約1,000点：未整理（他は神戸映画資料館に移管）
- 映画関連雑誌 約500点：未整理（他は神戸映画資料館に移管）
- 映画スチル写真 約1,000点：未整理（他は神戸映画資料館に移管）
- 映画スクラップ 約30点：未整理（他は神戸映画資料館に移管）
- 映画関連機材 約150点：未整理（映写機、編集機、撮影機、音響機材）
- その他
  - ・日本版、韓国版、タイ版の映画チラシ 約10,000点
  - ・DVCAM、BETACAM、1インチ、D2等 約30点

所蔵品の主な特徴 ドキュメンタリー映画監督（複数）の遺品や寄贈資料を所蔵／16mmフィルムの配給会社から移管されたフィルムを多数所蔵／出張映写業者から寄贈の映写機材を多数所蔵
所蔵品の主な入手先 古書店・古物商からの購入、個人コレクターや映画関係者による寄贈
映画フィルムの所蔵本数 約500本 ※ほか（約15,000本）は神戸映画資料館の収蔵庫に保存

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 無
入場料金 無料
休館日 不定
開館時間 不定

### 普及活動

資料閲覧 不可（展示以外） 閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 有（戦前の記録フィルム）
上映活動実施 無



## 53 朝来市旧生野鉱山職員宿舎（甲社宅）志村喬記念館

### 基本情報

設置主体 兵庫県朝来市
運営主体 甲社宅運営委員会
所在地 〒679-3301 兵庫県朝来市生野町口銀谷697-1
TEL 079-670-5005 FAX 079-670-5005
URL http://asago-net.jp/users/kousyataku/office1006.html
設立 2010年 開館 2010年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 20点

映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有
企画展示 無
展示面積 80㎡
入場料金 無料
休館日 月曜
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 不可
資料貸出・画像提供 不可
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 無

## 54 神戸映画資料館

### 基本情報

設置主体 NPO法人プラネット映画保存ネットワーク
運営主体 NPO法人プラネット映画保存ネットワーク
所在地 〒653-0036 兵庫県神戸市長田区腕塚町5-5-1-201
TEL 078-754-8039
URL https://kobe-eiga.net/
設立 2007年　開館 2007年
加盟団体 兵庫県興行協会、コミュニティシネマセンター

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　約13,000点：整理中
- 映画脚本　約500点：整理中
- 映画プレス資料　約1,800点：整理中
- 映画パンフレット　約10,000点：整理中
- 映画関連書籍　約4,000点
- 映画関連雑誌　約8,000点
- 映画スチル写真　約13,000点：整理中
- 映画スクラップ　約60点：整理中
- 映画関連機材　約500点：整理中

所蔵品の主な特徴　戦前のホームムービー等、散逸しやすいフィルムを所蔵／成人映画資料等、公的機関が扱い難いものを所蔵／関西を中心に自主上映のチラシ等、発行部数が少ないものを所蔵
所蔵品の主な入手先　個人コレクター、映画関係者、視聴覚ライブラリー等
映画フィルムの所蔵本数　18,000本

### 展示活動

常設展示　有（アーク式35mmフィルム映写機、ナトコ16mmフィルム映写機、ポスターほか）
企画展示　有（不定期開催）
展示面積　常設展示 約10㎡・企画展示 約10㎡
入場料金　無料（閲覧室の利用は会員制、映画鑑賞は有料）
休館日　水・木曜
開館時間　10：30〜18：00

### 普及活動

資料閲覧　可　閲覧室　有
資料貸出・画像提供　可
資料館出版物　有（上映告知チラシ）
上記資料デジタル化推進　有（戦前の記録フィルム）
上映活動実施　有（年約150回／35mmフィルム、16mmフィルム、8mmフィルム、ブルーレイ、DVD、DVCAM）
その他　講座やイベントの開催



## 55 橋本忍記念館

### 基本情報

設置主体 兵庫県神崎郡市川町
所属団体 市川町教育委員会
運営主体 市川町文化センター
所在地 〒679-2315 兵庫県神崎郡市川町西川辺715
TEL 0790-26-0969　FAX 0790-26-0237
URL https://www.town.ichikawa.lg.jp/
設立 2000年　開館 2000年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター　6点：1950年〜1977年
- 映画脚本　323点：1950年〜1980年頃の橋本忍作品
- 映画パンフレット　23点：『八甲田山』ほか橋本忍作品
- その他　映画祭トロフィー、賞状等36点

所蔵品の主な特徴　すべて橋本忍氏旧蔵品で脚本には自筆サイン、書き込み等も見られる／設置されているシステム（タッチパネル式）よりデータベースを検索できる／橋本氏のコメントも数点あり
所蔵品の主な入手先　橋本忍氏から寄贈
映画フィルムの所蔵本数　無

### 展示活動

常設展示　有（橋本忍氏の略歴を示した年表を中心に、自筆の脚本、賞のトロフィー等を展示、氏の創作スタイルをパネルで紹介）
企画展示　有（不定期 ※前回は生誕100年記念展）
展示面積　常設展示 約80㎡・企画展示 233㎡
入場料金　無料
休館日　火曜、第3木曜、祝日翌日（改修工事のため2021年3月末まで休館）
開館時間　9：00〜17：00

### 普及活動

資料閲覧　可（要申請／劣化が見られるため制限あり）
閲覧室　無
資料貸出・画像提供　可（要申請）
資料館出版物　有（図録200円、「人とシナリオ」1,500円）
上記資料デジタル化推進　未定
上映活動実施　有（不定期開催）



## 56 西河克己映画記念館

### 基本情報

設置主体 鳥取県八頭郡智頭町
運営主体 指定委託管理者智頭町観光協会
所在地 〒689-1402 鳥取県八頭郡智頭545
（国登録有形文化財旧塩屋出店内）
TEL 0858-76-1111（観光協会）
FAX 0858-76-1112（観光協会）
URL http://cms.sanin.jp/p/chizu/kankou/pickup/eigakinenkan/
設立 2001年　開館 2003年
加盟団体 鳥取県ミュージアムネットワーク

### 所蔵品

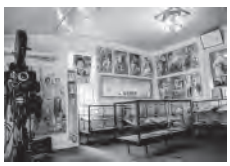
映画資料
- 映画ポスター　約100点：西河克己監督作品（1945年〜1990年、日活・東宝）
- 映画脚本　約60点
- 映画プレス資料　約20点：『伊豆の踊子』特集
- 映画パンフレット　未整理
- 映画関連書籍　未整理
- 映画関連雑誌　未整理
- 映画スチル写真　約1,000点：西河克己監督関連作品のほとんど（1945年〜）
- 映画美術資料　未整理
- 映画関連機材　3点：1953年製の映写機とレンズ
- その他　西河監督の戦地からの絵手紙、スケッチ画、著作本

所蔵品の主な入手先　西河監督からの寄贈品、ポスターはインターネット・オークションで購入
映画フィルムの所蔵本数　無

### 展示活動

常設展示　有（ポスター、スチル写真、手紙、サイン色紙）
企画展示　有（年約2回）
展示面積　約50㎡
入場料金　無料
休館日　水曜（臨時休館あり）
開館時間　10：00〜16：00

### 普及活動



資料閲覧　可
閲覧室　有
資料貸出・画像提供　可
上記資料デジタル化推進　未定
上映活動実施　無



## 57 足立美術館

### 基本情報

設置主体 公益財団法人足立美術館
所在地 〒692-0064 島根県安来市古川町320
TEL 0854-28-7111　FAX 0854-28-6733
URL http://www.adachi-museum.or.jp
設立 1970年　開館 1970年

### 所蔵品

映画資料
- 映画脚本　40冊：岡本喜八監督の書込み入り
- その他　直筆絵コンテ 5巻

所蔵品の主な特徴　岡本喜八監督の映画関連資料（脚本、絵コンテ）
所蔵品の主な入手先　寄託品
映画フィルムの所蔵本数　6本

### 展示活動

常設展示　有（休止中）
企画展示　無
展示面積　20㎡（常設展示 20㎡）
入場料金　無料
開館時間　毎週土曜13：00〜15：30頃（映画上映時間中のみ開館）
※休止中

### 普及活動

資料閲覧　不可
閲覧室　無
資料貸出・画像提供　不可
資料館出版物　無
上記資料デジタル化推進　無
上映活動実施　有（年間約52回／DVD）
※休止中

## 58 おのみち映画資料館

### 基本情報

設置主体 広島県尾道市
運営主体 尾道市
所在地 〒722-0045 広島県尾道市久保1-14-10
TEL 0848-37-8141
URL https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/7/4033.html
開館 2000年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 約15,000点
- 映画パンフレット 約2,900点
- 映画関連書籍 約150点
- 映画関連雑誌 約1,000点
- 映画関連機材 約20点

所蔵品の主な入手先 寄贈
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（尾道でロケ撮影された映画のスチル写真、小津安二郎監督全作品を写真と年表にして展示）
企画展示 有（年約1回）
展示面積 約232.2㎡
入場料金 一般520円、中学生以下は無料
休館日 火曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始
開館時間 10：00～18：00（入館は17：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 無



## 59 下関市立近代先人顕彰館（田中絹代ぶんか館）

### 基本情報

設置主体 山口県下関市
運営主体 公益財団法人下関市文化振興財団
所在地 〒756-0008 山口県下関市田中町5-7
TEL 083-250-7666 FAX 083-231-0469
URL http://www.kinuyo-bunka.jp/
設立 2010年 開館 2010年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 21点：田中絹代出演作品
- 映画脚本 約100点：田中絹代出演作品
- 映画関連雑誌 約900点：「キネマ旬報」
- 映画美術資料 約10点：『恋文』セット図等
- 映画関連機材 2点：撮影用照明2台
- その他 田中絹代の遺品（調度品、衣類、アクセサリー類、映画、テレビ台本）約1,000点／そのほか主に個人で使用したもの

所蔵品の主な特徴 田中絹代の遺品を中心に、下関市に縁のある先人の遺品・資料等
所蔵品の主な入手先 小林千代子氏（小林正樹監督夫人）、芸游会、市民等からの寄贈
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（田中絹代の遺品を中心とした女優・絹代に関する展示）
企画展示 無（各階、年3回ほど展示替えあり）
展示面積 300㎡
入場料金 大人210円、小人100円（1階「ふるさと文学館」無料、2階「田中絹代記念館」のみ有料）
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、年末年始
開館時間 9：30～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（博物館相当施設を対象）
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 有（月1回／DVD）

## 60 二十四の瞳映画村 ギャラリー松竹座映画館

### 基本情報

設置主体 二十四の瞳映画村
運営主体 一般財団法人岬の分教場保存会
所在地 〒761-4424 香川県小豆郡小豆島町田浦甲931
TEL 0879-82-2455 FAX 0879-82-1824
URL https://24hitomi.or.jp/gallery
設立 1976年 開館 1992年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 約100点
- 映画プレス資料 未整理
- 映画スチル写真 未整理
- 映画美術資料 未整理
- 映画関連機材 1点
- その他
  - ・映画『二十四の瞳』（1987年）衣装数点、旗、たすき、弁当箱等
  - ・映画『八日目の蝉』衣装、監督台本、日本アカデミー賞最優秀監督賞トロフィー、絵コンテ等
  - ・シネマ・アートウォール（松竹映画20作品スチルからのアートパネルにした壁）

映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（1950年代日本映画黄金期ギャラリー、ギャラリー松竹座映画館）
企画展示 無
入場料金 大人790円・小人380円（入村料金）
休館日 無休
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 不可
資料貸出・画像提供 不可
資料館出版物 無
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有（年約365日／DVD）
その他 瀬戸内こども映画祭脚本コンペ主催、喋楽苦Ⅰ・Ⅱ（映画人によるトークイベント）、ゲキ×シネ上映（2015年～）



## 61 高知県立文学館

### 基本情報

設置主体 高知県
運営主体 公益財団法人高知県文化財団
所在地 〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1-1-20
TEL 088-822-0231 FAX 088-871-7857
URL https://www.kochi-bungaku.com/
設立 1997年 開館 1997年
加盟団体 全国文学館協議会

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 5点：1940年代後半～1970年代に公開された洋画・邦画
- 映画脚本 26点：1930年～2010年代に公開された顕彰作家の作品を原作とする邦画
- 映画パンフレット 48点：1930年～2000年代に公開された洋画・邦画
- 映画関連書籍 60点：1930年～2010年代刊行の映画史・伝記・評論等
- 映画関連雑誌 8点：「シナリオ」「別冊文藝」等
- 映画スチル写真 148点：1970年～1990年代の邦画
- 映画スクラップ 15点：1930年～1990年代公開の洋画・邦画の評論記事等、スクラップ帳含む（記事総数は約190点）
- その他 日本の文芸映画VHS・顕彰作家原作映画DVD等 40点

所蔵品の主な特徴 古典から現代にいたる高知県ゆかりの文学者の著作物・遺愛品等を所蔵
所蔵品の主な入手先 寄贈、購入
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有（高知と文学者たち、寺田寅彦記念室、宮尾文学の世界）
企画展示 有（顕彰作家に関する展示、テーマ展、巡回展等）
展示面積 964.48㎡（常設展示 772.69㎡・企画展示 191.79㎡）
入場料金 常設展：一般370円、企画展：企画展ごとに異なる
休館日 年末年始（12月27日～1月1日） ※その他臨時休館あり
開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可（要申請／音声、動画媒体の視聴不可）
閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（要申請／資料の貸出先は博物館等一定の貸与条件を満たす場合に限る）
資料館出版物 有（館報「藤並の森」、常設展・企画展カタログ等）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 無

## 62 福岡市総合図書館 文学・映像課

### 基本情報

設置主体 福岡県福岡市教育委員会
運営主体 福岡市総合図書館
所在地 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜3-7-1
TEL 092-852-0600 FAX 092-852-0609
URL https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/
設立 1996年 開館 1996年
加盟団体 国際フィルムアーカイブ連盟

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 3,919点
- 映画脚本 未整理につき非公開
- 映画プレス資料 1,048点
- 映画パンフレット 1,277点
- 映画関連書籍 未整理につき非公開
- 映画スチル写真 3,599点
- 映画スクラップ 未整理につき非公開
- 映画美術資料 未整理につき非公開
- 映画関連機材 未整理につき非公開

所蔵品の主な特徴 アジア映画関係の資料を中心に収集／郷土映像資料を収集／個人作家の作品を収集
所蔵品の主な入手先 寄贈、寄託
映画フィルムの所蔵本数 約3,000本

### 展示活動

常設展示 無
企画展示 有（年1～2回 ※1～2か月程度）
入場料金 無料
休館日 月曜、月末（土日の場合は翌平日）
開館時間 火～土曜10：00～20：00、日曜・祝日10：00～19：00

### 普及活動

資料閲覧 有（不可／特殊なケースのみ可）
資料貸出・画像提供 有（不可／特殊なケースのみ可）
資料館出版物 有（「シネラニュース」）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 有（年約500回／35mmフィルム、16mmフィルム、デジタル）
その他 アジア映画の収集、保存、上映



## 63 松永文庫

### 基本情報

設置主体 福岡県北九州市
運営主体 北九州市
所在地 〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸1-3-5旧大連航路上屋内
TEL 093-331-8013 FAX 093-331-8012
URL https://www.matsunagabunko.net/
開館 2009年

### 所蔵品

- 映画ポスター 約3,600点：大正期以降
- 映画脚本 約500点：日本を代表する脚本家全般
- 映画プレス資料 約2,700点：昭和期以降
- 映画パンフレット 約3,500点：昭和期以降
- 映画関連書籍 約3,000点：昭和期以降
- 映画関連雑誌 約5,000点：大正期以降、「活動写真雑誌」「新映画」「キネマ旬報」「日本映画」「映画情報」「近代映画」ほか
- 映画スチル写真 約4,000点：昭和期以降
- 映画関連機材 30点：35mmフィルム映写機、16mmフィルム映写機、アニメーション撮影台ほか
- その他
  劇場プログラム（ウィークリー）約4,800点、チラシ 約10,000点、絵看板 17点、前売券半券 約1,000点、カレンダー 約300点、スクラップその他 約20,000点

所蔵品の主な特徴 ノンフィルム資料全般
所蔵品の主な入手先 主に購入及び寄贈
映画フィルムの所蔵本数 8mmフィルム 21本

### 展示活動

常設展示 有（映写機、撮影台等の関連機材）
企画展示 有（館内年4回 ※来館者アンケートを参考にしてテーマを決め、内容を変えた企画展を実施）
展示面積 常設展示 約96㎡・企画展示 約194㎡
入場料金 無料
休館日 月曜（祝休日の場合は翌平日）、展示替え日、年末年始（12月29日～1月3日の施設閉館日）
開館時間 9：00～17：00

### 普及活動

資料閲覧 可（関係者、学術研究者） 閲覧室 無
資料貸出・画像提供 可（要事前申請）
上記資料デジタル化推進 未定
上映活動実施 有（年1～2回／旧大連航路上屋2階ホール、35mmフィルム、DVD）
その他 映画音楽コンサート等のイベント開催



## 64 長崎市遠藤周作文学館

### 基本情報

設置主体 長崎県長崎市
運営主体 長崎市
所在地 〒851-2327 長崎県長崎市東出津町77番地
TEL 0959-37-6011 FAX 0959-25-1443
URL http://www.city.nagasaki.lg.jp/endou/
設立 2000年 開館 2000年

### 所蔵品

映画資料
- 映画ポスター 15点
- 映画脚本 11点：熊井啓監督等
- 映画プレス資料 29点：チラシ、広告、プレス用台本含む
- 映画パンフレット 29点
- 映画関連書籍 7点：レコード、サントラ含む
- 映画関連雑誌 28点：「キネマ旬報」「シネ・フロント」等
- 映画スチル写真 19点：撮影現場写真含む
- 映画スクラップ 36点
- 映画美術資料 1点：『沈黙』（1971年）踏絵レプリカ
- その他
  ・熊井啓監督資料（スクラップ等 約18点）
  ・2点（スタッフTシャツ、スケジュール表）

所蔵品の主な特徴 作家・遠藤周作の原稿、肉筆資料、旧蔵書、遺品等、関連する資料
所蔵品の主な入手先 親族、関係者等
映画フィルムの所蔵本数 無

### 展示活動

常設展示 有
企画展示 有
展示面積 966㎡（常設展示 480㎡・企画展示 486㎡）
入場料金 一般360円（260円）、小・中・高生200円（100円） ※（ ）は団体料金
休館日 12月29日～1月3日
開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）

### 普及活動

資料閲覧 可（旧蔵書の一部、旧蔵書への書込み資料）
閲覧室 有（一部要事前申請）
資料貸出・画像提供 可
資料館出版物 有（企画展図録、旧蔵書目録）
上記資料デジタル化推進 無
上映活動実施 有（年2回／外部委託）



## その他の施設

### 声優ミュージアム

所在地 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-52-18 BOF5笹塚2F
TEL 03-3460-8400
URL https://www.81produce.co.jp/seiyuu-museum.html

### 加山雄三ミュージアム

所在地 〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科2048-1
TEL 0558-52-1122 FAX 0558-52-1476
URL http://www.kayama-yuzo-museum.com/

### 伊丹十三記念館

所在地 〒790-0932 愛媛県松山市東石井1-6-10
TEL 089-969-1313 FAX 089-969-1314
URL https://itami-kinenkan.jp/

発　　行：文化庁、国立映画アーカイブ
編　　集：国立映画アーカイブ、特定非営利活動法人映像産業振興機構（VIPO）
本文デザイン：86Graphics
印　　刷：宮川印刷
発　行　日：2021年2月28日
＊無断転載を禁じます。

# 全国映画資料アーカイブサミット 2021

**■ 開催概要**
**【日程】** 令和 3 年 3 月 2 日（火）10：00 ～ 18：00
**【形式】** オンライン開催

映画資料の保存と活用のための基本知識をテーマに、映画資料の理解を深めることを目的に開催。映画資料の所蔵元、映画関係者、権利者、研究者、学芸員などの参加により、ネットワークの深化拡大および課題の議論を行い、相互理解を深めることを目指す。

**■ 実施結果**
**出席者**：200 名
**各部視聴者数**：第 1 部　140 名
第 2 部　144 名
第 3 部　139 名
第 4 部　144 名
第 5 部　126 名

**■第 1 部セミナー「映画資料の魅力～映画宣材は如何にして生まれるか？」**

**【講　師】** 幸田 順平（元松竹株式会社 宣伝部長）
**【聞き手】** 岡田 秀則（国立映画アーカイブ 主任研究員）

松竹株式会社において 1970 年代から 25 年間宣伝部員としてご活躍された講師が、ご自身で宣伝を手がけた作品に即して、宣材物の制作過程についてお話しくださいました。プログラム・ピクチャーや撮影所システムがまだ強固だった 1970 年代から、大作主義に変貌していく 1980 年代までの製作環境において、宣材物（プレスシート）作成やキャッチコピー考案といった具体的な宣伝業務がいかに実践されていったか、そうした経験と知見を共有いただきました。そして『男はつらいよ』シリーズなどの山田洋次監督作品や『砂の器』『利休』『蒲田行進曲』といった話題作の例を豊富に取り上げ、作り手の意向を汲み取りながら興行成績に結びつけるための努力についてもお話しいただきました。実際の制作経緯を通して、身近にある宣材物の魅力を知ることのできる貴重な機会となりました。

**■第 2 部セミナー「展示キュレーション―映画資料の持つ可能性を拡げる」**

**【講　師】** 増谷 文良（公益財団法人川喜多記念映画文化財団［鎌倉市川喜多映画記念館専任担当］）

講師の約 10 年間企画展に携われた経験を通し、映画資料の多様な側面を展示に生かす方法についてお話しいただきました。最初に鎌倉地域の特性と、鎌倉市川喜多映画記念館の成り立ち・特性・運営についてご紹介いただき、次に企画テーマの立てかた、公開方法、検索システムを用いたキュレーションについてお話しいただきました。展示構成のコンセプトでは、大衆娯楽／総合芸術、物語（ストーリー）、

他テーマとの組み合わせ、上映との組み合わせ、観光の観点との連動など、豊かな企画を実現する秘訣について多彩な角度からの工夫をお話しいただきました。最後に松竹大船撮影所にて使われた道具や、写真、衣裳、イラストレーターとの連携、イベントなどを通し、多様な資料の種類の扱いと具体的な展示方法をご紹介いただきました。

**■第３部セミナー「『羅生門展』に見る映画資料のデジタル展示について」**

【講　師】 野久尾 智明（株式会社アイ・ティー・ワン 代表取締役社長）
【聞き手】 槙田 寿文（事務局）

令和２年度に国立映画アーカイブと京都文化博物館にて実施された「羅生門展」で用いられたデジタルアーカイブと展示技術、その活用方法について、技術開発された講師よりご教授いただきました。IT 企業の視点から新たな展示方法の提案として、開発時の方針とコンセプトを通し、メリット、ターゲットの拡大を意識した開発、研究の観点からの可能性についても詳細にご説明いただきました。次にデモ動画を用いて複数の脚本をシンクロして表示する様子を公開し、コロナ禍における非接触型技術の開発、操作方法や検索方法、音声読み上げシステムなどについてご紹介いただきました。最後に、アクセス分析をリアルタイムで行うことなど、展示会期中においても技術改良や使用状況の把握が可能であることから、今後の資料展示の在り方に新たな可能性を示していただきました。

**■第４部セミナー「映画資料のアーカイブと公開に関する権利処理と最新動向」**

【講　師】 福井 健策（骨董通り法律事務所 弁護士［日本・ニューヨーク州］）

映画資料を中心として幅広い状況に言及しながら、アーカイブ化と権利処理の最新動向についてわかりやすくお話しいただきました。まずケースごとの権利処理必要有無を解説いただき、著作権の保護期間とパブリックドメインの考え方などを、実例を用いてご説明いただきました。次に、近年の著作権法改正による図書館･博物館におけるデジタル化や、美術や写真の現物展示と配信、コンテンツ所在検索サービス（データベース化）と軽微利用について、活用可能な範囲をご紹介いただきました。そして映像アーカイブについては、昨年文化庁事業として講師が扱われた舞台映像の例（EPAD）を取り上げながら、アーカイブの過程で立ちはだかる固有の壁についてお話しいただきました。最後に肖像権の権利処理と、講師が委員として所属されるデジタルアーカイブ学会作成のガイドラインをご紹介いただきました。

**■第５部シンポジウム「映画資料をめぐる現状とその課題――全国ネットワーク化に向けて」**

【モデレーター】 岡田 秀則（国立映画アーカイブ 主任研究員）
【パネリスト】 山口 記弘（東映京都スタジオ 特別顧問）
須川 綾子（調布市立中央図書館 調査支援係主任）
田中 範子（神戸映画資料館支

配人／NPO法人プラネット映画保存ネットワーク専務理事）

映画資料の所蔵機関に課せられる具体的な問題として、まずは個々のパネリストが所属する各館の現状と課題を共有いただきました。次に、各所蔵団体が構築すべきネットワークの考えかたと、それを広げるための具体的な取り組みについて議論し、所蔵者同士の情報共有やつながりの必要性が明らかにされました。そして資料の展示やアクセス対応、ウェブ公開への展開など、資料の公開に関する現状については、データベースの活用やデジタル化による機能拡張の取り組み、学術利用の可能性の拡大やそれに付随する問題点など、各々の課題をお話しいただきました。最後に、喫緊の課題となっている資料受け入れ態勢の拡充について、寄贈の要望は増加しているが受け皿に限界があるという現状と、それをふまえた保存場所やカタロギング上の課題を共有し、解決に向けて改めてネットワークの重要性を認識する機会となりました。

# 第２回検討委員会

**第２回検討委員会**
**【日程】**令和３年３月８日（月）
**【場所】**オンライン開催

**【出席者】**
**検討委員：**
山口　記弘　（株式会社東映京都スタジオ特別顧問）
堀口　政浩　（東映株式会社執行役員経営戦略部長グループ戦略室長アーカイブ・スクワッド担当）
永島　聡　（株式会社松竹撮影所京都製作部部長）
井川　透　（松竹株式会社映像本部映像素材管理スタッフ部長）
木下　千花　（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）
板倉　史明　（神戸大学大学院国際文化学研究科准教授）
森脇　清隆（京都文化博物館学芸課映画情報室長）
岡田　秀則（独立行政法人国立美術館国立映画アーカイブ主任研究員）
中村　秀之　（立教大学現代心理学部映像身体学科教授）
福井　健策　（骨董通り法律事務所弁護士（日本・ニューヨーク州）日本大学芸術学部客員教授）

**オブザーバー：**
髙橋　剣　（東映株式会社京都撮影所スタジオ 事業部長製作部美術センター室長）
河西　央　（株式会社東映京都スタジオ管理部長）
丸田　実穂　（京都府 商工労働観光部 ものづくり振興課）

**文化庁：**
戸田　桂　（文化庁参事官（芸術文化担当）付芸術文化調査官）
椦村　篤子　（文化庁参事官（芸術文化担当）付映画振興係長）
不破　佑太　（文化庁参事官（芸術文化担当）付映画振興係）

**事務局：**
特定非営利活動法人映像産業振興機構

## ■令和２年度　業務報告

事務局より実施した業務を報告。

## ■令和２年度　事業総括

**山口：**映画村図書室を京都大学の院生やOBの協力を得ながら運営しています。平日10～16時開室で、コロナ禍かつ受け入れ人数に限りがありますが、累計利用者は２月末までで約60名になりました。一昨年は展示など様々なイベントに取り組みましたが、今年度はほぼ実施できませんでした。そのような中デジタルアーカイブに向け、資料のデジタル化を徐々に始めています。院生やOBの方々にお手伝いいただきながら、まずは東映作品から始めています。スチルは昭和24（1949）年の東横映画時代から始め、昭和38（1963）年まで作業が終了し、6万枚を超える数をスキャニングしています。やはりデジタル化すると非常に便利で、活用させていただいております。ポスターが一番の難関ですが徐々に進めたいと思います。

**堀口：**昨年の東映太秦映画村の図書室開設にあたり、データベース、検索システムの構築含めご協力をいただき感謝します。そこからさらに発展したのがJFROL、ネットワーク構築と連携の一環ということで、ポスターやプレス画像のデジタルデータ化にも着手しました。東映太秦映画村は大量の映像資産を所有しているので、氷山の一角にようやく手を入れたという感じです。今後も作業を継続していきたいと思います。

第１回の委員会でご報告した、「浅草中映」閉館時に贈呈された資料の整理を10月頃から始めました。十数回作業をして、ポスターは目処がつき、現在16,000枚まで作品別の仕分けができました。最終的には東映映画のポスターが約18,000枚になると思います。東映の作品数は全部で3,300～3,400なので、これは作品数にすると３分の１に相当します。スチル、ロビーカード、プレスなどの整理は、まだ半分ほどしか終わっていませんが、スチル、ロビーカードも、最終的には約8,000枚になるのでは

ないかとみています。重複も多いですが、ポスターはB2サイズのみでなく、街貼り、捨て看板の縦長のものや、横幅のある特大のポスターなどもかなり多く出てきていますので、今後ポスター展などに有効活用していきたいと考えています。

**永島：**今年度の業務報告を伺い作業が進んでいたことに驚いています。JFROL、デジタルアーカイブ化を東映と松竹でも行われているということで、大きな進歩を遂げていると感心しています。昨年京都ヒストリカ国際映画祭で「松竹映画100年」を取り上げていただきました。本日ご出席の木下委員、森脇委員、山口委員、髙橋オブザーバーにもお世話になりましたが、その資料や宣材作りのため映画村図書室にも駆け込んだことが思い出されます。旧作を活性化できる環境は非常に大事で、そこから新作も含めた産業振興につながると思っています。そのような大義をもって、その大義を忘れることなく考えると、今年の成果は大きなものだったのではないかと考えています。

**井川：**私は本事業へ2年目から委員として加入しました。松竹大谷図書館がこのプロジェクトに参加するきっかけで関わってきたのですが、前年度にJFROLの前段階での実証実験が成功したとは聞いていましたが、本当にうまくいくのだろうかと心のどこかで思っていました。ただ、今回の「全国映画資料アーカイブサミット2021」で実際にベータ版が使われているところを見て、非常にうまい形で結実したと実感しました。今のところまだ東映と松竹の二つの組織しか関わっていないので、早いうちに様々なところが参加すれば、JFROLの有効性が高まるのではないかと思います。

**木下：**東映太秦映画村の映画図書室では、京都大学の院生や卒業した若手研究者がお世話になっています。研究は時間がかかりますので資料を見るだけではすぐに目に見えるような成果が出てくるわけではないかもしれませんが、若い学生たちが「資料に対する目が開かれた」「研究の方向性に新しいヒントを得た」とよく申していますので手応えがあったと思います。これからアーカイブとの連携が広まれば、他でも起こってくることだろうと思いました。前職で在籍しておりました静岡文化芸術大学の、静活という映画館から寄贈された映画資料などもこのネットワークの中に入れていただき、近日シンポジウムを開催予定と伺ったので、京都と東京以外の地域にも広がっていると思います。

相米慎二監督『セーラー服と機関銃』のイギリスとアメリカでのブルーレイ発売に関わるにあたり、資料閲覧のため映画村図書室に伺いました。東映配

給作品なので様々なバージョンのポスターやプレスの資料をすぐに拝見することができ、非常に活用できると実感しました。これからはこういった資料が、海外でソフト化あるいは配信される時に、また日本映画の海外進出で再評価されるためにも、役立っていくのではないかと思いました。

**板倉：**この３年間で様々な充実した事業が行われ、皆様のご協力とチームワークによって多くの成果が生まれたことがよくわかり、次のステップがあったら良いと強く感じます。

調布の図書館、郷土博物館、撮影所には多くの人が気付いていなかった資料が豊富にあることがわかりましたので、一つ一つを発掘してデータベース上で公開することによって、その資料の存在と魅力をより多くの方に知っていただくことができれば利活用も進むと思います。調査は何度も現地に行って大変だったと思いますが、その積み重ねによって貴重な資料が見つかっていくものだと実感しました。特に社内報などの内部資料が保存されていることが本当に素晴らしく、他の所では見ることができない貴重な資料だと思いました。

JFROL 搭載のため資料をデジタル化したということですが、ぜひ研究者として活用したいと思いました。同時に今後、様々なメディアが旧作について記事を書く時あるいは紹介する時にすぐその資料データを活用できるということで、今後のメディアや報道での利用も増えてくるのではないかと思いました。あるいは、映画村図書室にモニターを置いて、来館された方々が自分の興味に従って当時のポスターを見ることもできるでしょう。館内であれば安全な運用が可能と思いますので、ファンが喜ぶのではないかと思いました。

データベースが今後どう展開していくのかにも興味があります。図書館、資料館、美術館、博物館などが展覧会を企画する時に、こちらのデータベースを活用して、借用・展示したい時にどうすれば良いか、手続きなどのプロセスをマニュアル化して手順を簡易化すれば、活用が広がるかもしれないと思いました。ぜひこの３年間の成果の蓄積を一般の方にもアピールするような形で、書籍あるいはインターネット上でわかりやすく普及活動を進めるのも魅力的だと思います。

**森脇：**京都文化博物館は、映画資料あるいはフィルムをアーカイブし上映しています。現在国立映画アーカイブの岡田委員と VIPO のご協力で「羅生門展」を開催しています。東京開催後の京都開催として、コロナ禍に対応するため技術改良していただきました。今回も他企画展と同時期開催で、普段から別展示に来たお客様に少しでも見てもらえるよう工夫をしています。「羅生門展」では会場の最初にアニメーションを大きなスクリーンで展示し、それが小さな子供たちに好評でした。一緒にご家族も見ておられ、どうやら『羅生門』という作品があることは知っているが、どんなストーリー・構成かは知らない方も多いようです。この１回を以って映画資料の良さ、あるいは映画文化が伝わるというわけではありません。子供はきっと大半忘れてしまうと思いますが、日本映画には『羅生門』という作品がある、その映画を作る人たちは「シナリオのような、紙製のものを使っている」など、受け取った情報が少しずつ蓄積していきます。展覧会は動員や収益が、興味を持つ人が多いか少ないかという尺度にも取られます。映画資料の地位をいかに向上させるかについては、開催回数が少ないため数をこなして、記憶に少しでも残るよう少しずつ積み重ねていく方法しかないと思っています。「羅生門展」ではコロナ禍でタッチパネルが使えない分、ハンドジェスチャーでクリックできるよう IT 技術を駆使して開催し、子供たちの笑顔を見ながら続けて行かければいけないと実感しました。

**岡田：**事業報告を伺いまして、非常に豊かな３年間だったと実感しています。特にこの３年目は新型コロナウイルス流行の影響がありましたが、それでも色々な成果が表れていることがよくわかりました。その中の一つに「全国映画資料館録 2020」があります。2010 年版と 2015 年版は私が発案して東京国立近代美術館フィルムセンターが単独で始めたことでしたが、その当時は、制作に文化庁のご協力やご支援をいただいたり、映画資料について話し合う場を設けてそこに 200 名の人が集まったり、といったことは一種の夢でした。この成果は一つの大きな進歩ですし、一緒に取り組んでいただける皆さまの

存在も本当にありがたいことだと思っています。

私は国立映画アーカイブに勤めていますが、フィルムアーカイブの世界では、コレクションを「フィルム」と「ノンフィルム」という言い方で分けて、「ノンフィルム」は映画そのものである「フィルム」とは別のロジックに従ったサブジャンルだという捉え方があります。しかし、こうやって実績を積み重ねていくことによって、一つの分野として形を成してきて、「ノンフィルム」がどういうものなのか段々と形が見えてきた気がします。映画のフィルムを収蔵・保存する機関は限られますが、資料はもっと親しみやすいもので、一般の方でもパンフレットやチラシなどが家にあると思いますし、「全国映画資料館録 2020」でも北海道から九州まで色々なところに資料館があることがわかります。そういった意味で、「フィルム」と比べて人々との繋がり方も深いですし、オンライン実施のサミットは遠くにいる方とも繋がることができるので、非常に有効だったと思います。また、むしろ「フィルム」にはなかなかできないこととして、図書館など別セクターの方々と繋がりやすいのも非常に意義があることと思います。

ただ、これまでの成果を素晴らしいと思う一方で、ようやくこれから始まる、出発点に立った、という気持ちもあり、この地点からいかに発展させるかを考えるべきところだと思います。森脇委員からお話があったような多くの人に資料を見てもらう努力や、その基盤を作るための法律制度に関しては福井委員のお話が非常に役に立ちますし、色々な視点からのお話を伺える場ができて、この先の展開が期待できると思います。バラバラだった映画資料館が一つのネットワークとして生まれつつあって、「ネットワークに参加するにはどうすれば良いか」という質問をいただいたりします。そう言われても、まだネットワークを具体的に作ったわけではないので、今後どうしていけば良いかを引き続き考える必要があると思います。JFROL に関しては実用的で使いやすく、映画資料を活用するために非常に有効であると感じましたので、今後どのようにしてこれまでの積み重ねの上に次のフェーズを作っていけるかを一緒に考えられると良いと思いました。

**中村：**これまでの皆さんのご努力や 3 年目の成果を伺い、本当に素晴らしい事業と思いました。一介の研究者として、映画資料に関してはこれまで手探りで自分に必要なものを探してきましたので、アーカイブに関する基盤整備などの取り組みに対しては感謝と敬意を表したいと思っています。

今年度の調布地区の調査では非常に貴重な発見をしていただき、社会との繋がりがある資料が発見されることは、映画の在り方を考える上で非常に重要だと思います。先日完成した「全国映画資料館録 2020」もこれを片手に資料館巡りをしたくなるような素敵な冊子になっていると思います。JFROL に関しては、自分が探していた以外の資料も偶然見つけることで関心がさらに広がるというメリットと、シナリオのバージョンが存在することが簡単にわかることもありがたいですし、今後さらに拡充していただけると良いと思います。一種の映画資料の集合知とも言えるようなセンターが作られつつありますので、今後のさらなる展開を期待しています。

**福井：**大きなプロジェクトがいよいよ走り出したのだなという思いを持っております。今後は、許諾モデルと非許諾モデルをどう組み合わせていくかという視点も重要でしょう。映画資料に関わる権利者は非常に多岐にわたるため、連絡を取って許可をもらうことが大変困難なケースがあります。法的な権利者の幅は広く、複数の権利者がいた場合に一人だけ連絡がつかなかったり、了承をもらえないだけで、その資料全体がほぼお蔵入りになってしまいます。おそらく多くのデジタルアーカイブ事業では、完全な個々の要素に至るまでの権利処理はせず、現場がフレキシブルに判断しているケースも多いと思います。そうした許諾が、一定の場合に不要になるように著作権法を改正する動きが文化庁でこの 10 年ほど進められており、それが最も結実したのが 2018 年の第 47 条の 5 という、所在検索サービスを適法にするための規定です。そのほかにも第 31 条の図書館・博物館規定があり、まずは図書からですが、市場流通していない資料を権利処理無しで家庭配信もできるように、第 31 条の改正も先週金曜日に閣議決定されました。このように法改正がどんどん進んできています。肖像権の問題については、デジタ

ルアーカイブ学会で肖像権ガイドラインを策定しており、まもなく正式版が公表される予定です。このように、著作権では、権利者に配慮しつつも、非許諾でここまでできるという領域を確保しようとしてきたのがこの10年の流れであり、肖像権についても、民間の努力が進んでいます。そうなると、非許諾モデルを前提としてデジタルアーカイブを構築する動きも、今後は強まってくると思います。

無論、所蔵館を代表格に権利者の方々の協力を得たい部分もあって、まさにネットワークという考え方が一番美しい形だと思いますが、時には権利が重荷になる場合があります。この一点さえ突破できれば公開できてみんな喜ぶのにというような、そのブレイクスルーは非許諾の法制度が助けてくれることもあります。どう、それを組み合わせていくか。私たちが権利処理を担当した「EPAD」という舞台映像のデジタルアーカイブが文化庁事業として今年から立ち上がりますが、これは両方のハイブリッド型です。早稲田大学の演劇博物館に1,300本の舞台映像をデジタル収蔵し、所在検索サービスや入館者による映像視聴に関しては、法制度を駆使して非許諾モデルでほぼ行います。その中から権利処理された舞台映像を約280本配信したり、戯曲を550本デジタル公開していますが、これについては許諾モデルで行っています。何が正解かは探りながら進んでいくと思います。本事業も大きなスタートを切りましたが、現場の協力関係や逆に権利が障害になり過ぎないようにしながら、許諾モデルと非許諾モデルの組み合わせをどうするかが今後の一つの焦点になっていくのではないかと思います。

## ■　自由討議

**中村：**全国には様々な資料館がありますが、重要な映画資料が単独で存在することがあります。クレス出版から今春出版される「映倫関係資料集」の別冊の解説を執筆した過程で、板倉委員や木下委員の論文も参考にさせていただき、新たな資料を見つけることもできました。例えば日本映画連合会が1948年に出した「日本映画　終戦第三年の報告」という重要な資料があります。私が調べた限りでは、これは大阪市立大学の図書館にしかないことがわかり、コピーを取り寄せて閲覧することができました。これまでも現地に赴いて閲覧するという経験がありました。このように研究者が調査の中で見つけた資料を映画関連のデータベースに集約した形でほかの方にも利用できると非常に良いのではないかと思います。またある種のフォーラムのようなものを形成して情報交換をしていけるとさらに良いと思います。

**岡田：**この事業は、失われてゆくかもしれない映画資料を救済しようというアイデアからスタートしている一面もあります。受け皿を作るという話ですが、やはり議論しているうちに、映画資料をどう活用してゆくべきか、その入口から出口まで、全体の流れを考えるようになってきました。今回のサミットのアンケートを見て、参加者の皆様の全員が必ずしも特別に映画資料への関心を持っているとは限らないにも関わらず、デジタルアーカイブだけでなく資料現物への関心も引き続き大きかったことは、面白い現象だと思いました。アーカイブを考えるときに、現物資料をどうするかということ、あるいはそれをどう修復するかということもビビッドなテーマであり続けていることがわかりました。すぐにデジタル化できるわけではないため、現物を見に行かなければいけないという中村委員のご努力のようなことが、今後も続く気がします。そういう意味で、現物をどうするかという水準の話もやめるわけにはゆかず、その両輪の成果が今回の3年間である程度出ていると思います。

**文化庁：**目指すべきところはJFROLのような仕組みで資料をいかに色々な方に見ていただけるか、利用の仕方によって映画振興全体に結び付けて行けるかを検証することだと思っています。森脇委員からもお話があったような展示や、出版物や研究書籍を書くときに閲覧する場面など、所蔵元、権利元、研究者の三者が映画振興全体を考えた時に同じ目的に向かって進めるかが重要になると思います。旧作への関わりや利用喚起が、映画文化全体を活性化することに成果が挙げられるかを、検証して行きたいと思っています。

**事務局：**出口は資料の利活用を通じた映画振興だと思います。それが一般の人にリーチし、三者でフォーラムを組み、歩む形を推進していくことがこの事業

の役割の大きな目的の一つだと考えており、そのスタートラインがやっとできてきたと感じています。

**中村：**映画文化の保存と、多くの人々の様々な関心に応えていく形での資料の保存・利活用が根本的に重要であると思います。私は子供の頃通った映画館のチケット売り場にスチルが貼ってあり、写真の場面が実際には映画に出てこないという気づきのような経験から、映画を見始めました。そういう貴重なスチルが保存され、いつでも閲覧できるようになると若い世代にとっても興味深いことであろうと思います。岡田委員がおっしゃった現物、紙だけでないさらにモノの段階で、例えば、今回角川大映スタジオでの調査で見つかった特撮の爆発の電源スイッチに非常に興味を惹かれました。そういった制作の現場あるいは配給、上映まで一連の流れの中に映画文化が形成されてきた。そしてそれぞれの段階で残されたものをどのような形で保存し、継承して行くのかという、大きな観点が必要と思います。

**岡田：**これまでいくつかの事業をやってきた中で、アーカイブサミットを開催したという実績は無視できない大きなものと思います。違うセクターの方々がようやく同じ土俵で語り合い、それぞれのロジックを聞けるようになったからです。資料を単に眠らせないために、ルールを作って使っていくために、ついに考え始めたわけですから、今後も続けていくべきだと思います。毎回最新のテーマを拾い上げ、その時々の関係者の方々が関心を持っていること、問題だと思っていることを取り上げるという方向性で続けていけば、それぞれの関係者が孤独だと感じることもなくなるのではないでしょうか。それから、この映画資料という分野全体がまだ世の中にあまり知られていない中で、様々な文化資源のアーカイブ活動のひとつとして、この分野も重要なのだと認識してもらう機会にもなっています。

**板倉：**映画資料の価値を広く知ってもらう一番わかりやすい方法の一つは、映画資料が将来的に文化財に指定されることではないかと思います。2009年に国の重要文化財として映画フィルムがはじめて指定され、そこから3年間連続で映画フィルムが指定されました。映画フィルムの文化財指定は大きな話題になり、映画保存の大切さについての社会的な理解が広まるきっかけになった気がしています。3年間で構築した映画資料所蔵機関のネットワークがあれば、文化財指定の価値が十分にあるような資料が見つかる可能性もあると思います。この事業が次のステップのきっかけになるかもしれません。

**堀口：**「全国映画資料アーカイブサミット2021」の第1部セミナーはIPホルダーの立場としてはもちろん、一般の方が聞かれたとしても楽しい内容だったのではと思います。このように映画ファンを構築するようなことがもっと情報として共有されたら良いと思います。第2部セミナーについても東映太秦映画村で参考にしたいと思いました。岡田委員の話もありましたが、現物に触れていただくことで映画の雰囲気を味わってもらう機会は、映画ファンを増やすきっかけになります。JFROLに関してもある場所に行けば資料が見られることを情報として知っていただいて、その後現地へ行ってもらう流れが活性化されると良いと思いました。

**井川：**サミットへはIPホルダーとして松竹社員も何人も参加しています。所属部署を確認したところ、メディア事業部という二次利用の知財事業室とは別ですが、事業推進本部というプログラムを作っている部門が参加しており、まさに資料に携わっているメンバーが、サミットで勉強をしています。またメディア事業部の中の知財事業室でも「葛飾柴又寅さん記念館」運営に携わっている人間がおり、そのメンバーもやはりサミットに参加しました。IPホルダーも積極的に参加するようになっていると感じています。「全国映画資料館録2020」は何部印刷されたのでしょうか。

**事務局：**1,500部です。許可が下りた資料館においては、VIPO公式HPの事業紹介ページでWeb公開もしております。

**井川：**すごく素敵な冊子ですので、映画研究をされている方々がこれを持たれたら良いのではないかと思いました。

**岡田：**国立映画アーカイブでも主要な図書館や映画資料館といった組織へ送っていますが、まだこちらから見えない場所でこれを便利と思ってくださる方はいるように思います。映画研究者ではなくても20世紀文化を専門にしている方はいろんな分野に

いて、当然映画も視野に入ってきますから、そうした方々からのニーズが相当あるのではと、今回のサミット参加者の顔ぶれを見て思いました。

それから、現在は映画資料そのものを楽しもうとしている映画ファン層が広がっています。映画ポスターのデザイン史に注目している人気デザイナーの方もいますし、神戸映画資料館のように「映画チラシ」という主題でイベントを開催したり、あるいは「映画パンフレット」をテーマにしたイベントや出版をしたりという方々が、この数年間で出てきています。数年前にはなかった現象なので、配布先はさらに検討の余地があると思っています。

**山口：**過去作の掘り起こしは重要だと思います。国内だけではなく海外も含めて広げて行くには、やはり映画研究者のご協力が必要で、著名な映画評論家のような影響力のある方々にPRしていただく必要があると思います。研究会のネットワークをもっと広げていったり、若い方に参加していただく仕組みときっかけ作りがあると良いと思います。

**文化庁：**「全国映画資料アーカイブサミット2021」や検討委員会でも、これまで同じ映画資料に関わりは持っていても一緒に話す場が無かった方たちに入っていただいて検討できた点や、調査に関わってくださった方たちも含め、共に色々な方法を考えることができ大きな成果があったと思います。

映画資料の積極的な活用の仕方と所在地が分かれば、その後の有効活用にもつながる。そして、そこに文字情報のみでなくわずかでもデジタル化画像が入っていれば、より利用者にとっては便利になるということで、3年目の事業が進んでいきました。デジタルアーカイブ搭載のためのマトリクスを作っていただけたことは、ご協力いただいた東映、松竹の皆様、事務局に感謝したいと思います。これが今後の活用の仕方を考えていく上で最初のスタートになるかと思っています。お互いのメリットを見出していただける方々が次のフェーズでは引っ張って頂けるよう、異なる業種が加わり大きな議論ができると良いと思っております。今年度もありがとうございました。

# 第３章　事業総括

# 事業総括

3年目となる本年度は、過去2年間の成果をさらに発展・深化させることによって、映画資料をアーカイブ化して今後の利活用につなげる基盤が完成したと同時に、今後この活動をさらに拡大・発展させていくための課題も見つかった。本事業を実施した3年間に、映画資料をめぐる社会的な認知度ははっきりと目に見える形で高まっていった。2020年に東映太秦映画村・映画図書室が開館したこと、本事業が主宰する「全国映画資料アーカイブサミット」への参加者が毎回増加したこと、2020年から2021年にかけて国立映画アーカイブと京都文化博物館を巡回した映画資料の展覧会「公開70周年記念 映画『羅生門』展」の開催、神戸映画資料館における映画チラシやパンフレットをテーマにしたイベントの開催など、映画資料を主役にした新しいサービス、展覧会、イベント、シンポジウムなどが過去に見られないほど開催された。

本事業は上記のような映画資料の様々な活用の基盤を生みだすべく、映画資料の権利者、映画資料を収蔵する所蔵機関、そして映画資料を活用する大学の3者が連携して、映画資料の価値を発見し、データベース化して所蔵館を横断する資料検索を容易にし、さらなる利活用へと導くような流れを生み出すことを目指して進められ、いずれの側面においても当初の想定以上の豊かな結果を得ることができた。本年度の成果を分野ごとに分類すれば、1）映画資料の所在調査と価値づけ、2）映画資料のデータベース化とその活用、3）映画資料に関係する各種機関のネットワーク構築、4）映画資料の魅力発信の四つに分類することができる。

### 1）映画資料の所在調査と資料の価値づけ

過去2年間は関西地区における映画資料の所蔵機関の調査を進めていたが、今年度はさらに関東にも調査範囲を拡大し、映画撮影所や映画関連企業が集まっていた調布地区に焦点を絞り、調布市立中央図書館、調布市郷土博物館、日活調布撮影所、角川大映スタジオの映画資料の所蔵調査を行った。結果として、これまでほとんど存在が知られていなかった貴重な映画資料のコレクションを各館と撮影所が所蔵していることが分かった。これは本事業が「映画資料」に焦点を絞って各館と撮影所に調査協力を依頼したことによって、はじめてその存在が浮かび上がったといえる。調布市立中央図書館には大映東京作品の録音を数多く担当した須田武雄氏の旧蔵資料が収蔵されており、なかでも小津安二郎監督の大映作品『浮草』（1959）の録音過程が記された資料は、小津作品における音表現が生み出される過程を解明する一級の資料である。また元日活・編集技師だった鈴木晄氏の旧蔵資料のなかには日活作品の絵コンテや詳細なカット割り表なども含まれており、映画編集の微細な創意工夫を解明することができる貴重な資料である。

今回の所蔵調査で興味深いのは、調布市の4機関にそれぞれ収蔵されていた資料群をひとつの“総体”としてみれば、点と点が線になって、日活と大映に関する映画資料の巨大コレクションとして浮かび上がってきた点である。今後これら4機関が協力・連携することによって、資料同士の関係性の解明や内容調査も効率的に進み、また各機関の映画資料を組み合わせることによって、充実した展覧会の開催や研究活用が見込まれる。また、たとえばKADOKAWA本社も所蔵してない大映時代の資料が調布市郷土博物館で発見され、大映京都撮影所の空撮パネルが角川大映スタジオ（旧・大映東京撮影所）で発見され、さらに大映東京撮影所の空撮パネルが調布市郷土博物館で発見されたことからもわかるように、映画資料は時がたつにつれて作成した会社や使用した個人のもとを離れ、別の場所で保管されていることも多い。それらの各映画資料を横断的に検索できる方法が今後確立すれば、資料へアクセスするまでの調査時間は大幅に短縮できるだろう。

今回の現地調査から見えてきた課題は、各館が所蔵している映画資料の資料価値を評価する専門スタッフの必要性である。調布市立中央図書館と調布市郷土博物館にとって、映画資料はあくまで膨大に収蔵する郷土資料のなかのひとつとして収蔵されていることが多く、映画史的な資料の価値を本格的に検討する機会がこれまで少なかった。本事業の調査時には日本映画史研究者も同行し、各館の映画資料の資料的価値を各館担当者に

伝えることができた。各館の郷土資料に映画史的な価値があらたに付加されることによって、今後それらの映画資料の利活用が促進されることは間違いない。その点で、本事業における所在調査は大きな成果を上げたといえる。そして今後も、全国の各資料館や図書館などに収蔵されている映画資料の映画史的価値を発見し、伝えていく活動を継続・発展させる必要もあるだろう。

そしてさらに重要なのは、今後貴重な映画資料が散逸したり廃棄されたりしないために、映画資料を大切に保存していくことの大切さを広く訴えていくことである。特に映画制作時に各スタッフによって使用された資料は、そのスタッフが亡くなると廃棄されてしまうことが多い。映画製作会社や関連団体、OB団体を通じて、大切に保管されてきたそれらの資料は貴重な歴史資料であり、それらを各種専門機関へ寄贈する選択肢があることを伝える機会が必要であろう。

### 2）映画資料のデータベース化とその活用

映画資料を活用するためには、どの機関にどのような資料があるかを瞬時に把握できるような横断的データベースを使うことがもっとも効果的である。本事業では複数の資料館で独自に構築されてきたデータベースを統合して横断的な資料検索がどのくらい実現可能なのかについて、東映太秦映画村のデータベースと松竹大谷図書館のデータベースのシステムを比較検証してきた。今年度は実際にそれら二つのデータを統合した「映画資料所在地情報検索システム（JFROL（ジェイエフロール））」を試験的にインターネット上に限定公開し、そこからどのような資料の発見や資料同士の連関が生まれてくるのかを実証実験しようと計画した。JFROL は期間限定で一部の映画資料にサムネイル画像が文字情報に付加されており、文字情報だけでは判別できない資料の特徴をインターネット上で判別できるようにしている（たとえば同一作品における異なるバージョンのデザインのポスターをすぐに画像で見分けることができた）が、これは非常に便利で効率的な資料調査や比較作業が行えるすぐれた機能である。現時点では東映太秦映画村と松竹大谷図書館の 2 館のみが参加しているが、今後は他の資料館や図書館、アーカイブなどのデータと連携させることができればより効果を発揮するデータベースになるだろう。

ただデータベース統合実験のプロセスのなかでいくつかの課題も見えてきた。一つ目は各機関が使用しているデータベースのシステムがそれぞれバラバラで、JFROL に統合させるのは相当高度な技術的課題が立ちはだかることが予測される。もうひとつは、映画資料を所蔵する図書館や資料館などには映画資料に詳しい専門職員がいない場合が多いため、JFROL に資料データを公開して共有した場合、資料についての利用者からの問い合わせに苦労したり、利活用時に発生する手続きなどの負担が増える可能性があるため、JFROL での公開を見送るケースが懸念される。これらの点については、JFROL に参加しやすい機関には参加を促すと同時に、いくつかのハードルがある場合は別の形式でのデータの共有（ネット公開はせずに、各関連機関同士が相互に閲覧できるデータを提供する）が実現すれば、現時点でのベターな落としどころになるかもしれない。また映画資料を評価する専門的知識をもったスタッフがいない機関に対しては、映画研究者や映像アーキビストたちの協力を経て実施調査をしてもらい、調査結果を所蔵館に提供するという相互協力の体制を生み出すことも必要であろう。

### 3）映画資料に関係する各種機関のネットワーク構築

これまで映画資料を所蔵する日本の各種機関の情報としてもっとも網羅的にまとめられたのは、2015 年に国立映画アーカイブが発行した「全国映画資料館録 2015」であった。この 2015 年版には計 50 館の映画資料を所蔵する機関の情報が網羅されていたが、今年度は国立映画アーカイブと VIPO が共同で編集し、最新版の「全国映画資料館録 2020」が作成された。2015 年版に掲載された機関のうち 6 機関は閉館や休館してしまったが、今回の調査と依頼活動によって、総計 68 館にまで収録件数を増大させることができた。拡大できた理由のひとつは、今年度資料調査をおこなった調布市立中央図書館のような公立図書館や各地の文学館の映画資料状況を追加できたためである。これは過去 3 年に渡って実施した「全国映画資料アーカイブサミット」をは

じめとする普及活動を通じて構築した人的ネットワークのおかげで、全国各地の各種機関に収蔵されている映画資料の存在が続々と確認できたためである。今後はさらに積極的に現像所やポストプロダクション関連の企業、そして大学などへのコンタクトを取り、映画資料の収蔵情況を確認すれば、さらに掲載館を増加させることができるはずである。

**4）映画資料の魅力発信**

今回は2）で完成したJFROLのデータベースを駆使して、どのような魅力的な映画資料の展覧会を企画できるのかという“キュレーション実験”を計画し、その成果を「映画のまち調布　シネマフェスティバル2021」（2021年2月5日から28日開催）と事業提携し、会場内で展示する予定であったが、新型コロナウィルスの蔓延のため展示は中止とせざるをえなかった。ただし資料の選定や組み合わせ作業はすでにほぼ完了しているので、今後展示の機会が見つかれば実施したい企画である。

もうひとつの普及活動は、オンラインで実施された「全国映画資料アーカイブサミット2021」の開催である。オンラインで実施したことによって、参加者同士が直接コミュニケーションをとって交流する機会は失われてしまった一方で全国各地から参加希望者が申し込み、過去最大の200名が当日参加する大きなイベントとなった。第1部「映画資料の魅力～映画宣材は如何にして生まれるか？」ではタイトルの通り、元松竹の宣伝部長だった幸田順平氏がポスターやプレス資料が生まれるときの苦労や逸話をふんだんに紹介することによって、映画資料の存在がより身近なものになり、映画資料を見るときの楽しみ方を教えてくれる魅力的なものとなった。また第4部「映画資料のアーカイブと公開に関する権利処理と最新動向」では、弁護士の福井健策氏によって、映画作品の著作権の基礎から、映画資料の利活用に関する最新の動きまで、非常にわかりやすく説明してくれる啓蒙的なものであり、本事業の今後の活動の可能性を法的に根拠づけてくれるものとなった。参加者のなかにはIPホルダーや映画資料の所蔵機関の担当者も多く、多くの参加者にとって有益で実践的な内容だったに違いない。このように映画資料の魅力を広く発信する普及イベントの重要さを再確認するとともに、映画資料を所蔵する各界の関係者にとって実践的な情報と意見交換の場も求められていることが明確になった。

**最後に**

以上、本年度の活動内容を四つの面から振り返り、その達成した成果の意義を今後の課題を確認してきた。3年間で本事業が蓄積した成果は、どれも今後さらに発展・深化していく基盤となるものであり、映画資料の発見、データベース化、利活用というサイクルの原型が構築されたといってよいだろう。アーカイブサミットのアンケートからわかることは、まだ全国にたくさんの映画資料所蔵者がおり、様々な課題をかかえながらも所蔵資料の有意義な活用と公開を望んでいる点である。本事業でそれらの課題すべてをクリアにすることはできなかったが、今後もし同様の事業が別の形で推進されるのであれば、本事業で構築した人的なネットワークという基盤がすぐに機能しはじめてスピーディーに各事業が発展していくに違いない。そのような未来が訪れることを期待しつつ、本事業の総括を終わりたい。

最後に、3年にわたって映画資料の現場の最前線で他機関と交渉し、調査し、確実に成果を生み出してきた本事業のVIPOのスタッフと、協力してくださった撮影所や図書館、資料館のスタッフの皆さん、そして検討委員会の委員のみなさまが映画資料を語るときの熱い情熱に、心より敬意を表したいと思います。

**板倉史明（神戸大学大学院　国際文化研究科　准教授）**

令和２年度文化庁委託事業

# 「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」

## （撮影所等における映画関連の非フィルム資料）

# 報告書


発行日　：令和3年3月31 日
発行　：特定非営利活動法人映像産業振興機構
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル２階
構成　：Pepper C.
デザイン　：86Graphics
調査監修・資料詳細執筆：佐崎 順昭（日本映画史研究者／国立映画アーカイブ客員研究員）
監 修　：板倉 史明（神戸大学大学院 国際文化学研究科 准教授）



非売品
不許複製　禁無断転載
©VIPO


本報告書は、文化庁委託業務として、特定非営利活動法人映像産業振興機構が実施した令和2年度「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」（撮影所等における映画関連の非フィルム資料）の成果をとりまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用などには文化庁の承認手続きが必要です。